

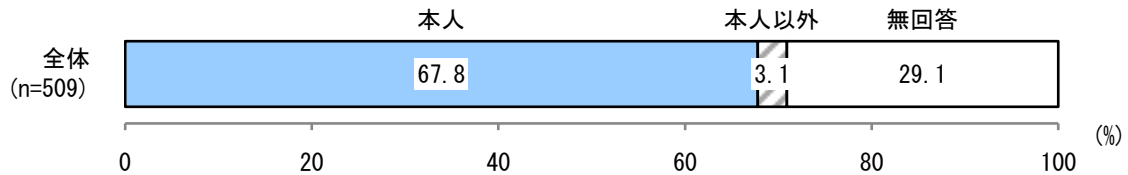
第3章 若年者調査の結果

1 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

問 調査票を記入される方をお教えてください。〈あてはまる方に○を付けてください。〉

【図 1-1 調査票の記入者】

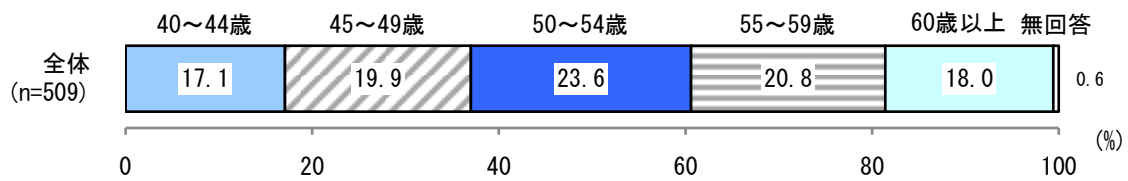


調査票の記入者は、「本人」が67.8%、「本人以外」が3.1%となっています。(図1-1)

(2) 年齢

問1. あなた(あて名の御本人。以下の問も同じです。)の年齢をお教えてください。〈○は1つ〉

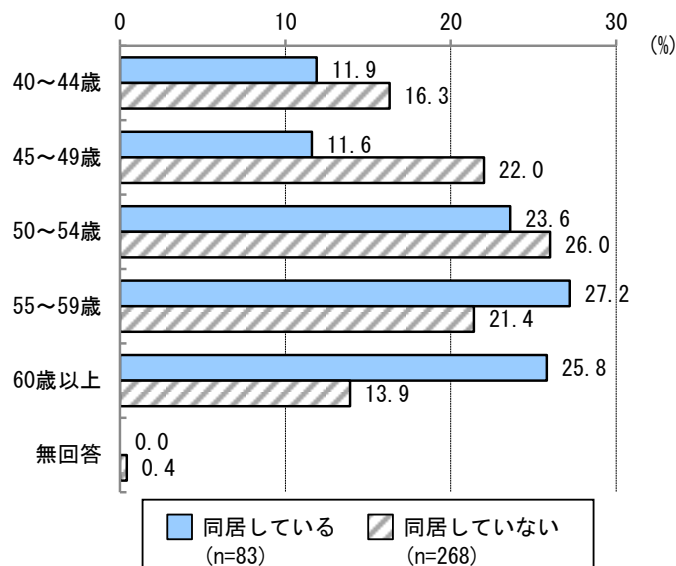
【図 1-2 年齢】



回答者の年齢は、「50~54歳」が23.6%で最も多く、次いで「55~59歳」が20.8%、「45~49歳」が19.9%となっています。(図1-2)

介護を受けている人との同居の状況別で見ると、同居している人では「55~59歳」が27.2%で最も多く、次いで「60歳以上」が25.8%、「50~54歳」が23.6%となっており、同居していない人では「50~54歳」が26.0%で最も多く、次いで「45~49歳」が22.0%、「55~59歳」が21.4%となっています。(図1-2-1)

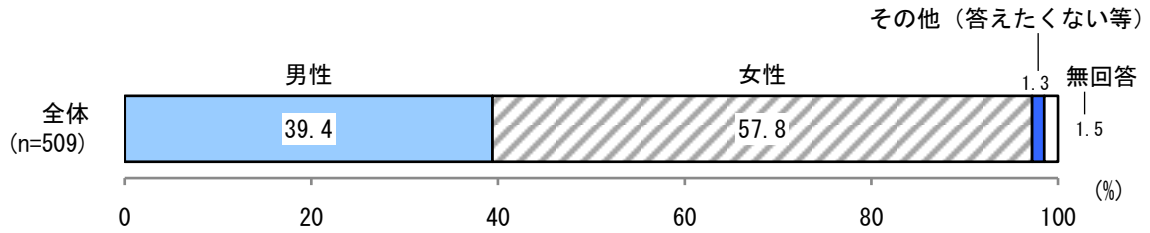
【図 1-2-1 介護を受けている人との同居の状況別 年齢】



(3) 性別

問2. あなたの性別をお教えてください。<○は1つ>

【図1-3 性別】

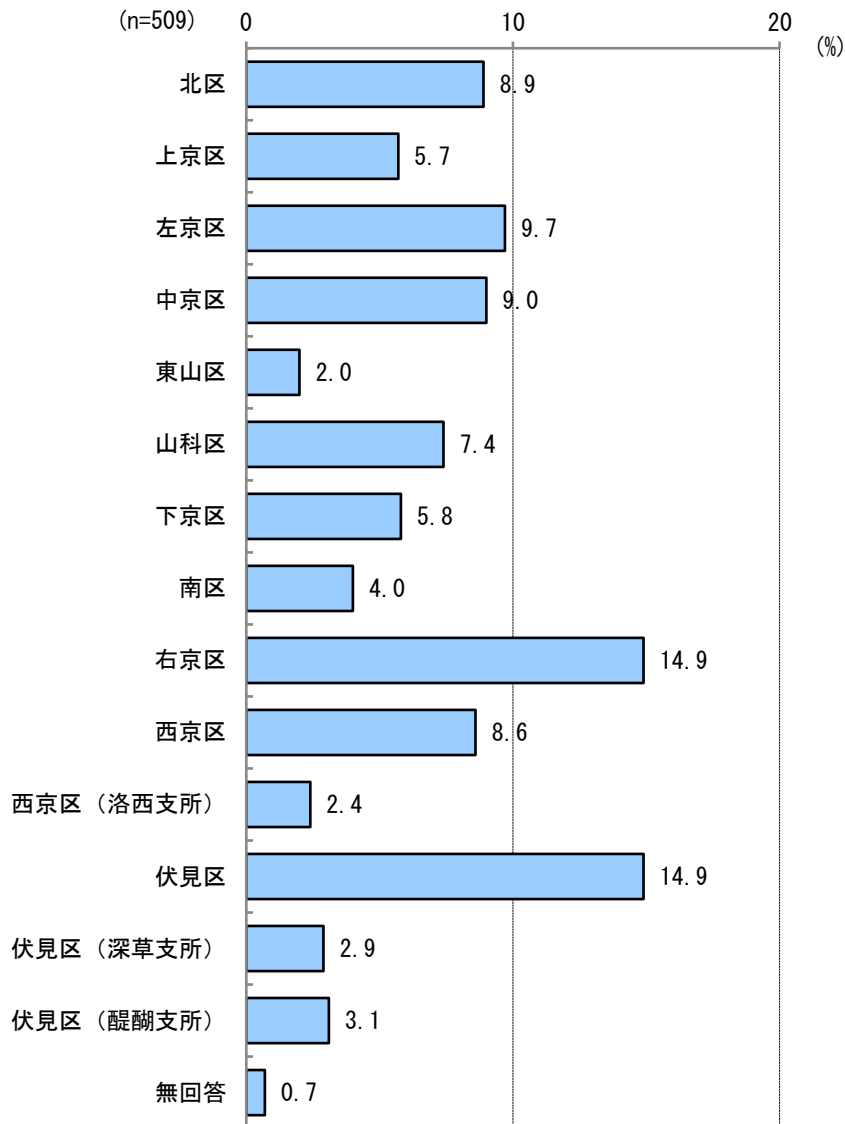


回答者の性別は、「男性」が39.4%、「女性」が57.8%となっています。(図1-3)

(4) 居住区・支所

問3. あなたがお住まいの区・支所をお教えてください。<○は1つ>

【図1-4 居住区・支所】

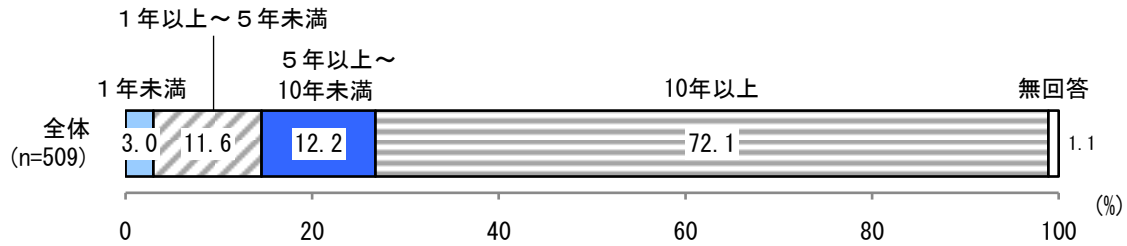


回答者の居住区・支所は、「右京区」と「伏見区」がそれぞれ14.9%で最も多く、次いで「左京区」が9.7%、「中京区」が9.0%、「北区」が8.9%となっています。(図1-4)

(5) 居住年数

問4. あなたは現在の地域（学区）に何年お住まいですか。＜○は1つ＞

【図1-5 居住年数】

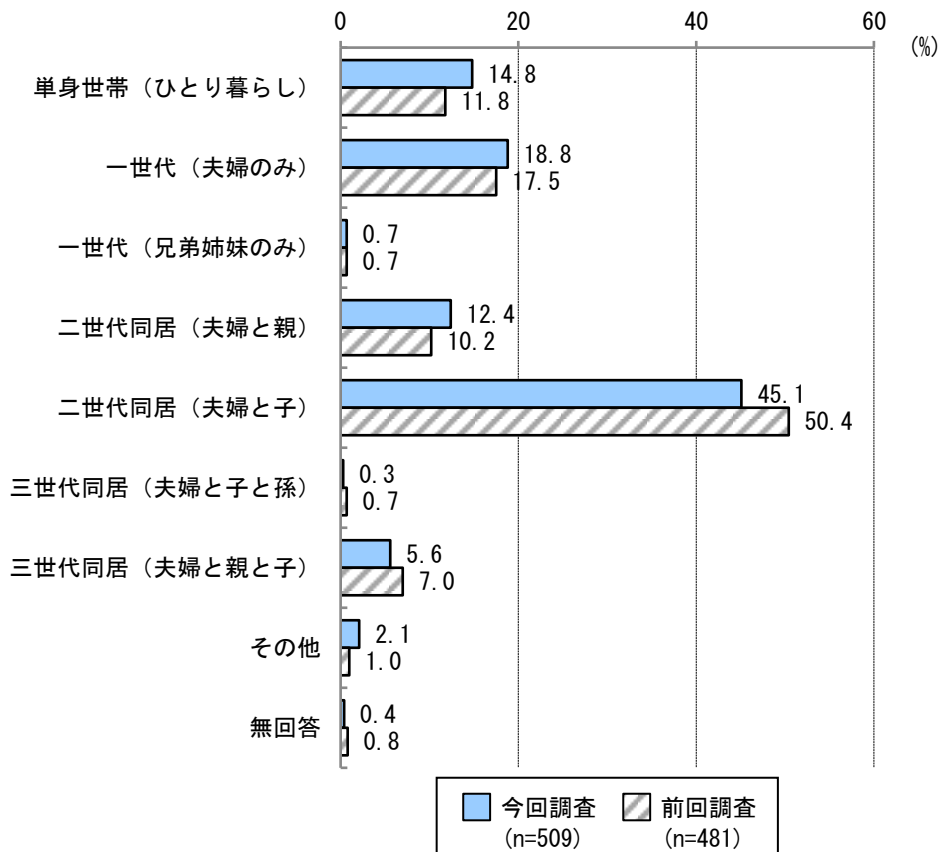


回答者の居住年数は、「10年以上」が72.1%で最も多く、次いで「5年以上～10年未満」が12.2%、「1年以上～5年未満」が11.6%となっています。（図1-5）

(6) 家族構成

問5. あなたの同居者（家族）の構成をお教えてください。＜○は1つ＞

【図1-6 家族構成】



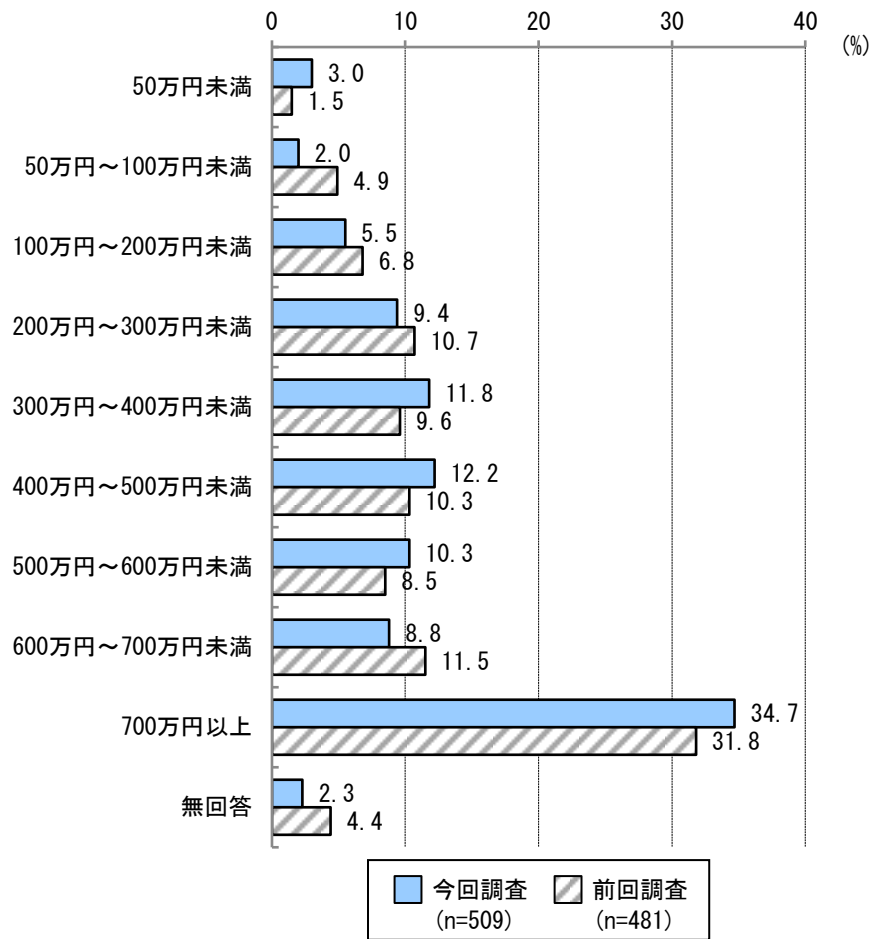
回答者の家族構成は、「二世世代同居（夫婦と子）」が45.1%で最も多く、次いで「一世代（夫婦のみ）」が18.8%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が14.8%となっています。

前回調査と比較すると、「二世世代同居（夫婦と子）」が5.3ポイント低くなっており、「単身世帯（ひとり暮らし）」が3.0ポイント高くなっています。（図1-6）

(7) 世帯の年間総収入

問6. あなたの世帯の年間総収入（年金収入を含む。税込）はどのくらいですか。〈○は1つ〉

【図1-7 世帯の年間総収入】

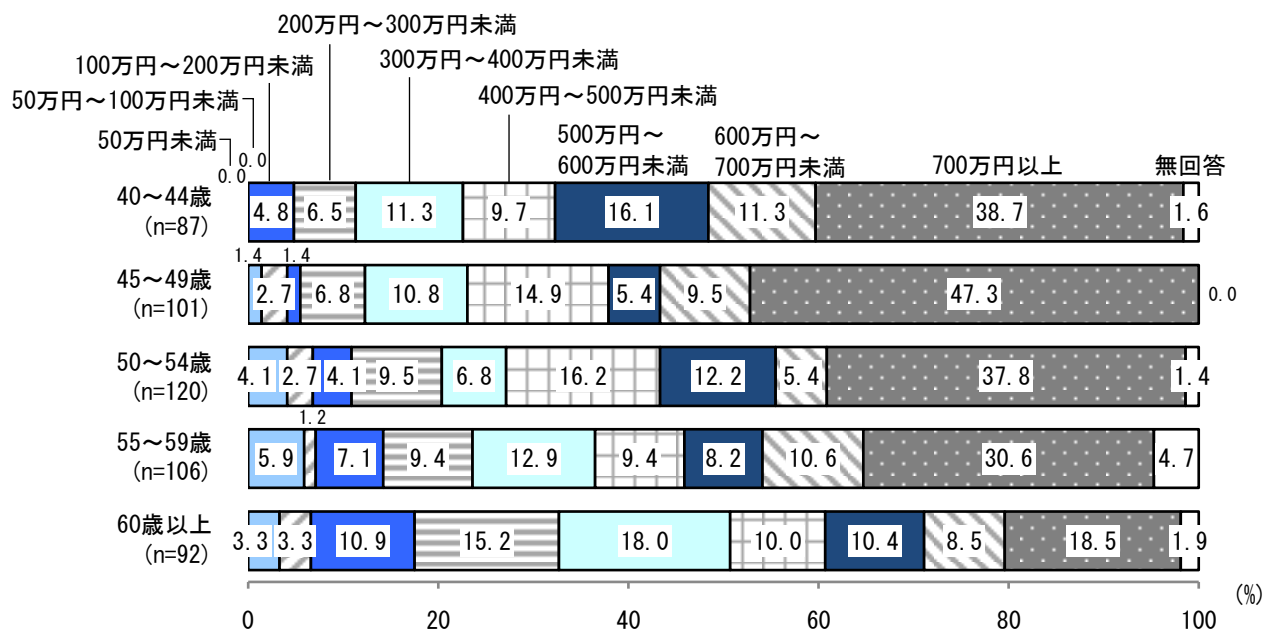


世帯の年間総収入については、「700万円以上」が34.7%で最も多く、次いで「400万円～500万円未満」が12.2%、「300万円～400万円未満」が11.8%となっています。

前回調査と比較すると、「700万円以上」が2.9ポイント高くなっています。一方、「50万円～100万円未満」は2.9ポイント、「600万円～700万円未満」は2.7ポイント低くなっています。(図1-7)

年齢別でみると、いずれの年代も「700万円以上」が最も多く、45～49歳が47.3%と最も高い割合になっています。一方、『300万円未満』の割合は、60歳以上が32.7%で最も高く、年代が上がるほど割合が高くなっています。(図1-7-1)

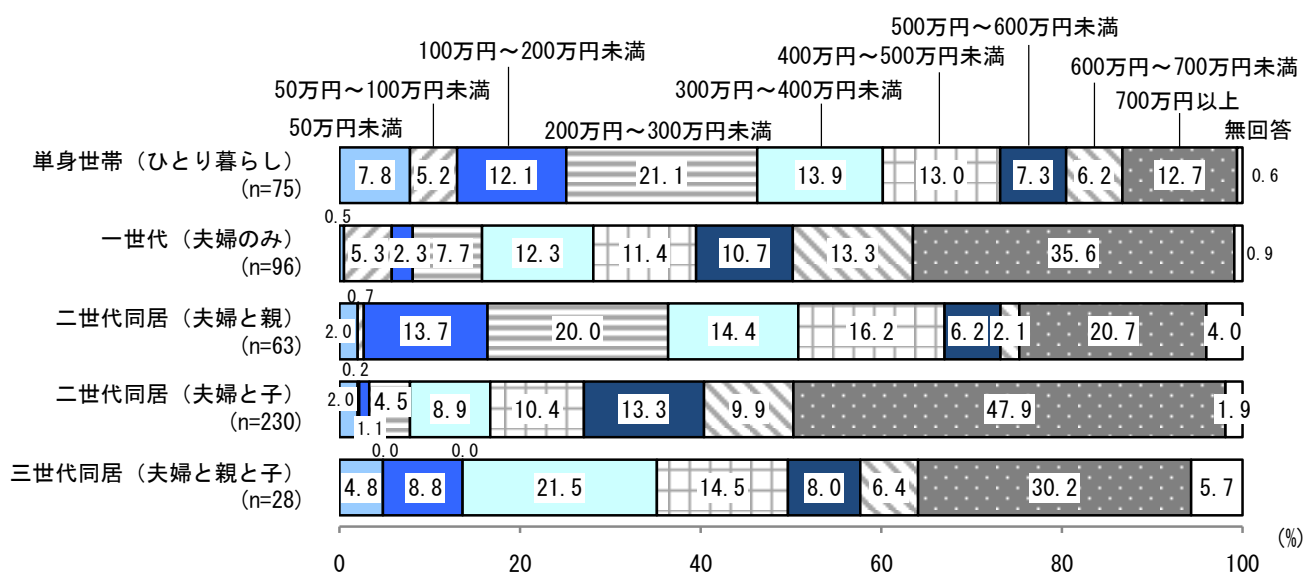
【図1-7-1 年齢別 世帯の年間総収入】



家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）は「200万円～300万円未満」（21.1%）が最も多くなっており、『300万円未満』の割合は46.2%と高い割合となっています。

一方、一世代（夫婦のみ）や二世帯同居（夫婦と親、夫婦と子）、三世帯同居（夫婦と親と子）は「700万円以上」が最も多く、二世帯同居（夫婦と子）が47.9%で最も高くなっています。(図1-7-2)

【図1-7-2 家族構成別 世帯の年間総収入】

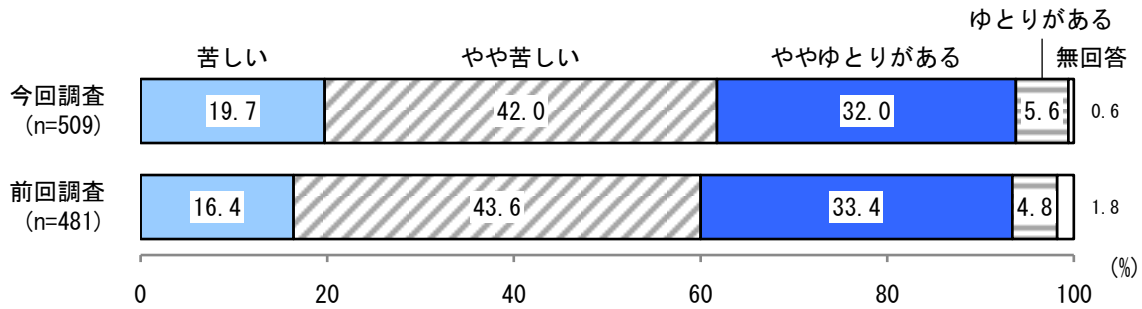


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(8) 経済状況

問7. あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。〈○は1つ〉

【図1-8 経済状況】

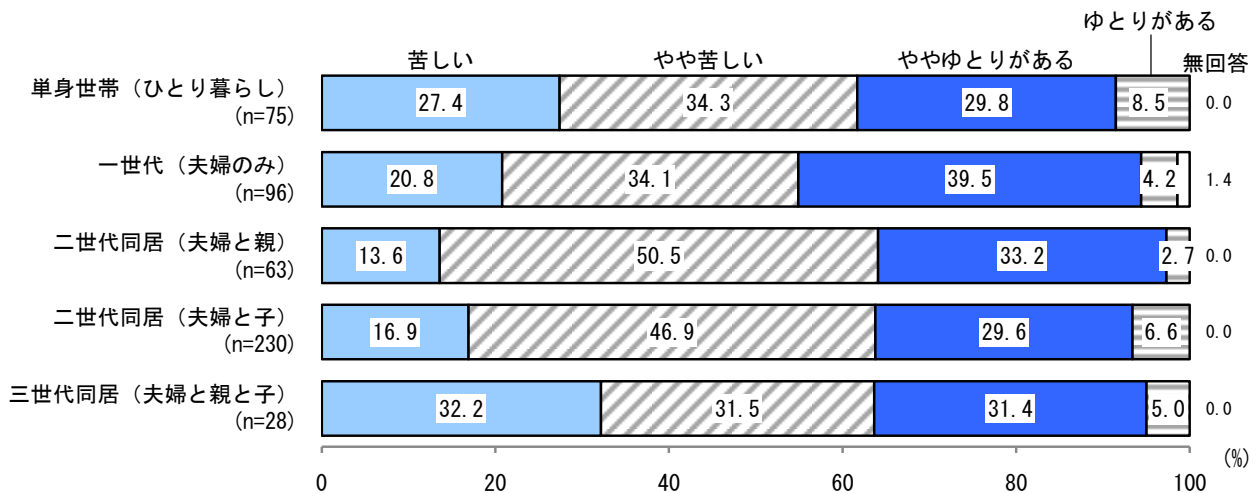


経済的にみた現在の暮らしの状況については、「やや苦しい」が42.0%で最も多く、次いで「ややゆとりがある」が32.0%、「苦しい」が19.7%となっています。「苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』割合は61.7%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図1-8)

家族構成別でみると、いずれの世帯も『苦しい』割合が5割以上となっており、二世帯同居(夫婦と親)が64.1%で最も高くなっています。一方、「ややゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』割合では、一世代(夫婦のみ)が43.7%と他の世帯と比べて高い割合になっています。(図1-8-1)

【図1-8-1 家族構成別 経済状況】



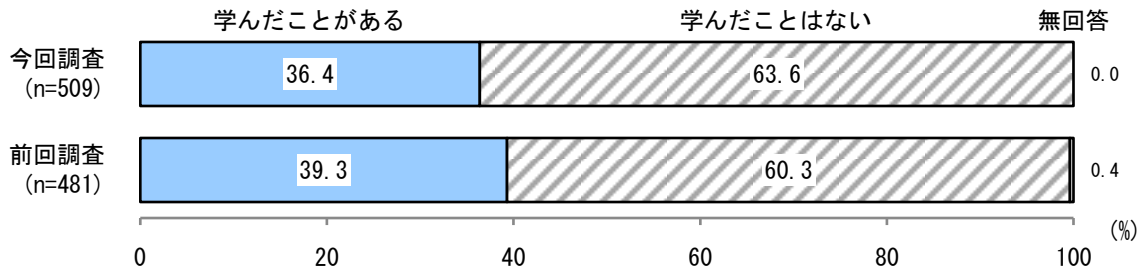
※「一世代(兄弟姉妹のみ)」「三世帯同居(夫婦と子と孫)」「その他」の母数(n=11未満)は少ないので割愛します。

2 介護・介助に対する意識等について

(1) 認知症の症状や対応等について学んだ経験

問8. あなたは認知症（若年性認知症含む）の症状や認知症の方への対応等について学んだことがありますか。〈○は1つ〉

【図 2-1 認知症の症状や対応等について学んだ経験】



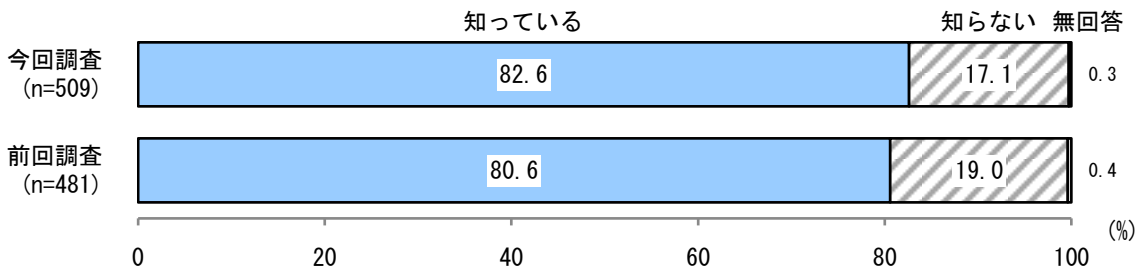
認知症の症状や認知症の方への対応等について学んだことがあるかについては、「学んだことがある」が36.4%、「学んだことはない」が63.6%となっています。

前回調査と比較すると、「学んだことはない」が3.3ポイント高くなっています。(図2-1)

(2) 若年性認知症の認知有無

問9. あなたは65歳以下で発症する認知症である「若年性認知症」について知っていますか。〈○は1つ〉

【図 2-2 若年性認知症の認知有無】



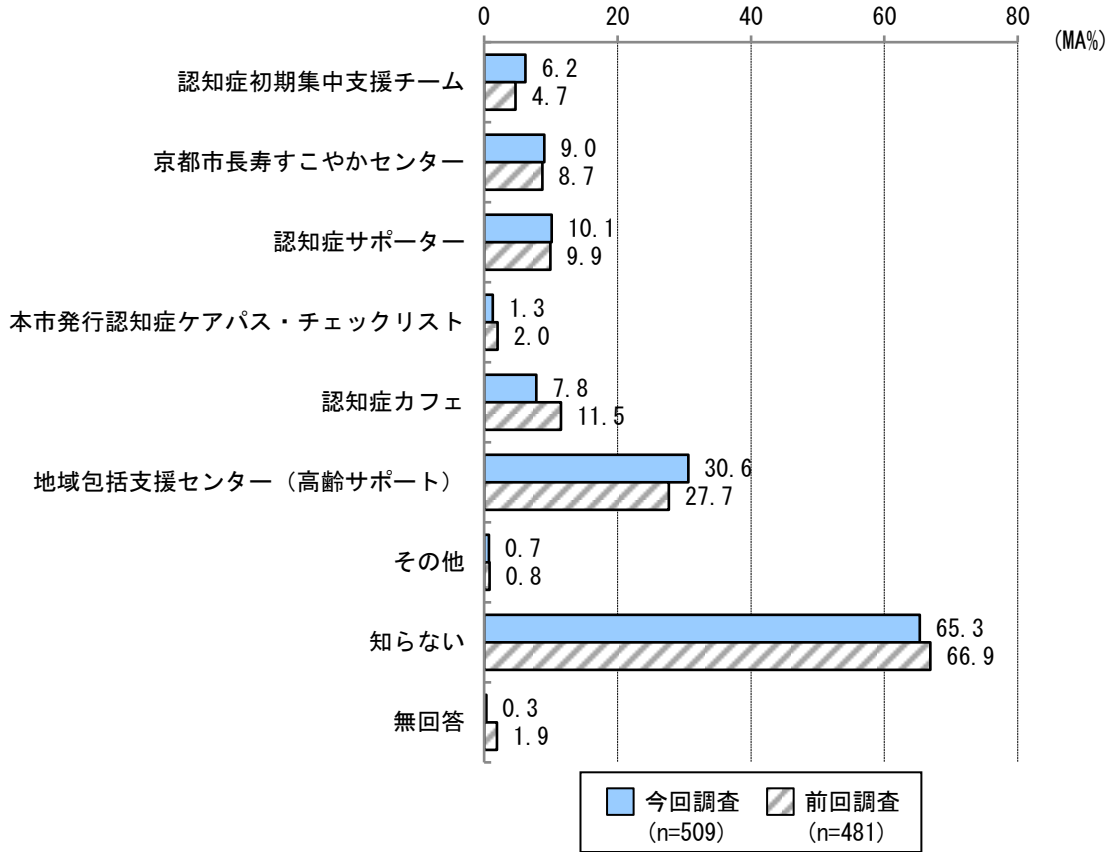
若年性認知症を知っているかについては、「知っている」が82.6%、「知らない」が17.1%となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」が2.0ポイント高くなっています。(図2-2)

(3) 若年性認知症の相談窓口で知っている支援機関や取組

問10. あなたは若年性認知症の方の相談窓口や、支援機関、取組について知っていますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図 2-3 若年性認知症の相談窓口で知っている支援機関や取組】



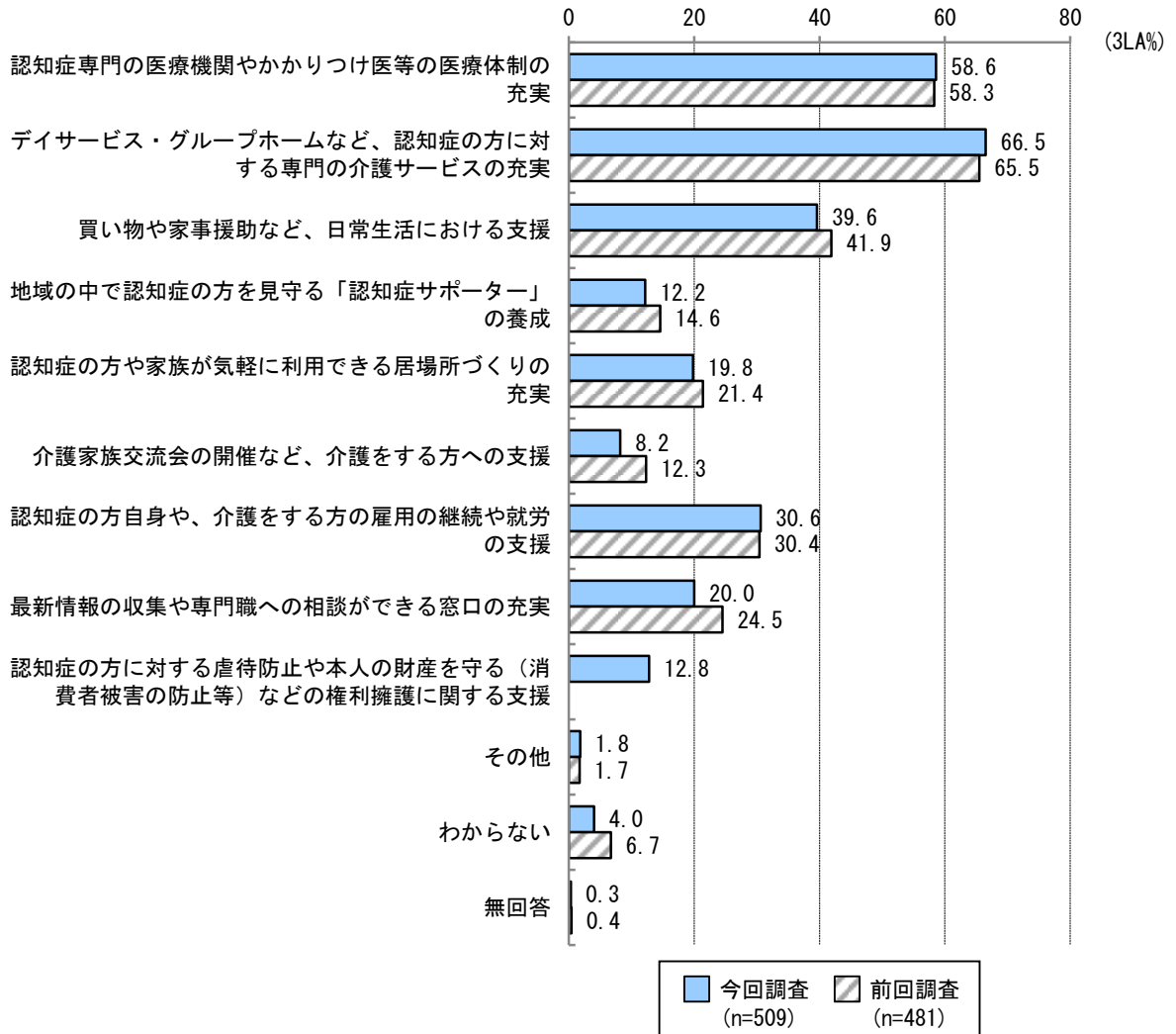
若年性認知症の相談窓口で知っている支援機関や取組については、「知らない」が65.3%で最も多くなっています。知っている人では、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が30.6%で最も多く、次いで「認知症サポーター」が10.1%、「京都市長寿すこやかセンター」が9.0%となっています。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が2.9ポイント高くなっています。（図2-3）

(4) 家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援

問11. あなたやあなたの家族が認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。
 <〇は3つまで>

【図 2-4 家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援】



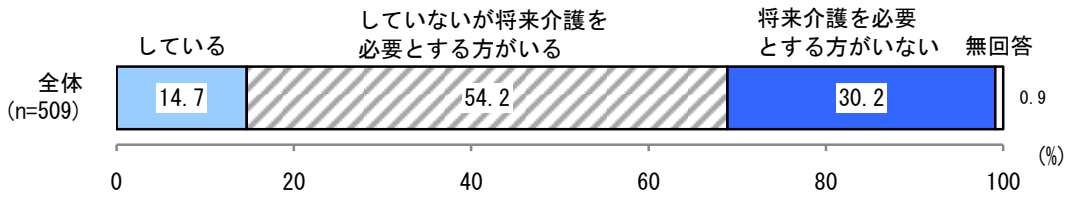
家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援については、「デイサービス・グループホームなど、認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が66.5%で最も多く、次いで「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が58.6%、「買い物や家事援助など、日常生活における支援」が39.6%となっています。

前回調査と比較すると、「最新情報の収集や専門職への相談ができる窓口の充実」が4.5ポイント、「介護家族交流会の開催など、介護をする方への支援」が4.1ポイント低くなっています。(図 2-4)

(5) 家族への介護有無

問12. あなたは、現在、家族の介護をしていますか。〈○は1つ〉

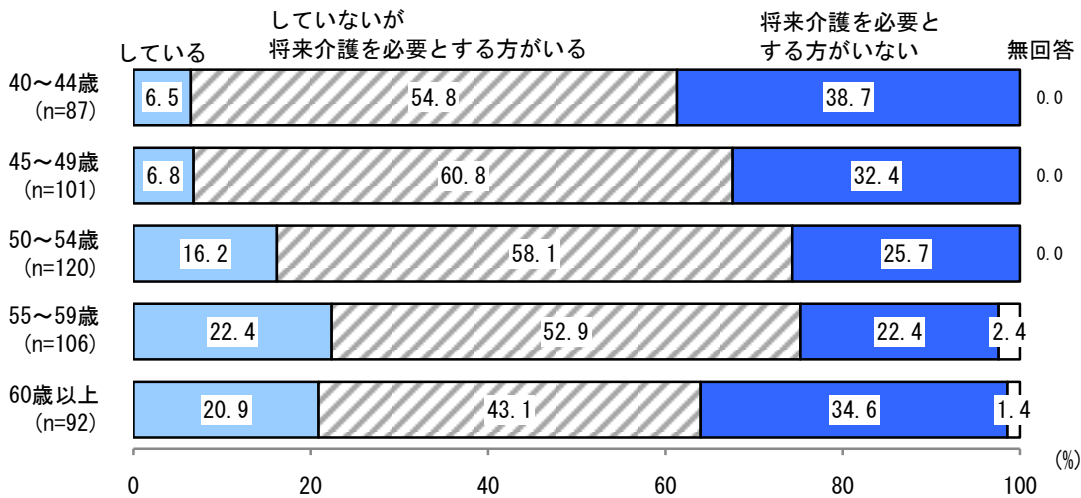
【図2-5 家族への介護有無】



現在、家族の介護をしているかについては、「していないが将来介護を必要とする方がいる」が54.2%で最も多く、次いで「将来介護を必要とする方がいない」が30.2%、「している」が14.7%となっています。(図2-5)

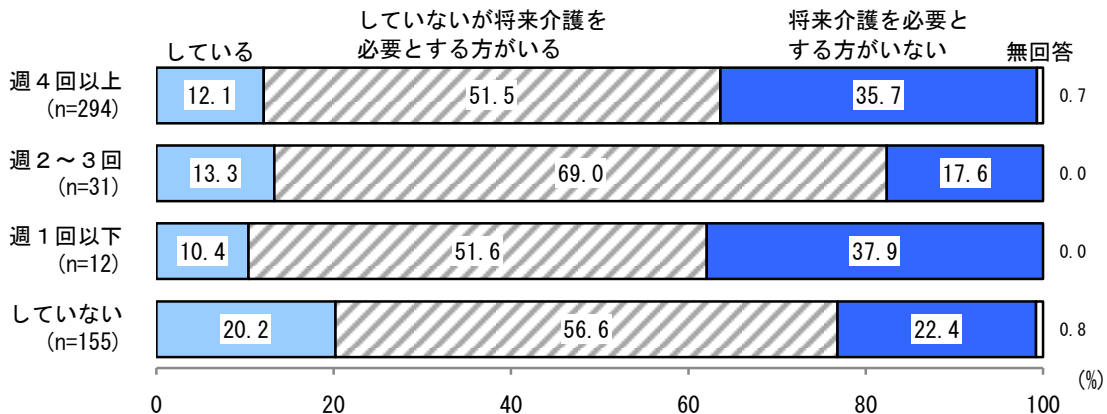
年齢別でみると、「(介護を)している」割合は、年代が上がるほど高く、55～59歳(22.4%)が最も高くなっています。(図2-5-1)

【図2-5-1 年齢別 家族への介護有無】



収入のある仕事の頻度別でみると、「(介護を)している」割合は、仕事をしていない人が20.2%で最も高く、次いで週2～3回仕事をしている人(13.3%)となっています。「していないが将来介護を必要とする方がいる」の割合は週2～3回仕事をしている人(69.0%)が最も高く、いずれも5割以上となっています。(図2-5-2)

【図2-5-2 収入のある仕事の頻度別 家族への介護有無】

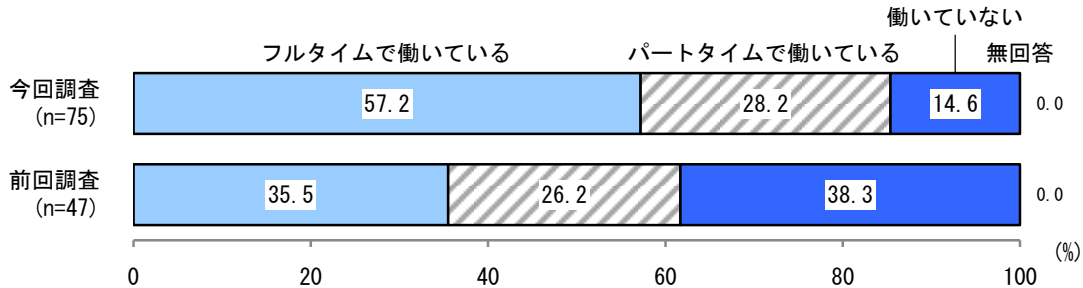


※『週1回以下』は「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後する気はない」の合計で、再集計しています。

(6) 介護者の勤務形態

問13. 問12で「1. している」と回答した方にお聞きします。
現在の勤務形態について、御回答ください。<○は1つ>

【図2-6 介護者の勤務形態】



家族の介護をしている人に勤務形態をたずねたところ、「フルタイムで働いている」が57.2%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が28.2%、「働いていない」が14.6%となっています。また、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』割合は85.4%となっています。

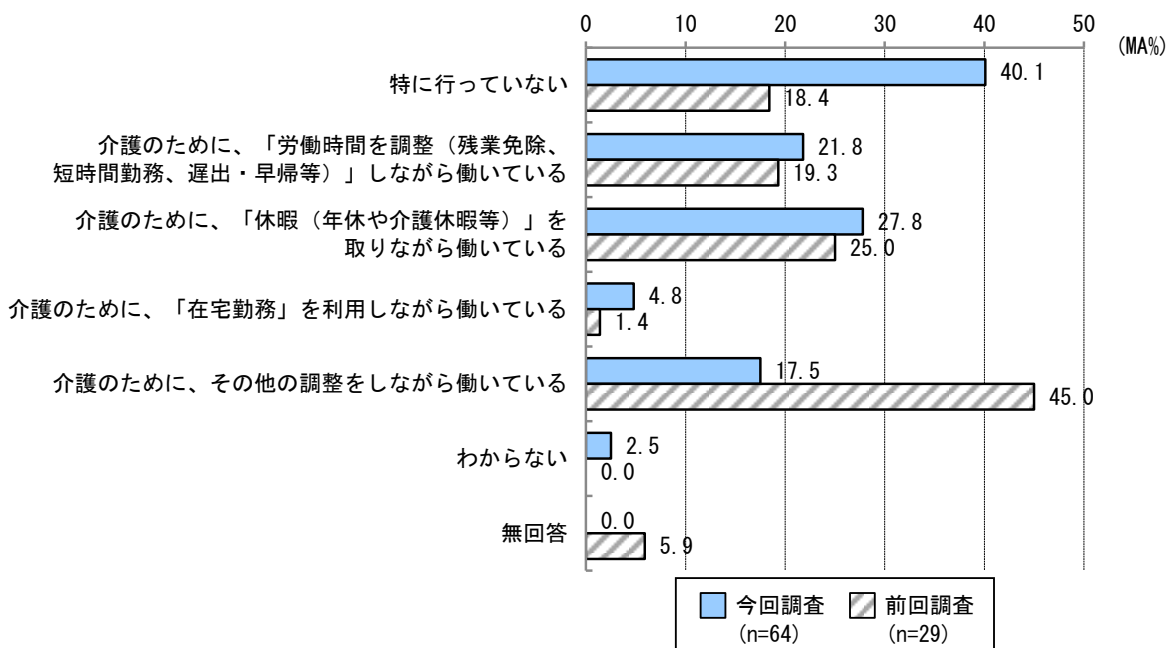
前回調査と比較すると、「フルタイムで働いている」が21.7ポイント高くなっており、「働いていない」が23.7ポイント低くなっています。(図2-6)

(7) 介護をするに当たっての働き方の調整等

問13-1. 問13で「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。

(1) 主な介護者の方は、介護をするに当たって、何か働き方についての調整等をしていますか。
<あてはまるものすべてに○>

【図2-7 介護をするに当たっての働き方の調整等】



介護をしながら働いていると回答した人に、介護をするに当たって、働き方についての調整等を行っているかをたずねたところ、「特に行っていない」が40.1%で最も多く、次いで「介護のため

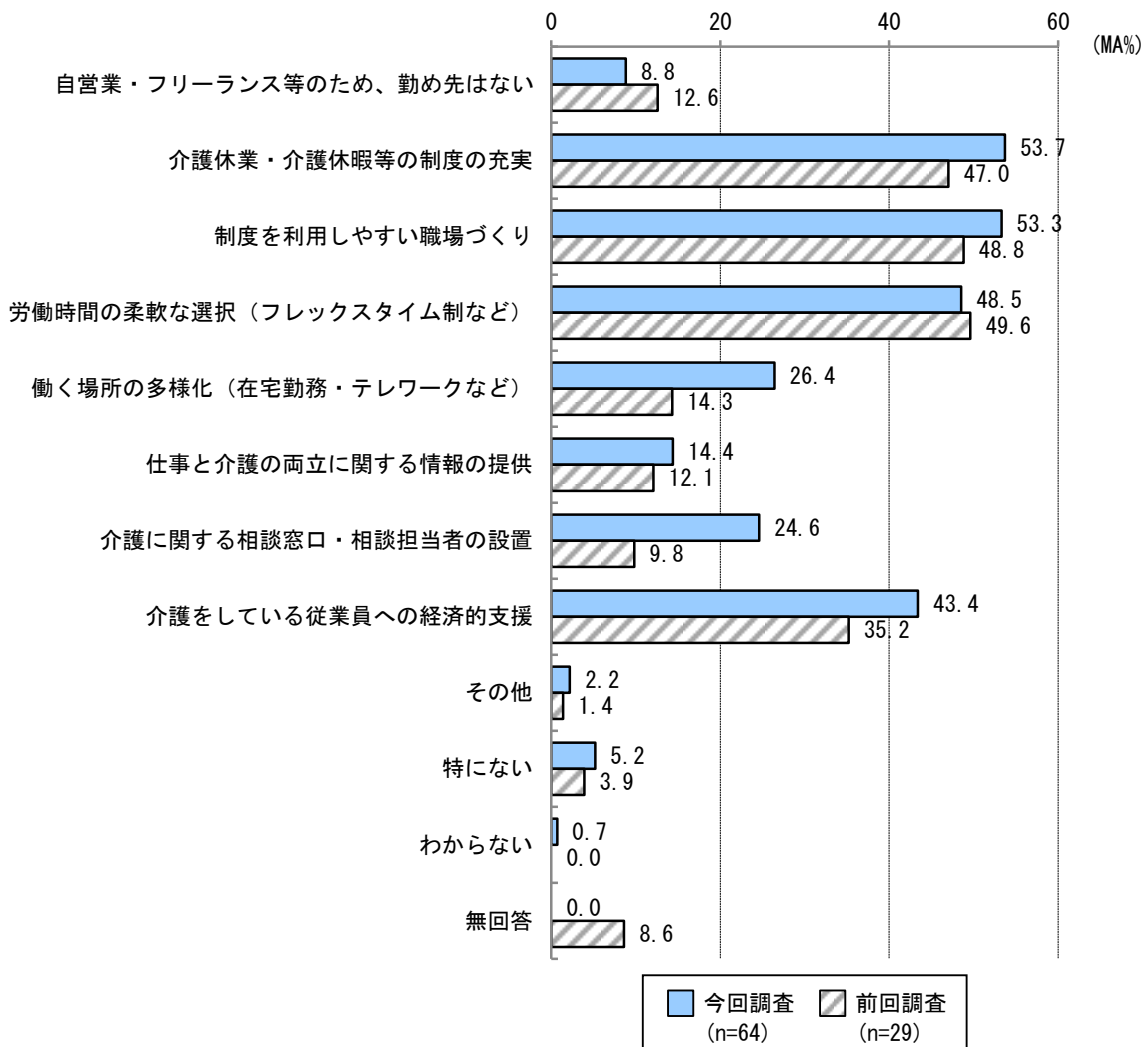
に、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている」が27.8%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰等）」しながら働いている」が21.8%となっています。

前回調査と比較すると、「特に行っていない」が21.7ポイント高くなっています。一方、「介護のために、その他の調整をしながら働いている」が27.5ポイント低くなっています。（図2-7）

（8）仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援

（2）主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図2-8 仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援】



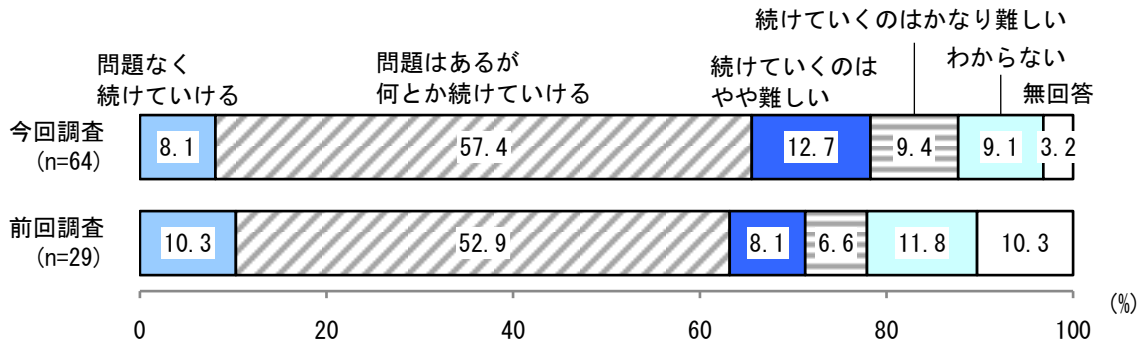
介護をしながら働いていると回答した人に、仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援をたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が53.7%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が53.3%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が48.5%、「介護をしている従業員への経済的支援」が43.4%となっています。

前回調査と比較すると、「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が14.8ポイント、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」が12.1ポイント、「介護をしている従業員への経済的支援」が8.2ポイント高くなっています。（図2-8）

(9) 今後も働きながら介護を続けていくこと

(3) 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。〈○は1つ〉

【図 2-9 今後も働きながら介護を続けていくこと】

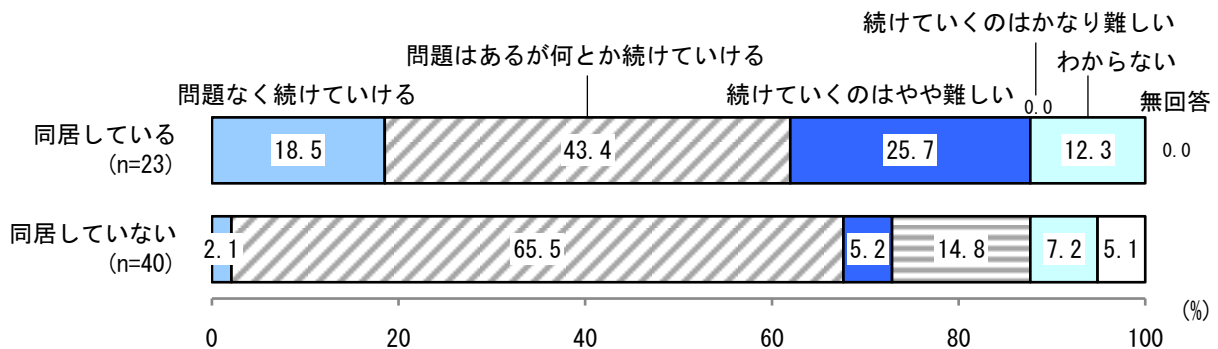


介護をしながら働いていると回答した人に、今後も働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「問題はあるが何とか続けていける」が57.4%で最も多く、次いで「続けていくのはやや難しい」が12.7%、「続けていくのはかなり難しい」が9.4%となっています。また、「問題なく続けていける」と「問題はあるが何とか続けていける」を合わせた『続けていける』割合は65.5%となっています。

前回調査と比較すると、「続けていくのはやや難しい」が4.6ポイント、「問題はあるが何とか続けていける」が4.5ポイント高くなっています。(図2-9)

介護を受けている人との同居有無別でみると、同居している人では「問題はあるが、何とか続けていける」が43.4%で最も多く、次いで「続けていくのはやや難しい」が25.7%となっており、『続けていける』割合は61.9%となっています。同居していない人では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.5%で最も多く、『続けていける』割合は67.6%となっています。(図2-9-1)

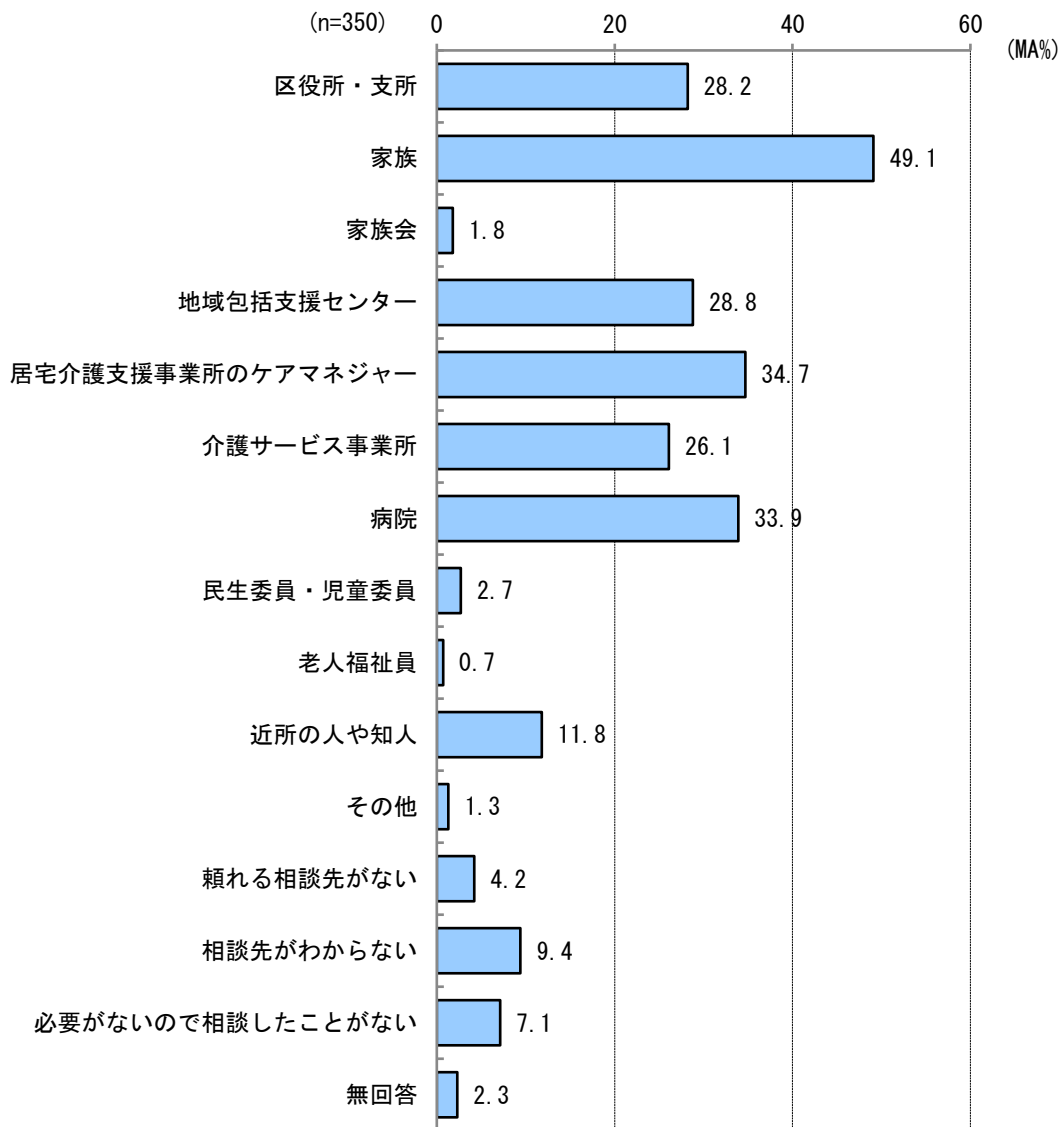
【図 2-9-1 介護を受けている人との同居の状況別 今後も働きながら介護を続けていくこと】



(10) 頼りにしている相談先

問14. 問12で「1. している」又は「2. していないが将来介護を必要とする方がいる」と回答した方にお聞きします。
あなたが頼りにしている相談先を教えてください。〈あてはまるものすべてに○〉

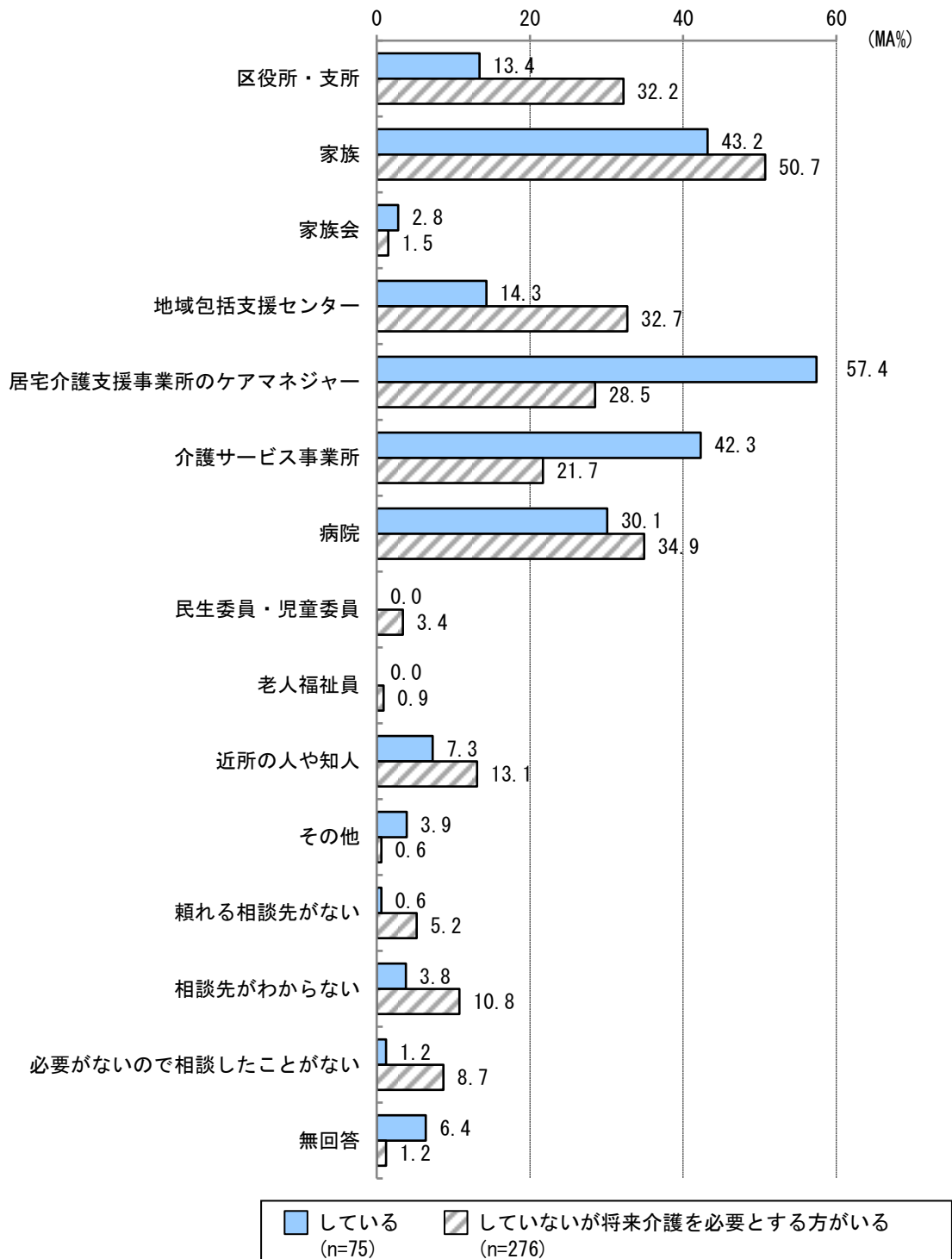
【図2-10 頼りにしている相談先】



介護をしている、または介護をしていないが将来介護を必要とする方がいると回答した人に、頼りにしている相談先についてたずねたところ、「家族」が49.1%で最も多く、次いで「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が34.7%、「病院」が33.9%となっています。(図2-10)

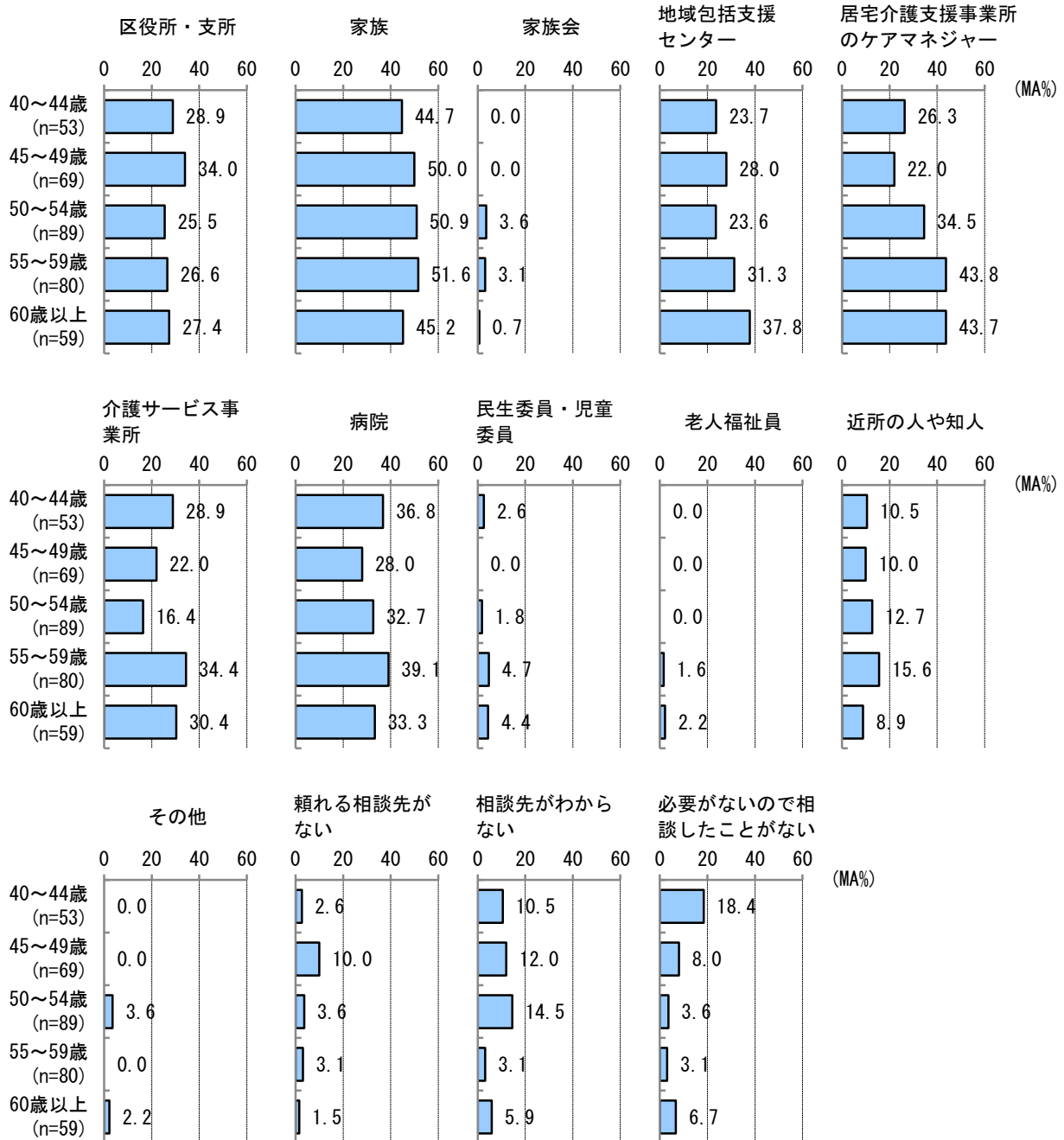
介護の状況別でみると、「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」と「介護サービス事業所」の割合は、現在介護をしていないが将来介護を必要とする人がいるに比べ、現在介護をしている人の方が20ポイント以上高く、「区役所・支所」「地域包括支援センター」の割合は、現在介護をしていないが将来介護を必要とする人がいるの方が18～19ポイント程度高くなっています。(図2-10-1)

図 2-10-1 介護の時期別 頼りにしている相談先】



年齢別でみると、「地域包括支援センター」と「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」の割合は55歳以上の年代で高く、「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」では4割台となっています。
(図2-10-2)

【図2-10-2 年齢別 頼りにしている相談先】

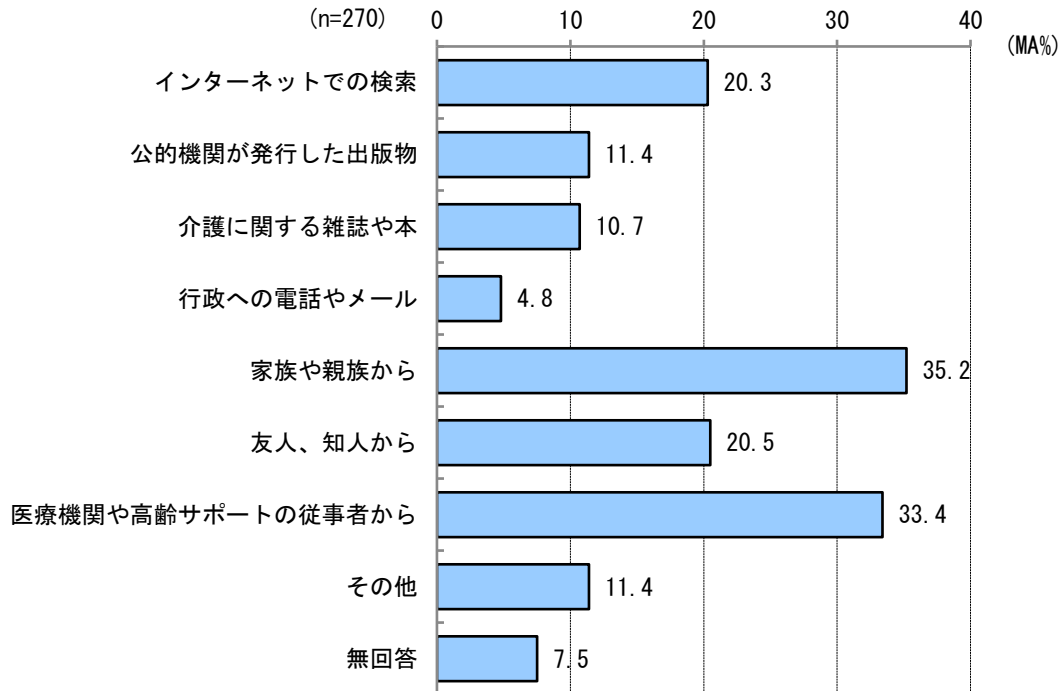


(11) 相談窓口の情報入手先

問14-1. 問14で「1」～「11」と回答した方にお聞きします。

その窓口の情報はどこから知りましたか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図2-11 相談窓口の情報入手先】

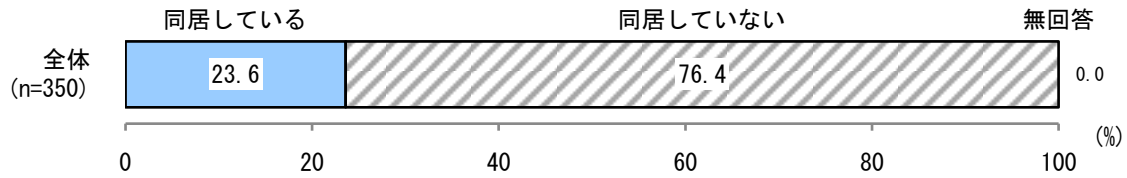


頼りにしている相談先を回答した人に、その相談窓口の情報の入手先をたずねたところ、「家族や親族から」が35.2%で最も多く、次いで「医療機関や高齢サポートの従事者から」が33.4%、「友人、知人から」が20.5%、「インターネットでの検索」が20.3%となっています。(図2-11)

(12) 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人との同居の状況

問15. 問12で「1. している」又は「2. していないが将来介護を必要とする方がいる」と回答した方にお聞きます。
あなたは、介護を受けている人と同居していますか。〈○は1つ〉

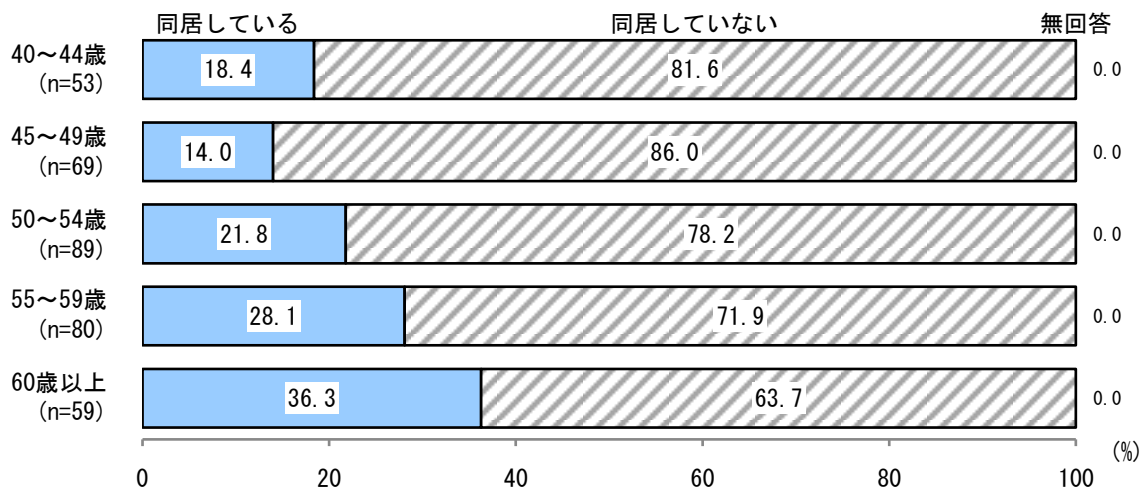
【図 2-12 介護を受けている人との同居の状況】



介護をしている人または、介護をしていないが将来介護を必要とする人がいると回答した人に、介護を受けている人または、将来介護を必要とする人との同居の状況についてたずねたところ、「同居している」が23.6%、「同居していない」が76.4%となっています。(図2-12)

年齢別でみると、「同居している」割合は45～49歳（14.0%）が最も低く、50歳以上は年代が上がるほど割合が高くなっています。(図2-12-1)

【図 2-12-1 年齢別 介護を受けている人との同居の状況】

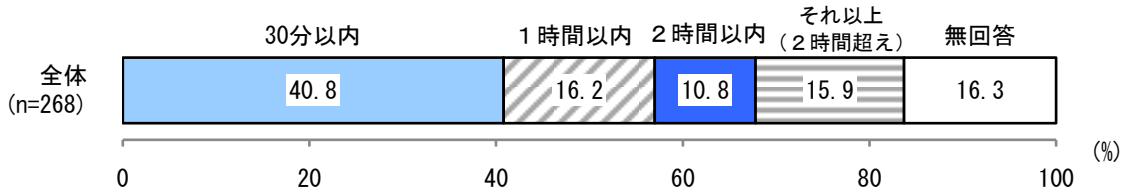


(13) 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動時間

問15-1. 問15で「2. 同居していない」と回答された方にお聞きします。

(1) 介護を受けている方または、将来介護を必要とする方が居住している家までの移動時間はどれくらいですか。〈○は1つ〉

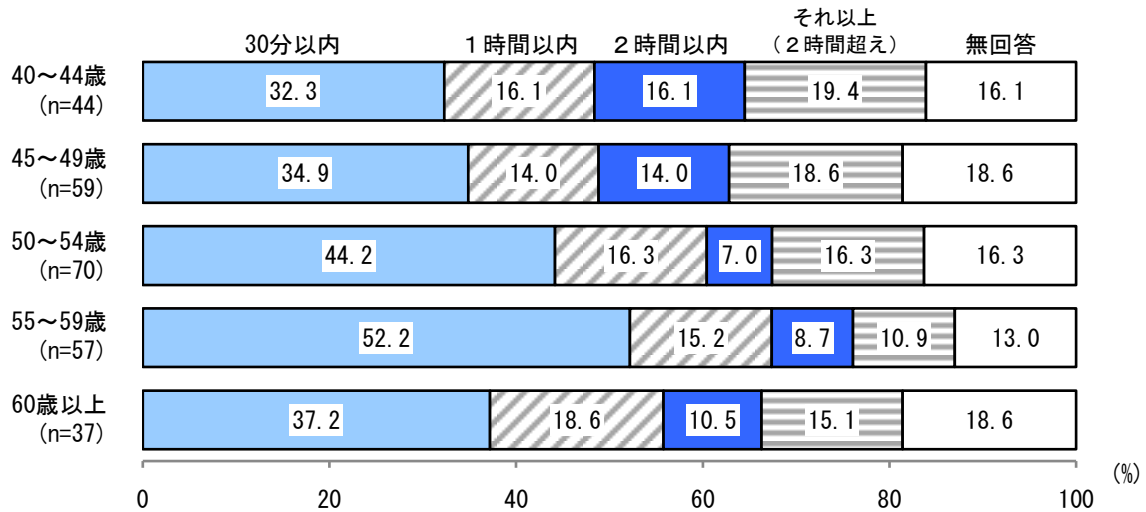
【図2-13 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動時間】



介護を受けている人または、将来介護を必要とする人と同居していないと回答した人に、介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動時間をたずねたところ、「30分以内」が40.8%で最も多く、次いで「1時間以内」が16.2%、「それ以上(2時間超え)」が15.9%となっています。(図2-13)

年齢別でみると、いずれの年代も「30分以内」が最も多くなっていますが、「2時間以内」、「それ以上(2時間超え)」の割合は40~44歳で最も高くなっています。(図2-13-1)

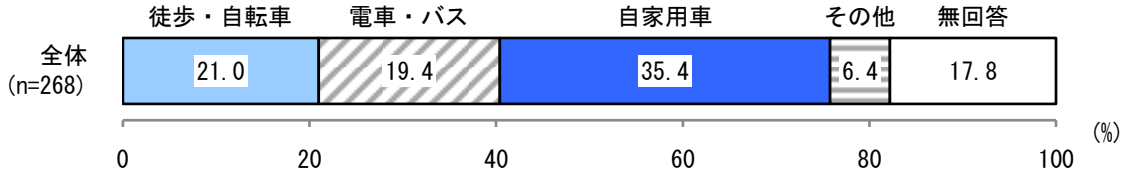
【図2-13-1 年齢別 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動時間】



(14) 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動手段

(2) 介護を受けている方または、将来介護を必要とする方が居住している家までの移動手段はどれですか。〈○は主なもの1つだけ〉

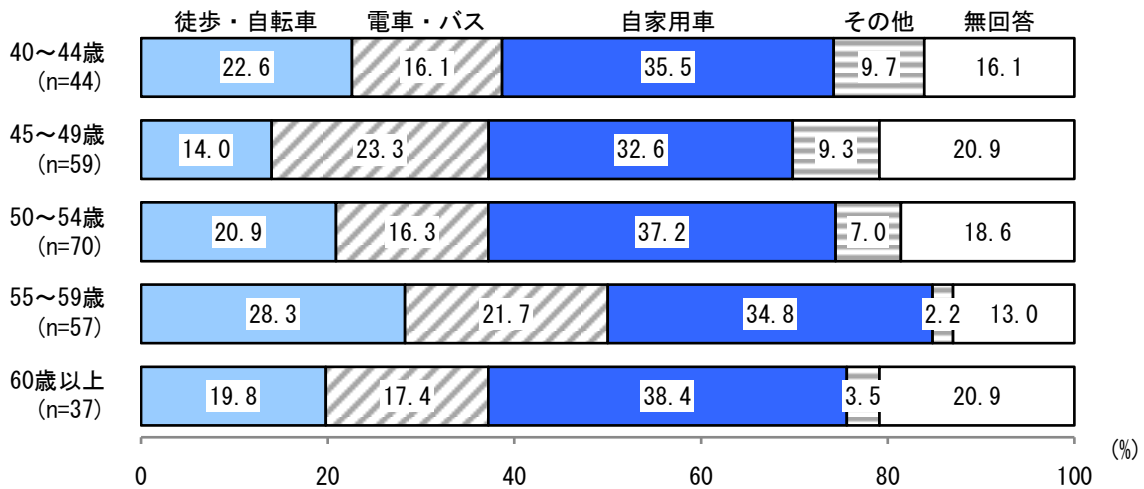
【図 2-14 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動手段】



介護を受けている人または、将来介護を必要とする人と同居していないと回答した人に、介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動手段をたずねたところ、「自家用車」が35.4%で最も多く、次いで「徒歩・自転車」が21.0%、「電車・バス」が19.4%となっています。(図2-14)

年齢別でみると、「徒歩・自転車」の割合は55～59歳(28.3%)が最も高く、「電車・バス」の割合は45～49歳(23.3%)が最も高くなっています。(図2-14-1)

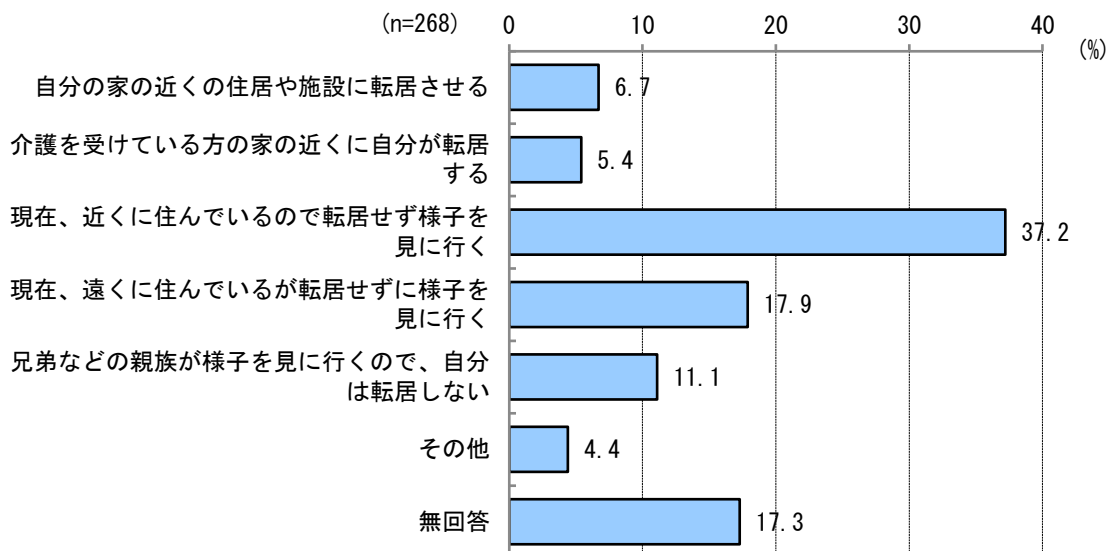
【図 2-14-1 年齢別 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の住居までの移動手段】



(15) 介護を受けている人または、将来介護を必要とする人のための転居意向

(3) 介護を受けている方または、将来介護を必要とする方の様子を見に行くにあたって、居住地の移転をした、又は今後移転する予定がありますか。〈○は1つ〉

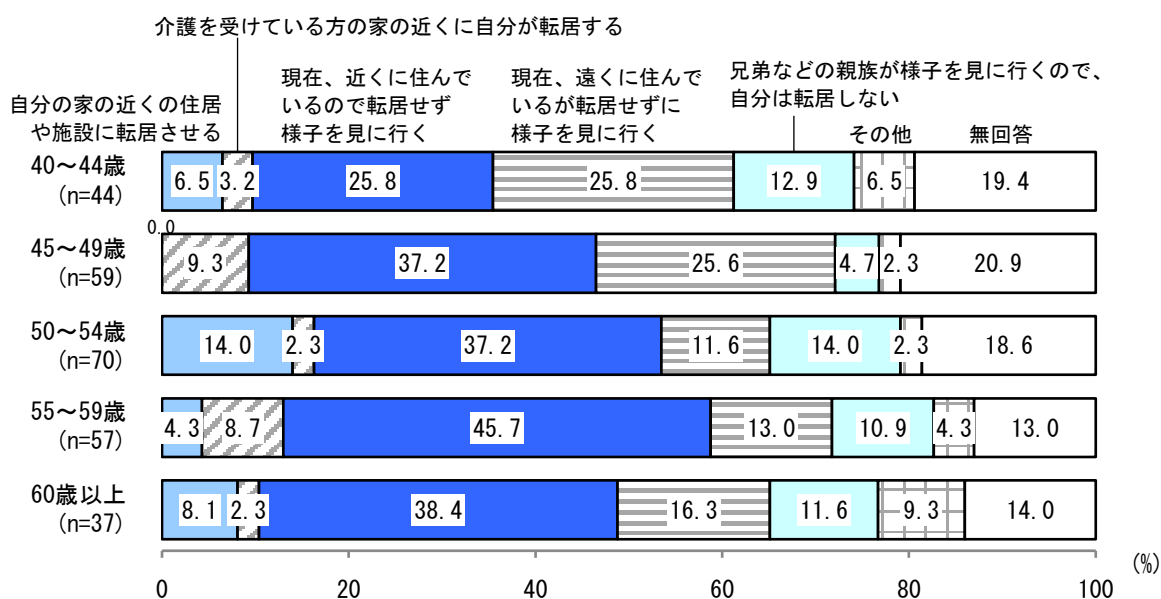
【図2-15 介護を受けている人のための転居意向】



介護を受けている人または、将来介護を必要とする人の様子を見に行くための転居の意向については、「現在、近くに住んでいるので転居せず様子を見に行く」が37.2%で最も多く、次いで「現在、遠くに住んでいるが転居せずに様子を見に行く」が17.9%、「兄弟などの親族が様子を見に行くので、自分は転居しない」が11.1%となっています。(図2-15)

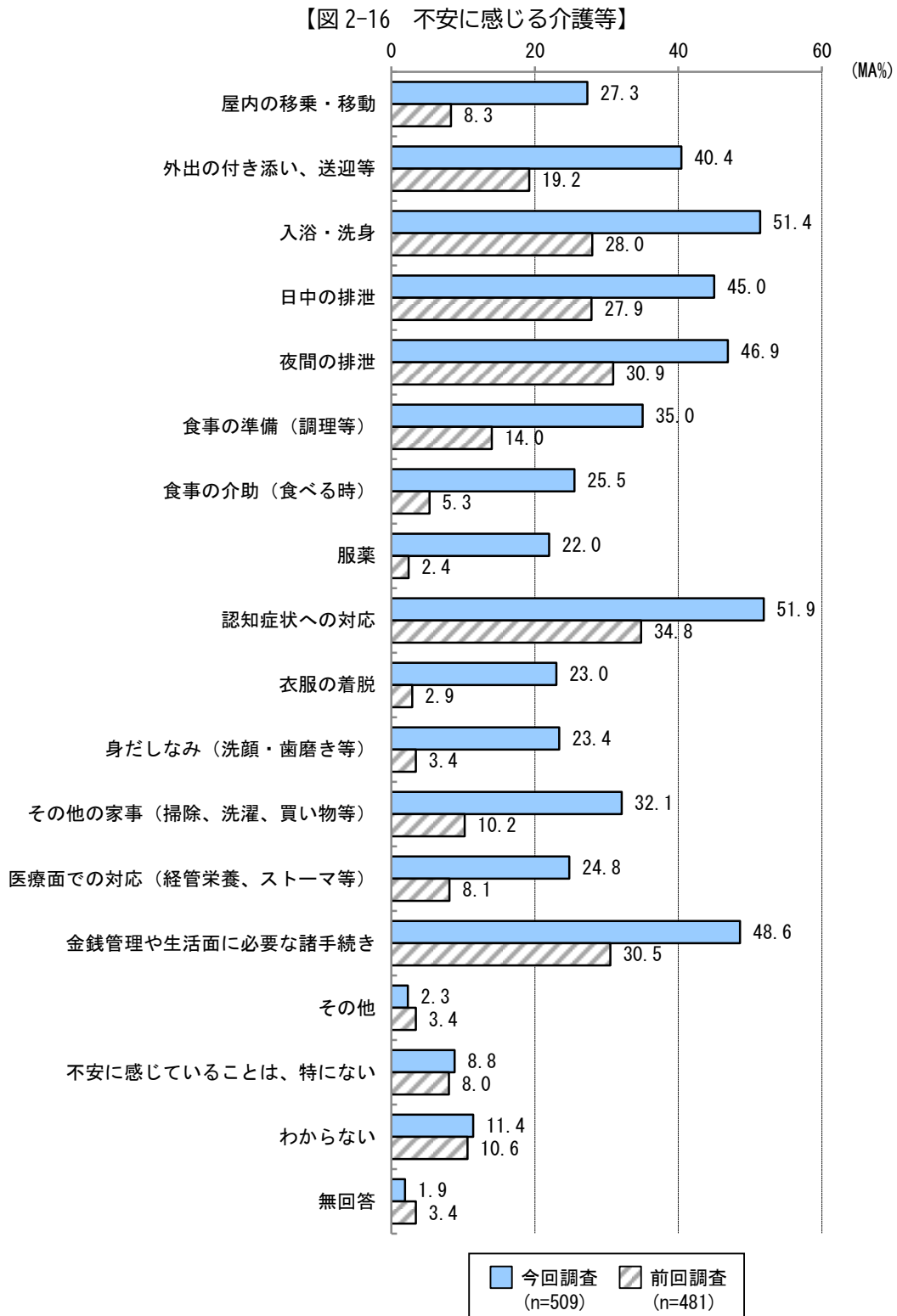
年齢別でみると、40～44歳では「現在、近くに住んでいるので転居せず様子を見に行く」と「現在、遠くに住んでいるが転居せずに様子を見に行く」がともに25.8%で最も多く、45歳以上の年代では「現在、近くに住んでいるので転居せず様子を見に行く」が最も多くなっています。(図2-15-1)

【図2-15-1 年齢別 介護を受けている人のための転居意向】



(16) 不安に感じる介護等

問16. あなたが現在の生活を継続していくに当たって、不安に感じる介護等について、御回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。<あてはまるものすべてに○>



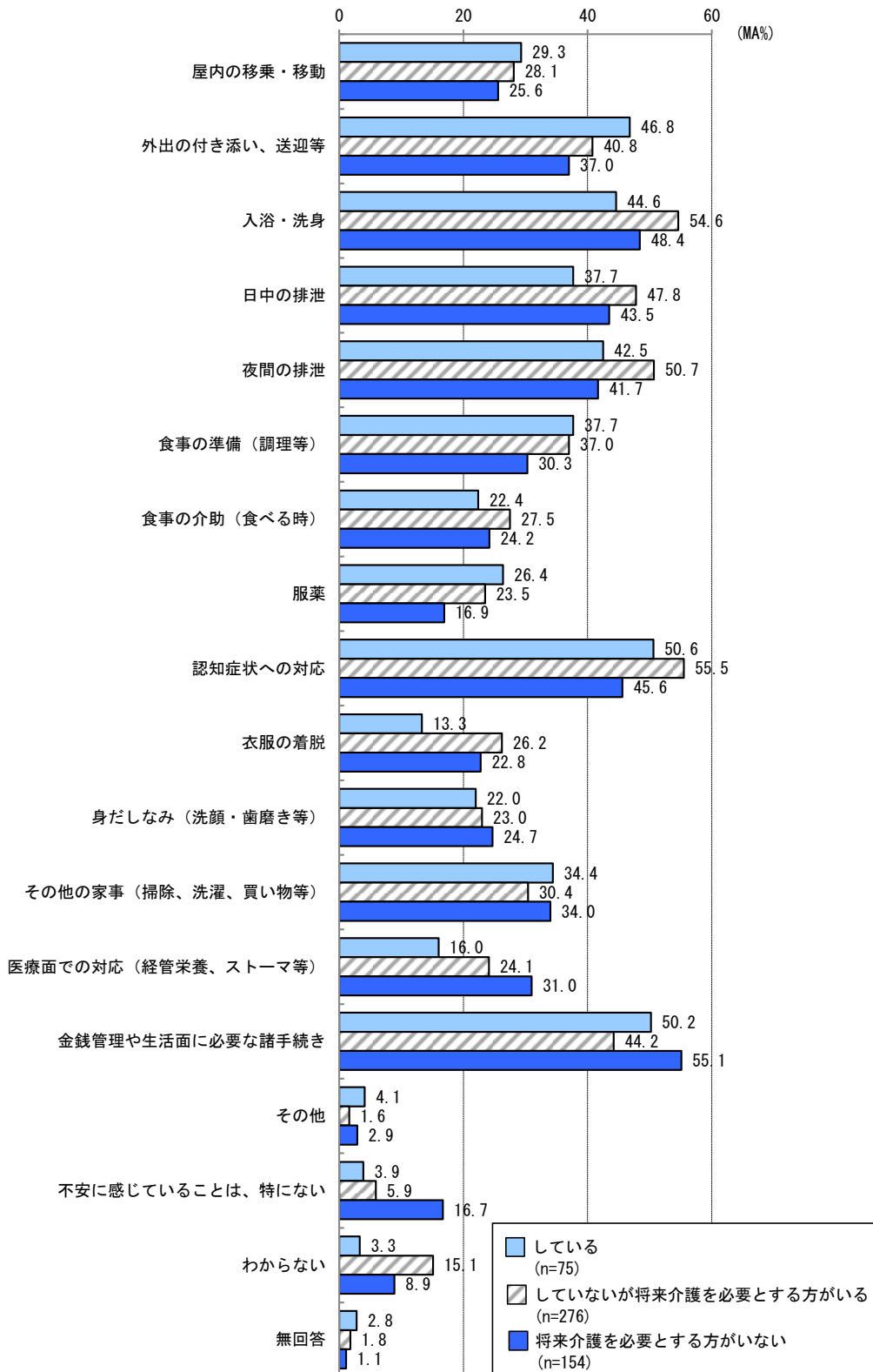
現在の生活を継続していくに当たって、不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が51.9%で最も多く、次いで「入浴・洗身」が51.4%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が48.6%となっています。

前回調査と比較すると、「入浴・洗身」が23.4ポイント、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物

等)」が21.9ポイント、「外出の付き添い、送迎等」が21.2ポイント、「食事の準備（調理等）」が21.0ポイント高くなっています。（図2-16）

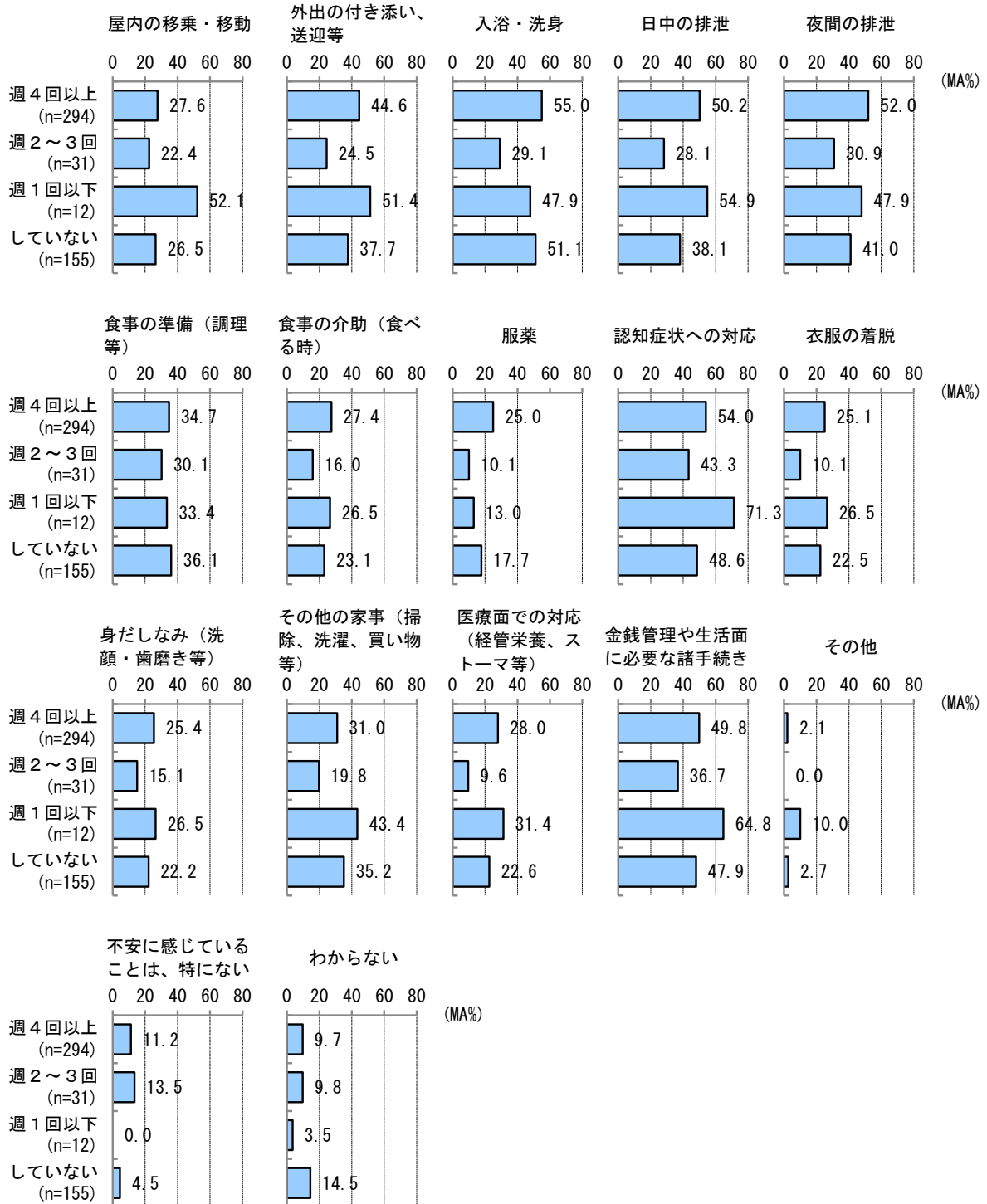
家族への介護有無別でみると、介護をしている人、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人では、「認知症状への対応」が5割台で最も多く、次いで介護をしている人では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（50.2%）、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人では「入浴・洗身」（54.6%）となっています。（図2-16-1）

【図2-16-1 家族への介護有無別 不安を感じる介護等】



収入のある仕事の頻度別で見ると、週4回以上働いている人及び仕事をしていない人では「入浴・洗身」(週4回以上 55.0%、していない 51.1%)が最も多く、次いで「認知症状への対応」(週4回以上 54.0%、していない 48.6%)となっています。(図2-16-2)

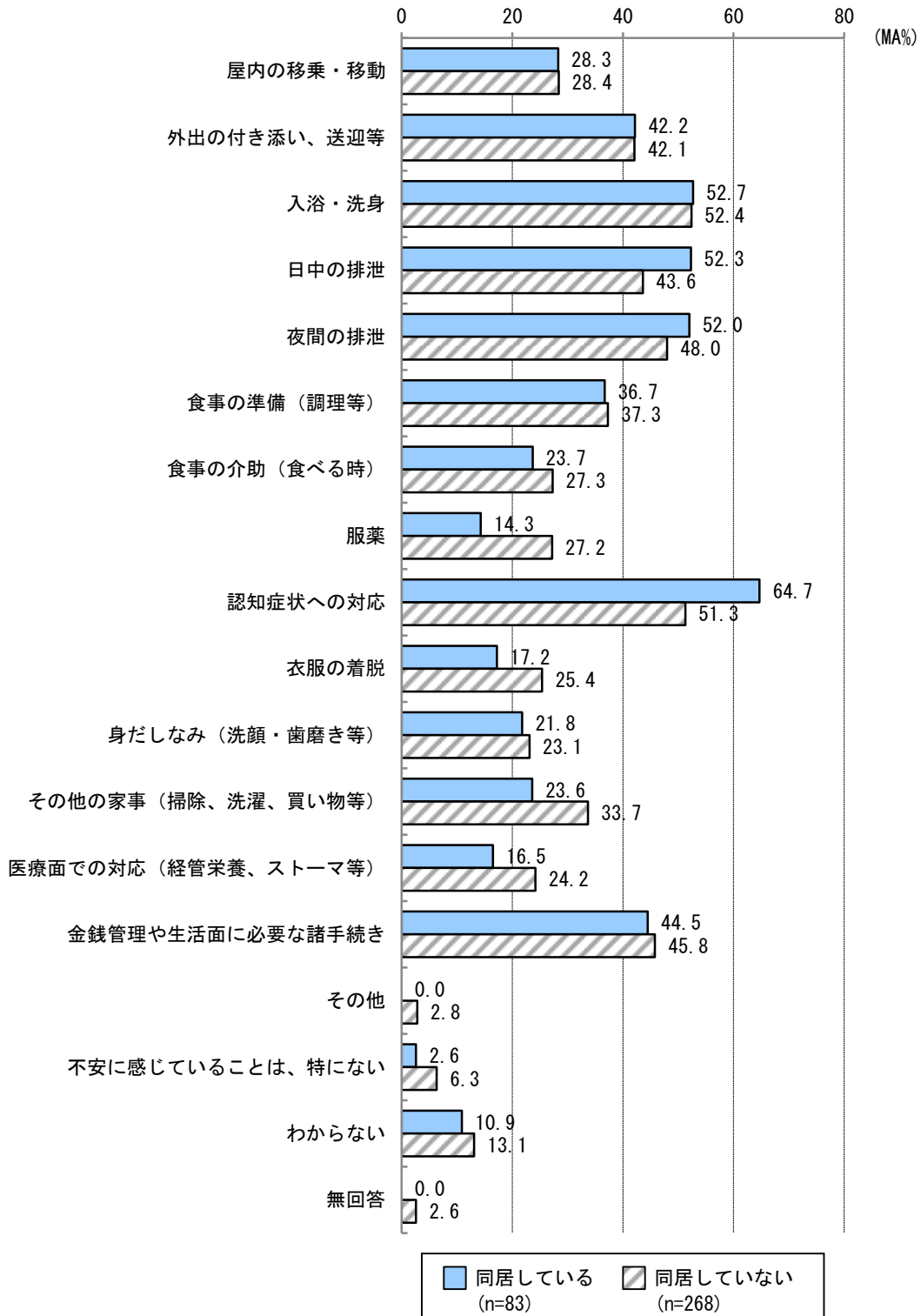
【図2-16-2 収入のある仕事の頻度別 不安を感じる介護等】



※『週1回以下』は「週1回」「月1~3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

介護を受けている人または、将来介護を必要とする人との同居の状況別でみると、同居している人では「認知症状への対応」が64.7%で最も多く、次いで「入浴・洗身」(52.7%)、「日中の排泄」(52.3%)、「夜間の排泄」(52.0%)となっています。同居していない人では「入浴・洗身」が52.4%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が51.3%、「夜間の排泄」が48.0%となっています。(図2-16-3)

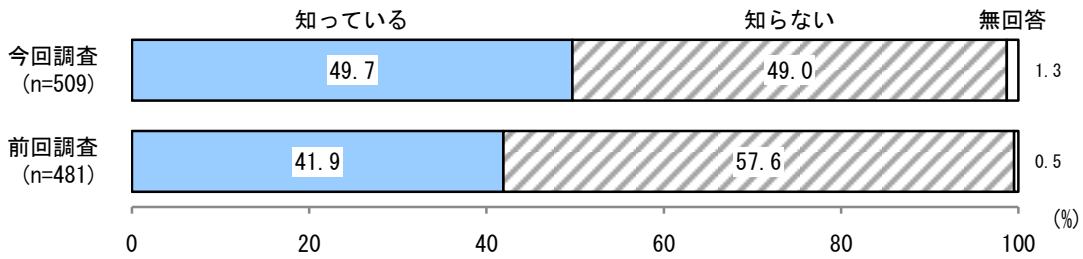
【図 2-16-3 介護を受けている人との同居の状況別 不安を感じる介護等】



(17) 介護休業制度の認知有無

問17. あなたは、介護休業制度を知っていますか。〈○は1つ〉

【図 2-17 介護休業制度の認知有無】

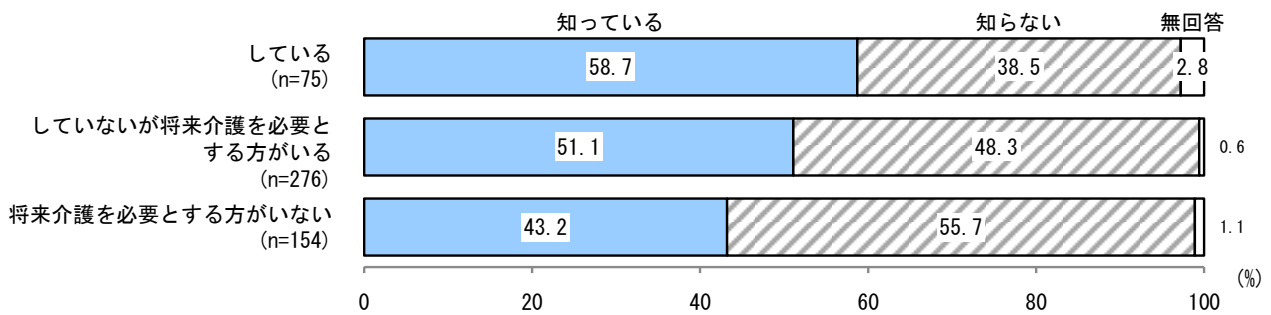


介護休業制度を知っているかについては、「知っている」が49.7%、「知らない」が49.0%となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」が7.8ポイント高くなっています。(図2-17)

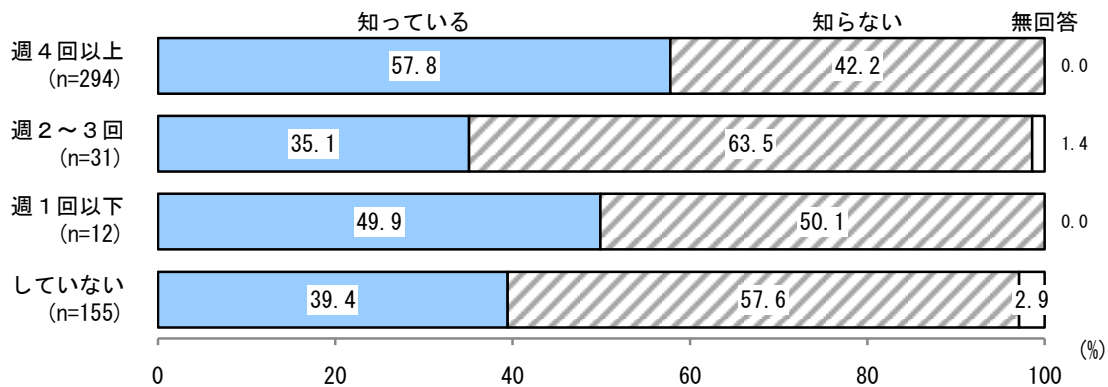
家族への介護有無別でみると、「知っている」割合は、介護をしている人が58.7%に対し、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人が51.1%で、介護をしている人のほうが7.6ポイント高い割合になっています。(図2-17-1)

【図 2-17-1 家族への介護有無別 介護休業制度の認知有無】



収入のある仕事の頻度別でみると、「知っている」は、週4回以上働いている人で57.8%、週1回以下働いている人で49.9%となっています。(図2-17-2)

【図 2-17-2 収入のある仕事の頻度別 介護休業制度の認知有無】

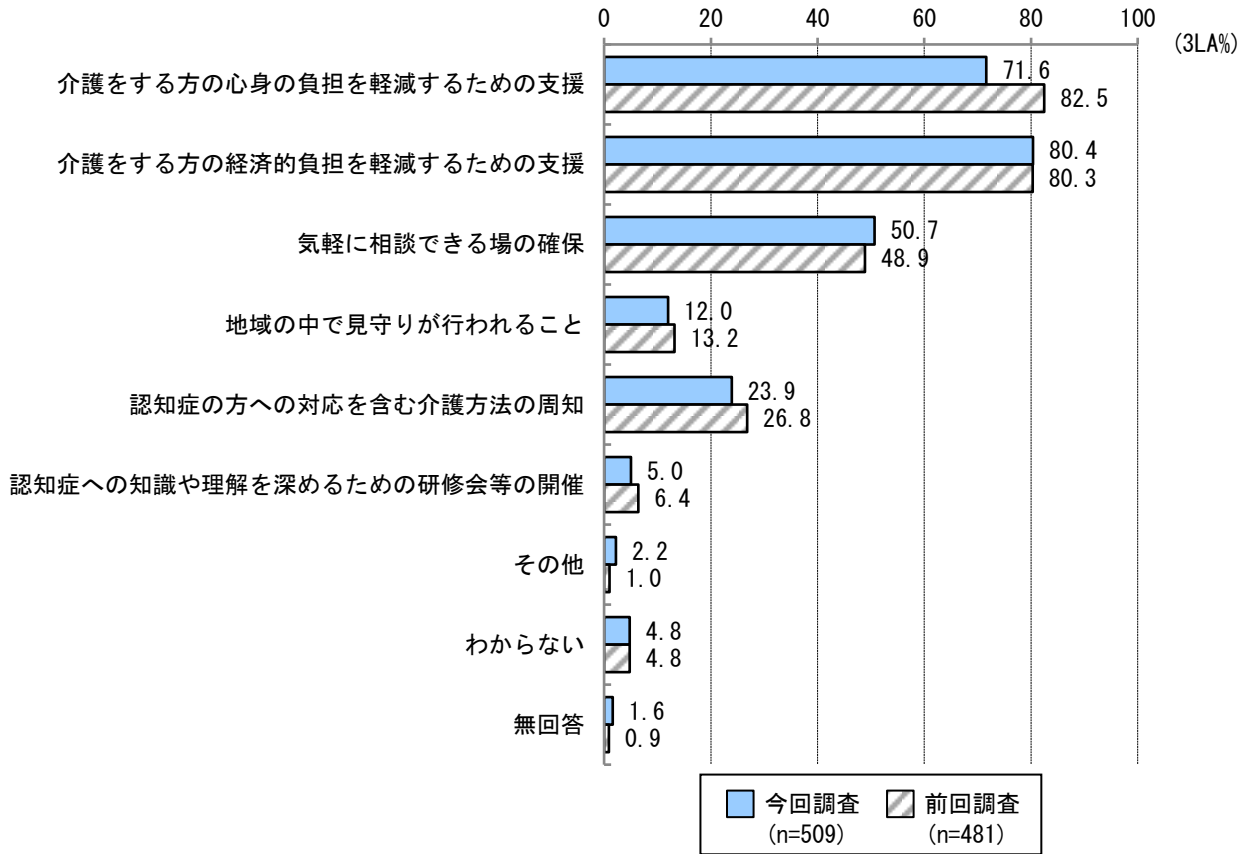


※『週1回以下』は「週1回」「月1~3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

(18) 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援

問18. あなたは、家族等の介護をするうえで、どのような支援があれば良いと思いますか。
 <〇は3つまで>

【図2-18 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】

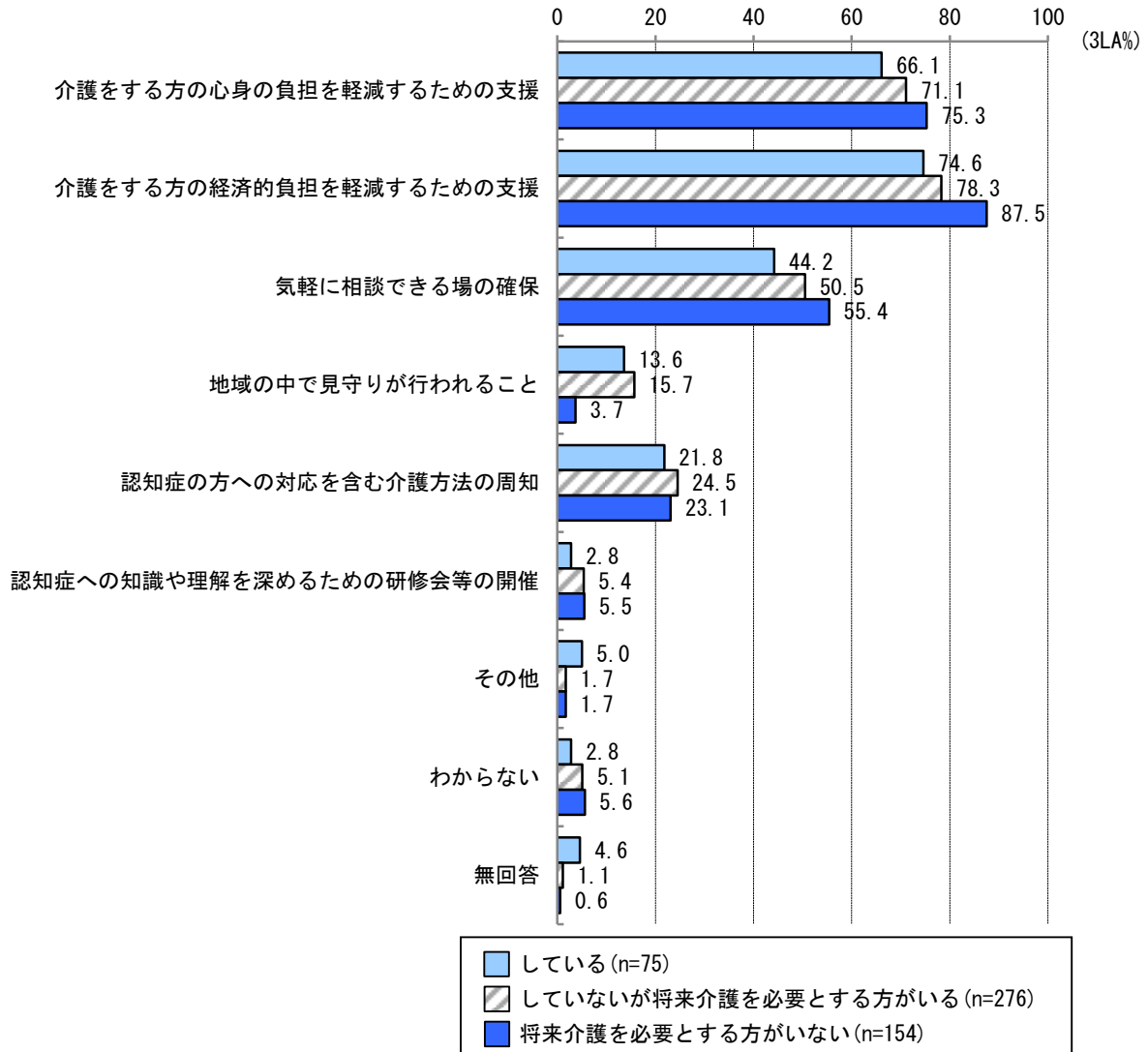


家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援については、「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が80.4%で最も多く、次いで「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が71.6%、「気軽に相談できる場の確保」が50.7%となっています。

前回調査と比較すると、「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が10.9ポイント低くなっています。(図2-18)

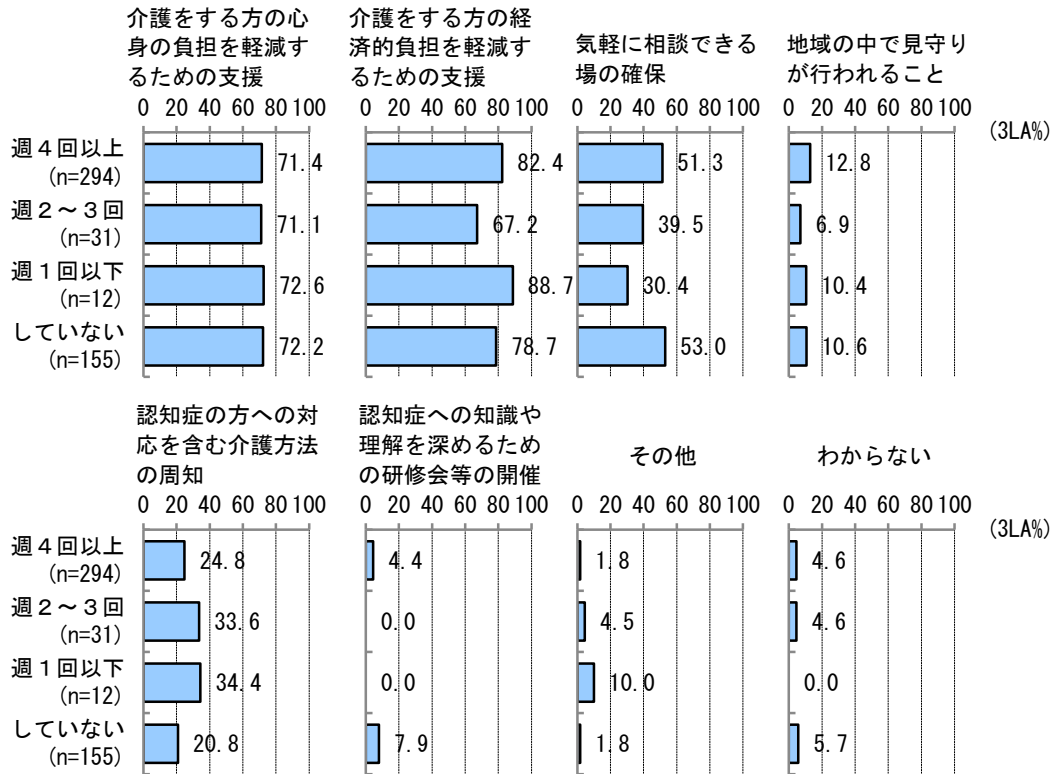
家族への介護有無別でみると、いずれも「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が最も多く、介護をしている人では74.6%、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人では78.3%となっています。(図2-18-1)

【図 2-18-1 家族への介護有無別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】



収入のある仕事の頻度別で見ると、週4回以上働いている人、週1回以下働いている人、仕事をしていない人では「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が最も多く、7割以上となっています。週2～3回働いている人では「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が最も多くなっています。(図2-18-2)

【図2-18-2 収入のある仕事の頻度別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】



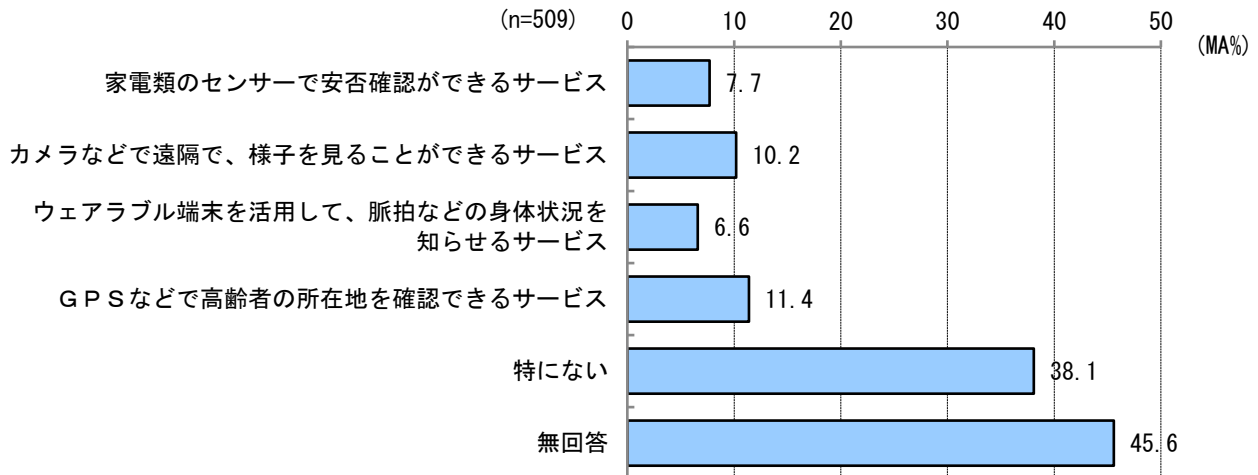
※『週1回以下』は「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

(19) 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールの活用状況と意向

問19. あなたは、家族等の介護をするうえで、次のような I C T 技術を生かしたツールを活用している又はしたいと思いませんか。〈あてはまるものすべてに○〉

① 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールで活用しているもの

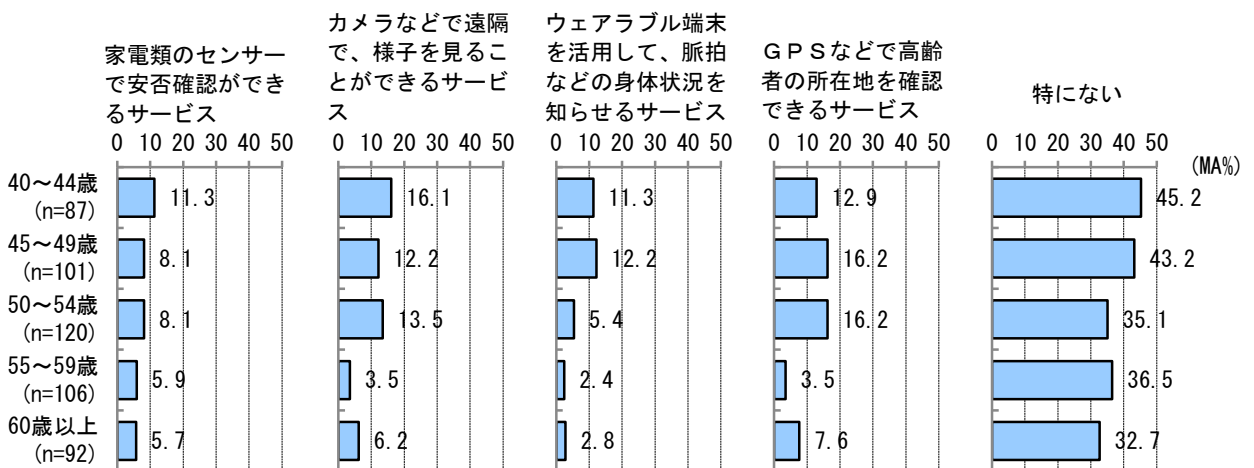
【図 2-19-1 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールで活用しているもの】



家族等の介護をするうえで、ICT技術を生かしたツールで活用しているものについては、「特にない」が38.1%で最も多くなっています。活用している人では、「GPSなどで高齢者の所在地を確認できるサービス」が11.4%で最も多く、次いで「カメラなどで遠隔で、様子を見ることができるサービス」が10.2%、「家電類のセンサーで安否確認ができるサービス」が7.7%となっています。(図2-19-1)

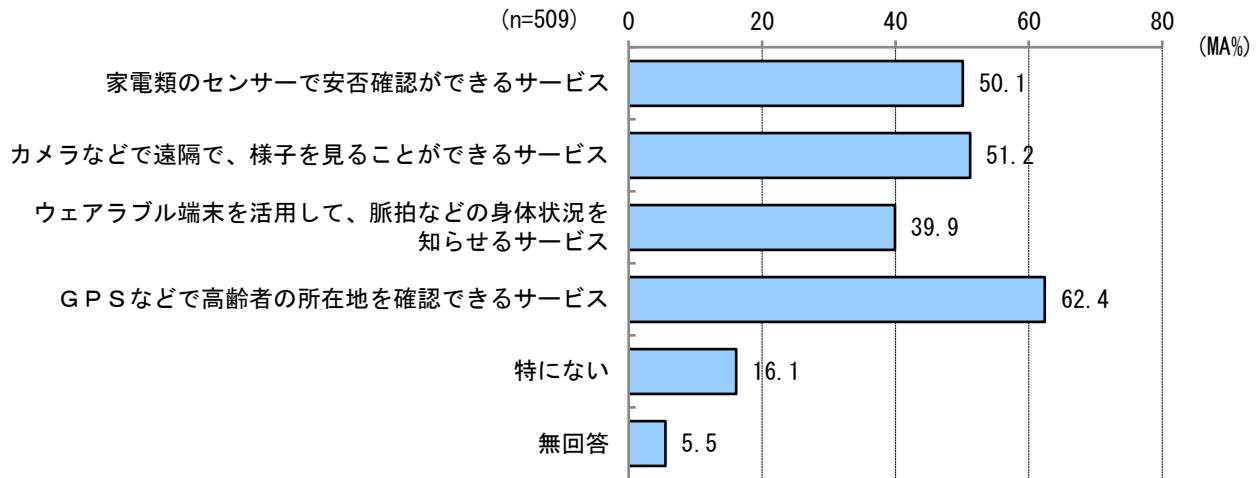
年齢別でみると、40～44歳では「カメラなどで遠隔で、様子を見ることができるサービス」(16.1%)が最も多く、45～49歳、50～54歳、60歳以上では「GPSなどで高齢者の所在地を確認できるサービス」(45～49歳・50～54歳ともに16.2%、60歳以上 7.6%)、55歳～59歳では「家電類のセンサーで安否確認ができるサービス」が最も多くなっています。(図2-19-1-1)

【図 2-19-1-1 年齢別 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールで活用しているもの】



② 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールで今後活用したいもの

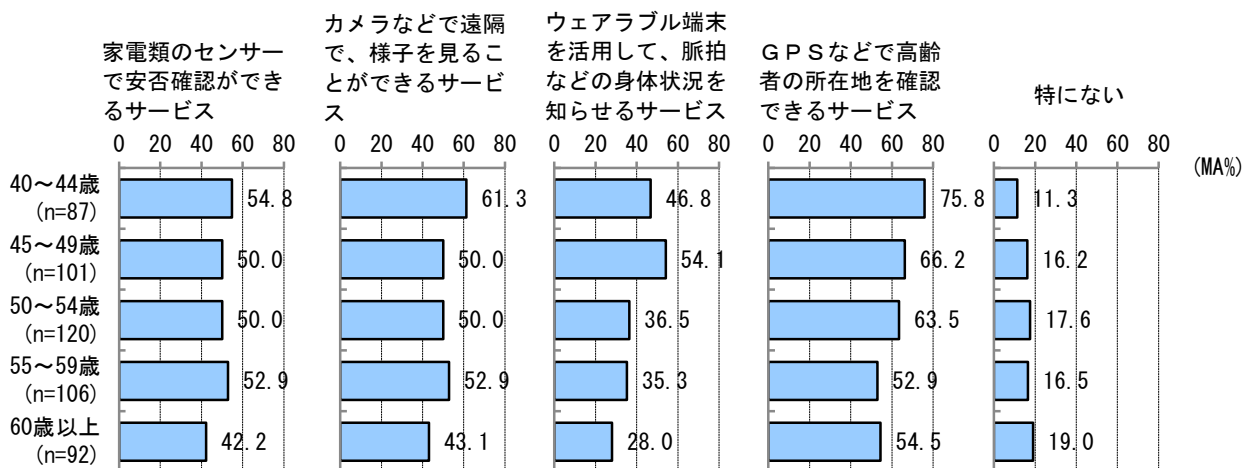
【図 2-19-2 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールで今後活用したいもの】



家族等の介護をするうえで、ICT技術を生かしたツールで今後活用したいものについては、「GPSなどで高齢者の所在地を確認できるサービス」が62.4%で最も多く、次いで「カメラなどで遠隔で、様子を見ることができるサービス」が51.2%、「家電類のセンサーで安否確認ができるサービス」が50.1%となっています。(図2-19-2)

年齢別でみると、55歳～59歳では3項目同率ですが、いずれの年代も「GPSなどで高齢者の所在地を確認できるサービス」が最も多く、若い年代ほど割合が高くなっています。(図2-19-2-1)

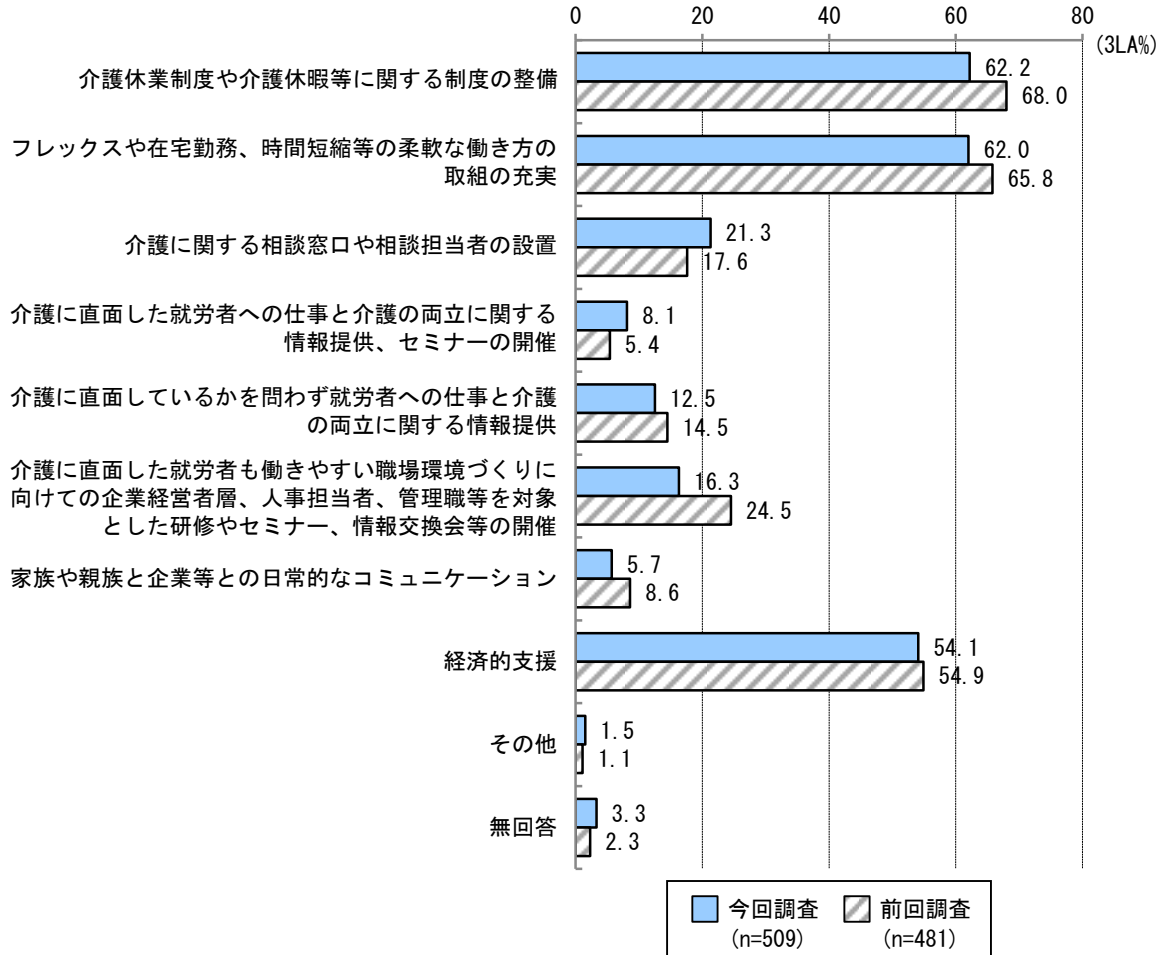
【図 2-19-2-1 家族等の介護をするうえで、ICT 技術を生かしたツールで今後活用したいもの】



(20) 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策

問20. あなたは介護と仕事を両立するためには、企業等にどのような支援策があれば良いと思いますか。〈〇は3つまで〉

【図 2-20 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策】

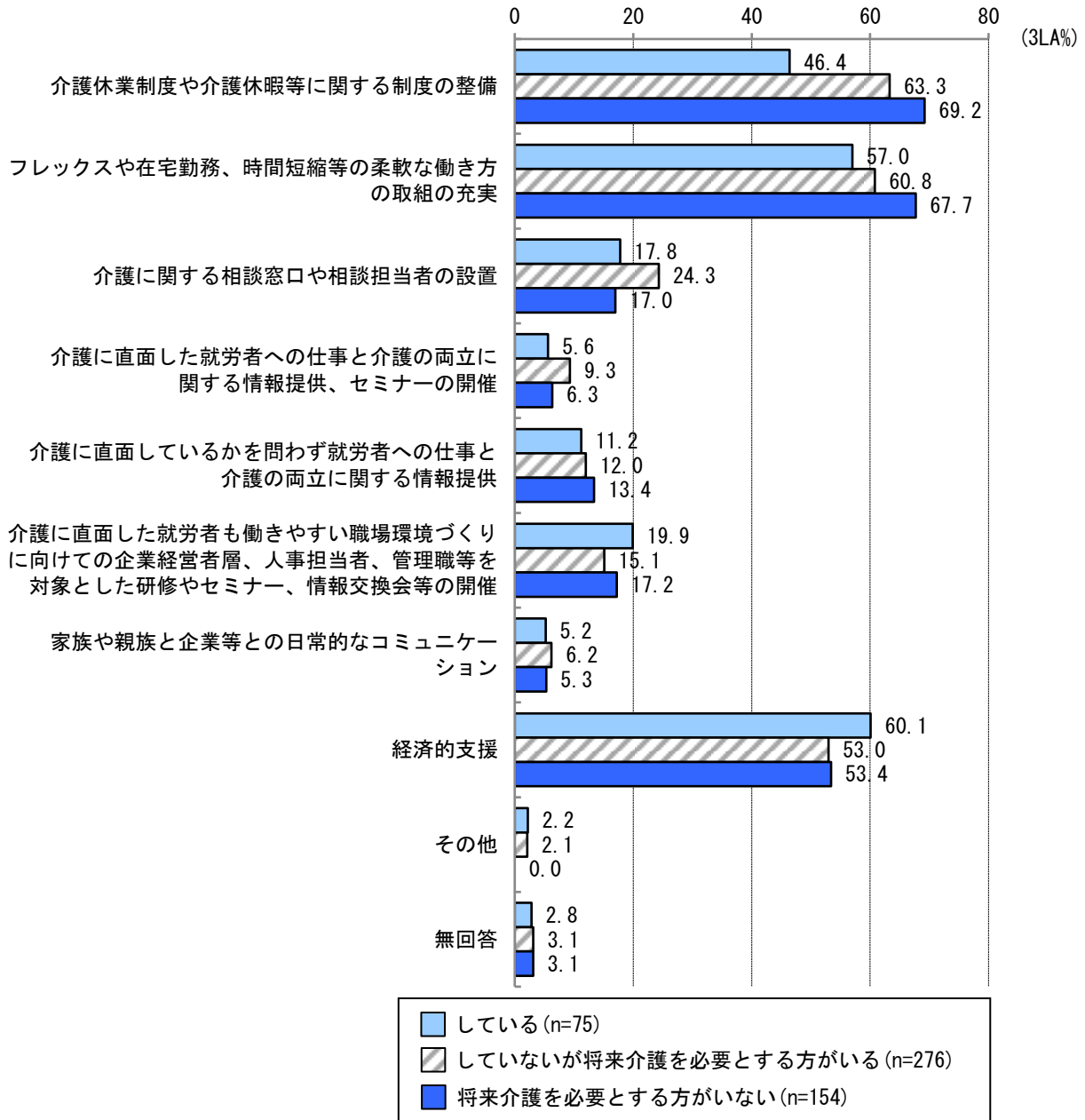


介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策については、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が62.2%で最も多く、次いで「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が62.0%、「経済的支援」が54.1%となっています。

前回調査と比較すると、「介護に直面した就労者も働きやすい職場環境づくりに向けての企業経営者層、人事担当者、管理職等を対象とした研修やセミナー、情報交換会等の開催」が8.2ポイント、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が5.8ポイント低くなっています。(図2-20)

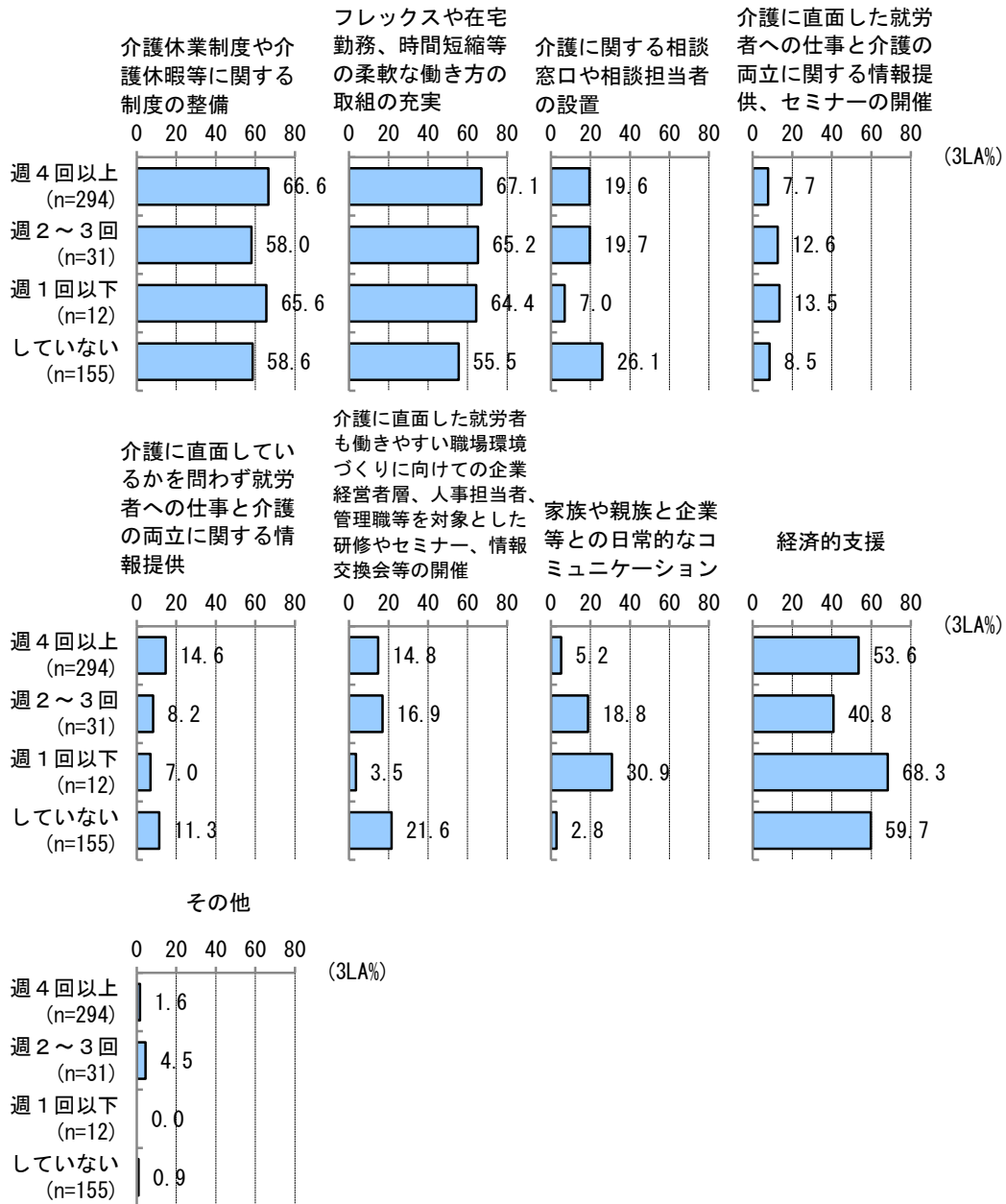
家族への介護有無別でみると、介護をしている人では、「経済的支援」(60.1%)が最も多く、次いで「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」(57.0%)となっています。介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人では「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」(63.3%)が最も多く、次いで「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」(60.8%)となっています。(図2-20-1)

【図 2-20-1 家族への介護有無別 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策】



収入のある仕事の頻度別で見ると、週2～3回、週4回以上働いている人では「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」(週4回以上 67.1%、週2～3回 65.2%)が、週1回以下働いている人は、仕事をしていない人では「経済的支援」(週1回以下 68.3%、していない 59.7%)が、それぞれ最も多くなっています。(図2-20-2)

【図2-20-2 収入のある仕事の頻度別 介護と仕事の両立のためにあれば良いと思う企業等の支援策】

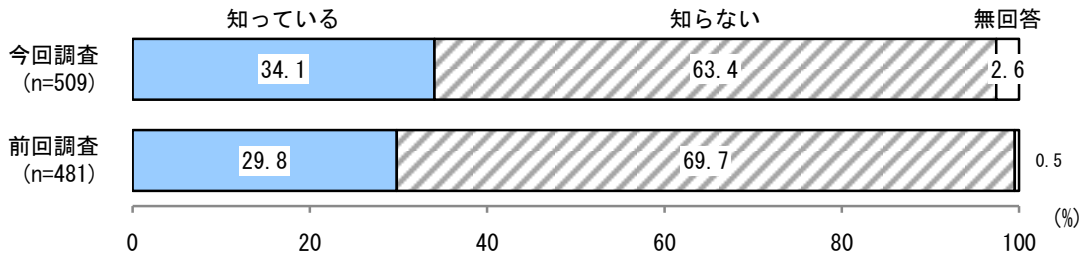


※『週1回以下』は「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計、『していない』は「していないが、今後したい」「していないし、今後もする気はない」の合計で、再集計しています。

(21) 介護サービスの利用方法の認知有無

問21. あなたは介護サービスの利用が必要になった際の利用方法を知っていますか。
 <○は1つ>

【図 2-21 介護サービスの利用方法の認知有無】

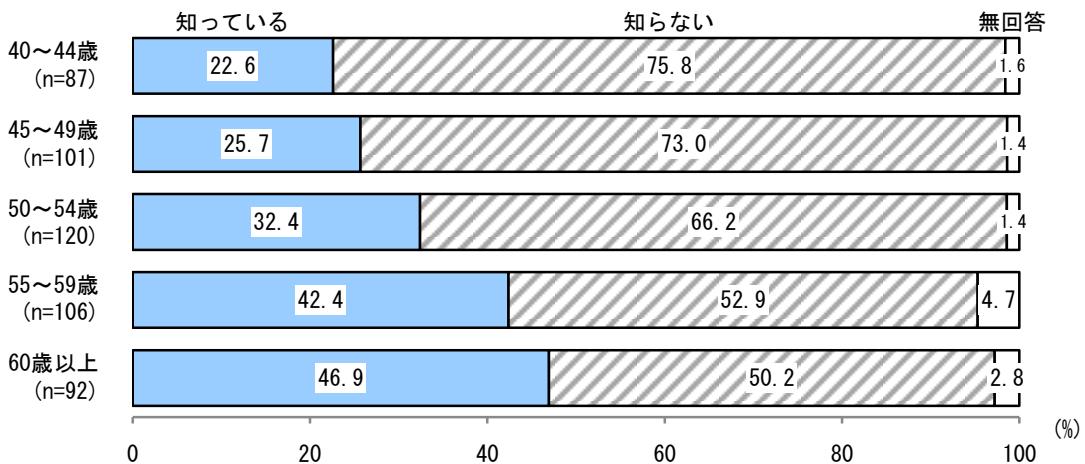


介護サービスの利用が必要になった際の利用方法を知っているかについては、「知っている」が34.1%、「知らない」が63.4%となっています。

前回調査と比較すると、「知っている」が4.3ポイント高くなっています。(図2-21)

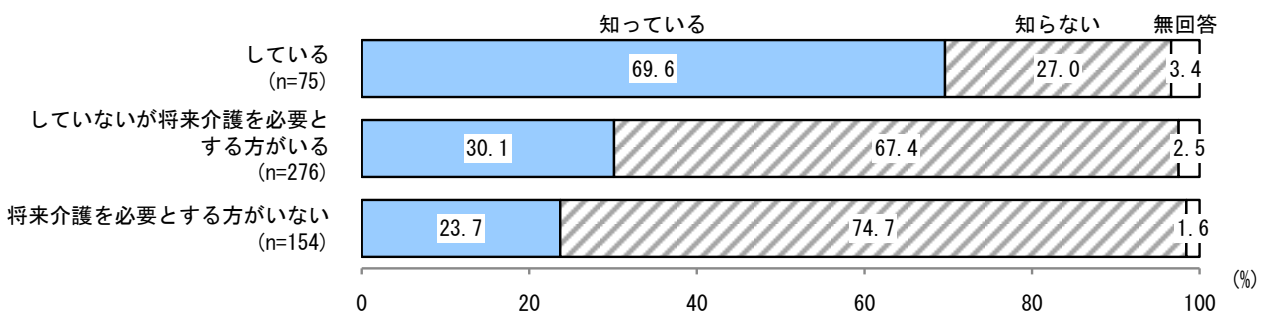
年齢別でみると、「知っている」の割合は、年代が上がるほど高くなっており、60歳以上では46.9%となっています。(図2-21-1)

【図 2-21-1 年齢別 介護サービスの利用方法の認知有無】



家族への介護有無別でみると、「知っている」の割合は、介護をしている人で69.6%、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人で30.1%となっており、介護をしている人のほうが39.5ポイント高くなっています。(図2-21-2)

【図 2-21-2 家族への介護有無別 介護サービスの利用方法の認知有無】



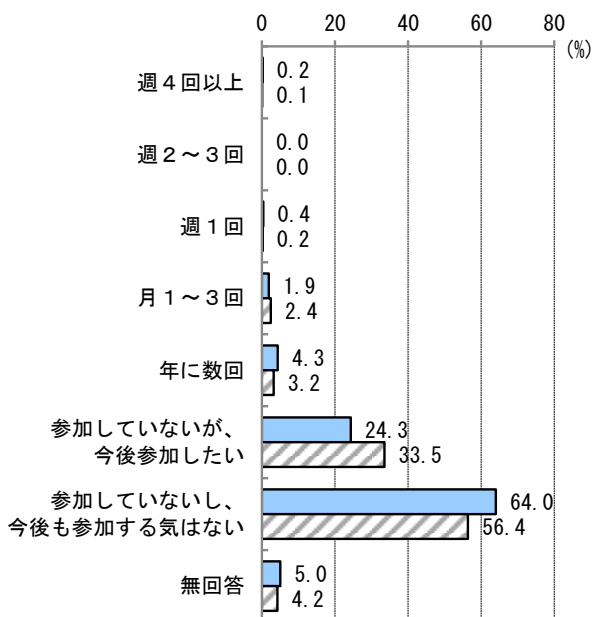
3 社会参加について

(1) 会・グループ等の参加頻度

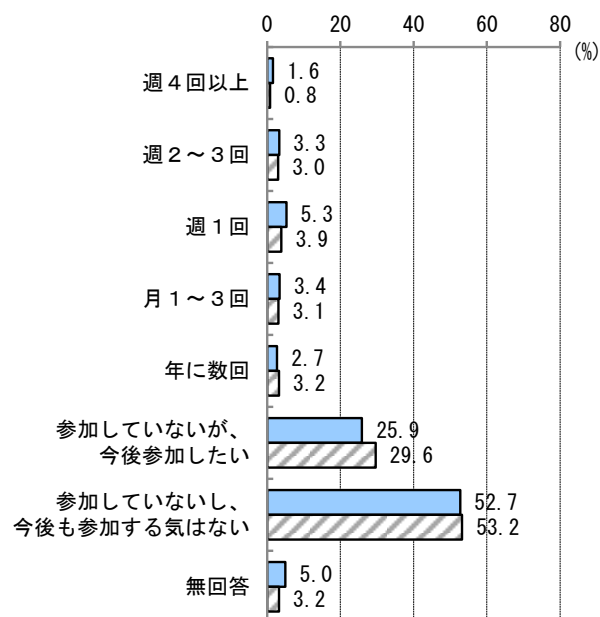
問22. あなたは以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 <(1)から(6)までそれぞれ○は1つずつ>

【図3-1 会・グループ等の参加頻度①】

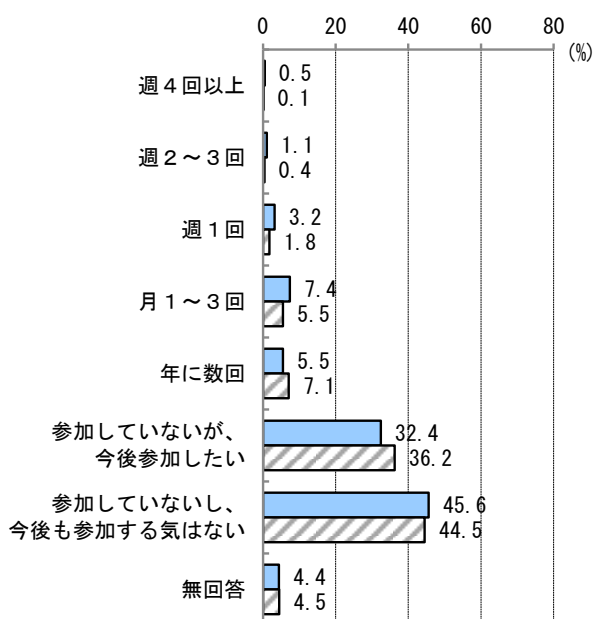
(1) ボランティアのグループ



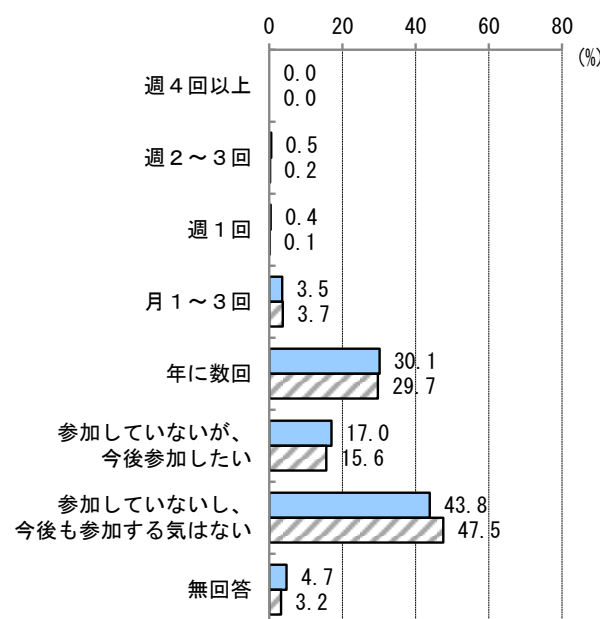
(2) スポーツ関係のグループやクラブ



(3) 趣味関係のグループ



(4) 町内会・自治会

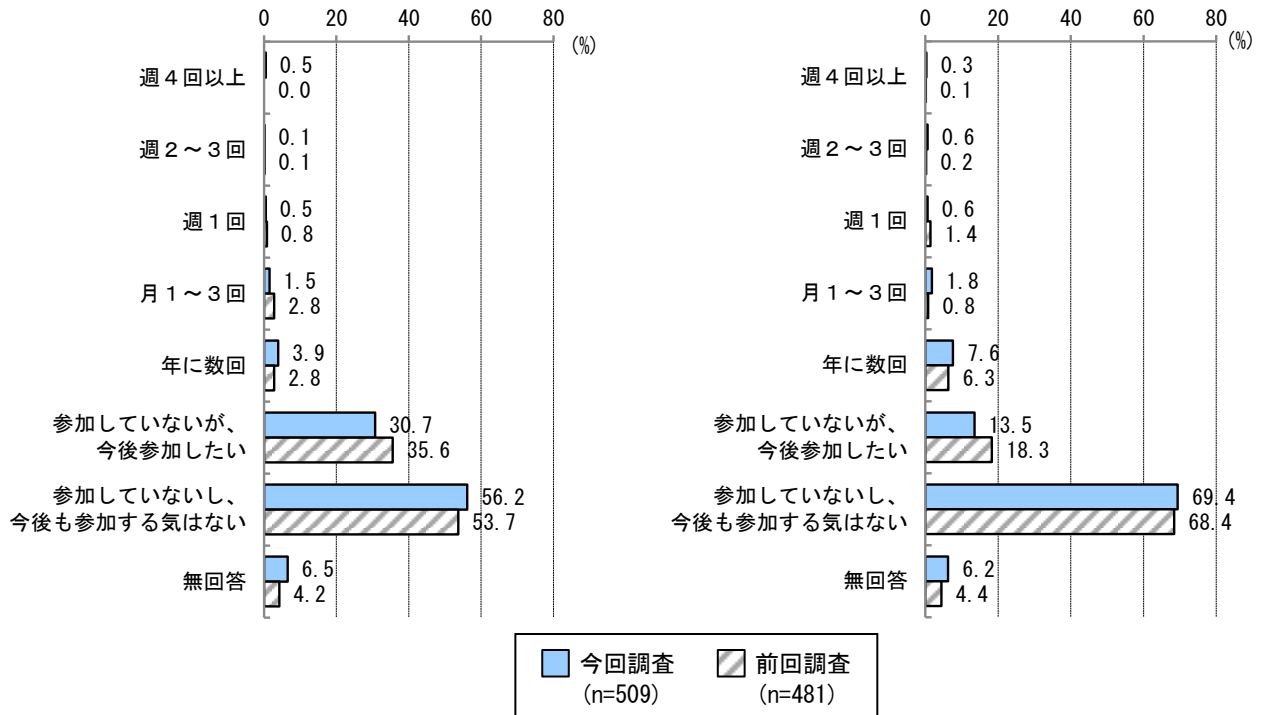


■ 今回調査 (n=509) ▨ 前回調査 (n=481)

【図3-1 会・グループ等の参加頻度②】

(5) 学習・教養サークル

(6) その他の団体や会



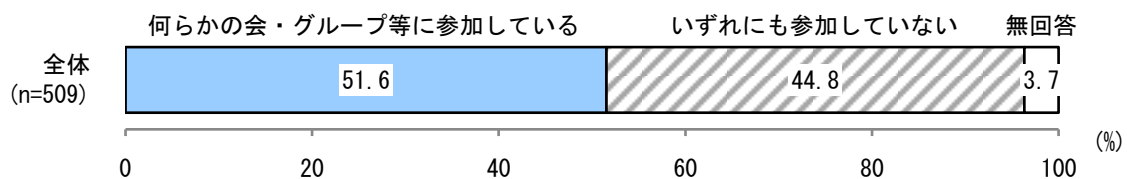
いずれの会・グループ等も「参加していないし、今後も参加する気はない」が最も多くなっています。

参加している人では、ボランティアのグループで「年に数回」(4.3%)、スポーツ関係のグループやクラブで「週1回」(5.3%)、趣味関係のグループで「月1~3回」(7.4%)、町内会・自治会で「年に数回」(30.1%)、学習・教養サークルで「年に数回」(3.9%)、その他の団体や会で「年に数回」(7.6%)が、それぞれ最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「参加していないが、今後参加したい」は、ボランティアのグループで9.2ポイント低くなっています。(図3-1)

上記(1)~(6)の会・グループ等のうち、「何らかの会・グループ等に参加している」比率は51.6%となっています。(図3-1-1)

【図3-1-1 会・グループ等の参加比率】



ボランティアのグループの参加頻度について、年齢別でみると、「週4回以上」と「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」、「年に数回」を合わせた『参加している』割合は、55～59歳が8.2%で最も高く、次いで45～49歳が6.9%となっています。

家族構成別でみると、『参加している』割合は、二世世代同居（夫婦と親）が10.3%で最も高く、次いで二世世代同居（夫婦と子）が6.8%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護をしている人の『参加している』割合は13.7%となっており、介護はしていないが将来介護を必要とする方がいる人（6.6%）より7.1ポイント高くなっています。（表3-1①-1）

【表3-1①-1 年齢別・家族構成別 ボランティアのグループの参加頻度】

(単位：%)

		(1) ボランティアのグループ							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	後参加したいが、今	後参加してすいないが、今	無回答
年齢	40～44歳 (n=87)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	24.2	67.7	1.6
	45～49歳 (n=101)	0.0	0.0	1.4	1.4	4.1	25.7	66.2	1.4
	50～54歳 (n=120)	0.0	0.0	0.0	1.4	5.4	20.3	70.3	2.7
	55～59歳 (n=106)	0.0	0.0	0.0	4.7	3.5	18.8	63.5	9.4
	60歳以上 (n=92)	0.9	0.0	0.5	1.9	2.4	35.1	50.2	9.0
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	0.0	0.0	1.8	2.2	2.2	34.3	54.8	4.5
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.5	0.0	0.5	1.3	2.7	26.6	61.0	7.5
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	0.7	0.0	0.0	0.0	9.6	21.4	68.3	0.0
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	0.0	0.0	0.0	3.0	3.8	22.1	66.1	5.0
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	13.6	75.5	5.9
家族への介護	している (n=75)	0.0	0.0	0.0	3.9	9.8	21.3	60.4	4.5
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.2	0.0	0.0	1.9	4.5	24.7	64.5	4.3
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	0.3	0.0	1.2	1.1	1.6	24.5	66.1	5.2

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度について、年齢別で見ると、『参加している』割合は、60歳以上が20.8%で最も高く、次いで45～49歳が19.0%となっています。

家族構成別で見ると、『参加している』割合は、一世代（夫婦のみ）が20.9%で最も高く、次いで二世世代同居（夫婦と子）が17.7%となっています。

家族への介護有無別で見ると、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人の『参加している』割合は20.2%となっており、介護をしている人（17.7%）より2.5ポイント高くなっています。（表3-1②-1）

【表 3-1②-1 年齢別・家族構成別 スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度】

(単位：%)

		(2) スポーツ関係のグループやクラブ							
		週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	後 参 加 し て い た い が 、 今	後 参 加 し て い る 気 は し な い 今	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=87)	0.0	1.6	1.6	3.2	1.6	38.7	51.6	1.6
	45～49歳 (n=101)	0.0	6.8	5.4	2.7	4.1	23.0	56.8	1.4
	50～54歳 (n=120)	2.7	1.4	8.1	2.7	2.7	24.3	55.4	2.7
	55～59歳 (n=106)	1.2	1.2	5.9	4.7	2.4	21.2	54.1	9.4
	60歳以上 (n=92)	4.3	5.2	4.7	3.8	2.8	25.1	44.5	9.5
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	2.2	4.2	7.7	0.6	0.6	25.2	53.8	5.7
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	3.6	2.7	5.1	4.4	5.1	23.8	50.0	5.3
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	0.0	0.7	0.0	4.0	2.6	30.0	62.8	0.0
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	1.3	4.2	6.0	3.8	2.4	27.2	49.2	5.9
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	5.7	0.0	0.0	21.9	66.4	5.9
家 族 有 無 の 介 護	している (n=75)	3.3	2.5	5.6	3.3	3.0	23.6	55.3	3.4
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	1.7	4.3	6.7	4.1	3.4	24.2	51.3	4.3
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	0.8	2.0	3.0	2.3	1.5	29.9	54.5	6.0

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

趣味関係のグループの参加頻度について、年齢別で見ると、『参加している』割合は、40～44歳が22.6%で最も高く、次いで60歳以上が19.8%となっています。

家族構成別で見ると、『参加している』割合は、一世代（夫婦のみ）が21.3%で最も高く、次いで二世世代同居（夫婦と子）が17.8%となっています。

家族への介護有無別で見ると、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人の『参加している』割合は20.6%となっており、介護をしている人（17.6%）より3.0ポイント高くなっています。（表3-1③-1）

【表 3-1③-1 年齢別・家族構成別 趣味関係のグループの参加頻度】

(単位：%)

		(3) 趣味関係のグループ							無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	後参加したいが、今	後参加してすい気いし、今	
年齢	40～44歳 (n=87)	0.0	0.0	1.6	9.7	11.3	29.0	46.8	1.6
	45～49歳 (n=101)	0.0	2.7	5.4	6.8	2.7	32.4	48.6	1.4
	50～54歳 (n=120)	1.4	0.0	2.7	6.8	2.7	27.0	58.1	1.4
	55～59歳 (n=106)	0.0	0.0	3.5	5.9	7.1	36.5	38.8	8.2
	60歳以上 (n=92)	0.9	2.8	2.4	8.5	5.2	37.0	34.1	9.0
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	0.6	0.6	8.0	4.5	0.6	37.1	45.8	2.9
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.5	0.5	3.2	12.1	5.0	31.0	42.3	5.3
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	0.0	1.4	0.0	4.9	9.7	41.9	41.4	0.7
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	0.7	1.6	2.5	7.1	5.9	30.4	46.8	5.0
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	5.7	11.3	17.1	59.9	5.9
家族への介護	している (n=75)	2.2	0.0	1.2	8.0	6.2	31.0	46.4	5.1
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.0	1.8	4.4	8.1	6.3	33.4	42.1	3.9
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	0.6	0.3	2.0	5.9	4.0	31.2	52.1	3.9

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

町内会・自治会の参加頻度について、年齢別でみると、『参加している』割合は、60歳以上が38.8%で最も高く、次いで45～49歳が36.6%となっています。

家族構成別でみると、『参加している』割合は、二世帯同居（夫婦と子）が42.4%で最も高く、次いで三世帯同居（夫婦と親と子）が38.6%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護をしている人の『参加している』割合は43.8%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（37.5%）より6.3ポイント高くなっています。（表3-1④-1）

【表3-1④-1 年齢別・家族構成別 町内会・自治会の参加頻度】

(単位：%)

		(4) 町内会・自治会							無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	後参加したいが、今	後参加してすい気いし、ない今	
年齢	40～44歳 (n=87)	0.0	1.6	0.0	4.8	29.0	14.5	46.8	3.2
	45～49歳 (n=101)	0.0	1.4	1.4	2.7	31.1	20.3	41.9	1.4
	50～54歳 (n=120)	0.0	0.0	0.0	4.1	24.3	10.8	56.8	4.1
	55～59歳 (n=106)	0.0	0.0	0.0	2.4	32.9	23.5	35.3	5.9
	60歳以上 (n=92)	0.0	0.0	0.9	3.8	34.1	16.6	36.0	8.5
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	0.0	0.0	0.6	0.0	16.0	24.3	55.7	3.5
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.0	1.4	0.5	3.1	26.0	12.9	49.0	7.1
	二世帯同居（夫婦と親） (n=63)	0.0	0.0	0.0	3.3	28.2	17.2	51.4	0.0
	二世帯同居（夫婦と子） (n=230)	0.0	0.0	0.0	5.6	36.8	17.6	35.1	5.0
	三世帯同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	38.6	9.7	45.7	5.9
家族への介護	している (n=75)	0.0	0.0	3.0	4.5	36.3	15.5	35.6	5.1
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.0	1.0	0.0	4.0	32.5	14.3	44.2	4.1
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	0.0	0.0	0.0	2.3	22.6	22.6	47.5	5.0

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

学習・教養サークルの参加頻度について、年齢別で見ると、『参加している』割合は、40～44歳が11.2%で最も高く、次いで60歳以上が10.4%となっています。

家族構成別で見ると、『参加している』割合は、二世世代同居（夫婦と子）が8.0%で最も高く、次いで単身世帯（ひとり暮らし）が7.6%となっています。

家族への介護有無別で見ると、介護をしている人の『参加している』割合は5.2%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（6.0%）より0.8ポイント、低くなっています。（表3-1⑤-1）

【表 3-1⑤-1 年齢別・家族構成別 学習・教養サークルの参加頻度】

(単位：%)

		(5) 学習・教養サークル							
		週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	後 参 加 し て い た い が 、 今	後 参 加 し て い る 気 は し な い 今	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=87)	1.6	0.0	1.6	3.2	4.8	25.8	59.7	3.2
	45～49歳 (n=101)	0.0	0.0	0.0	1.4	5.4	32.4	58.1	2.7
	50～54歳 (n=120)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	27.0	63.5	5.4
	55～59歳 (n=106)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	31.8	55.3	10.6
	60歳以上 (n=92)	1.4	0.5	1.4	3.8	3.3	37.0	43.1	9.5
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	0.6	0.0	1.2	3.0	2.8	34.5	52.8	5.1
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.5	0.0	0.0	1.9	2.8	30.9	55.6	8.4
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	2.9	0.0	0.0	2.2	0.0	39.4	52.8	2.6
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	0.0	0.2	0.8	0.9	6.1	28.4	56.5	7.1
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	23.8	65.4	5.9
家 族 へ の 介 護	している (n=75)	0.0	0.0	1.2	0.0	4.0	33.8	54.8	6.2
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.7	0.2	0.5	1.1	3.5	29.5	57.8	6.7
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	0.6	0.0	0.3	2.9	4.8	30.6	55.6	5.2

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

その他の団体や会の参加頻度について、年齢別でみると、『参加している』割合は、45～49歳が14.9%で最も高く、次いで55～59歳が14.1%となっています。

家族構成別でみると、『参加している』割合は、二世帯同居（夫婦と子）が13.3%で最も高く、次いで単身世帯（ひとり暮らし）が9.9%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護をしている人の『参加している』割合は13.5%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（9.8%）より3.7ポイント高くなっています。（表3-1⑥-1）

【表3-1⑥-1 年齢別・家族構成別 その他の団体や会の参加頻度】

（単位：％）

		（6）その他の団体や会							無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	後参加したいが、今	後参加する気はない今	
年齢	40～44歳 (n=87)	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	12.9	75.8	3.2
	45～49歳 (n=101)	0.0	2.7	0.0	1.4	10.8	14.9	67.6	2.7
	50～54歳 (n=120)	0.0	0.0	1.4	1.4	2.7	13.5	77.0	4.1
	55～59歳 (n=106)	0.0	0.0	1.2	3.5	9.4	11.8	64.7	9.4
	60歳以上 (n=92)	1.4	0.5	0.0	2.8	8.1	15.2	60.7	11.4
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	0.6	1.8	0.0	1.2	6.3	13.5	71.0	5.7
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.5	0.0	0.0	2.2	6.6	9.4	73.8	7.5
	二世帯同居（夫婦と親） (n=63)	0.7	0.0	0.0	2.7	2.7	18.5	75.5	0.0
	二世帯同居（夫婦と子） (n=230)	0.0	0.8	1.2	2.0	9.3	14.5	65.3	6.9
	三世帯同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8	8.8	70.6	10.8
家族への介護	している (n=75)	0.0	1.8	0.0	0.0	11.7	13.5	66.2	6.7
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.2	0.5	0.6	1.6	6.9	14.5	69.4	6.4
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	0.6	0.3	0.8	3.0	7.0	11.5	72.2	4.7

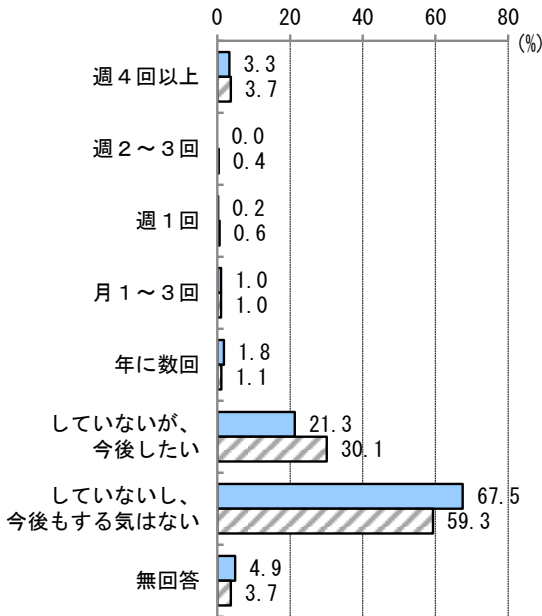
※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(2) 社会参加活動や仕事の頻度

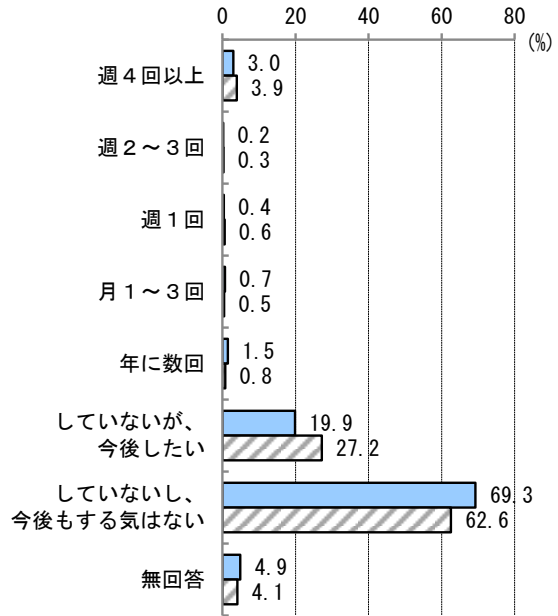
問23. あなたは以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。＜(1)から(5)までそれぞれ○は1つつ＞

【図 3-2 社会参加活動や仕事の頻度①】

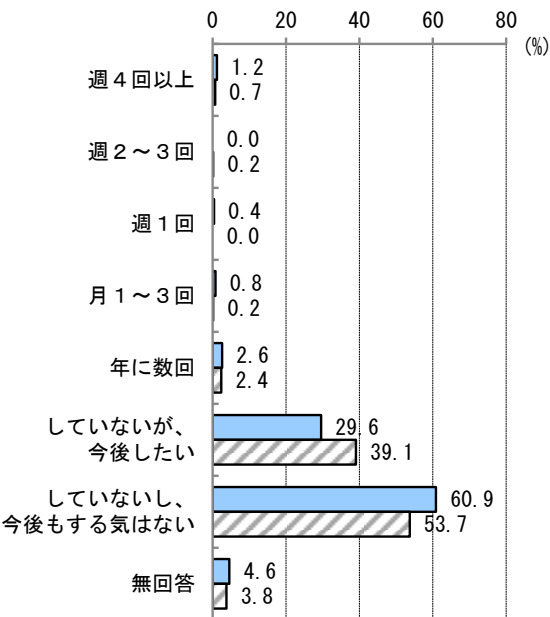
(1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動



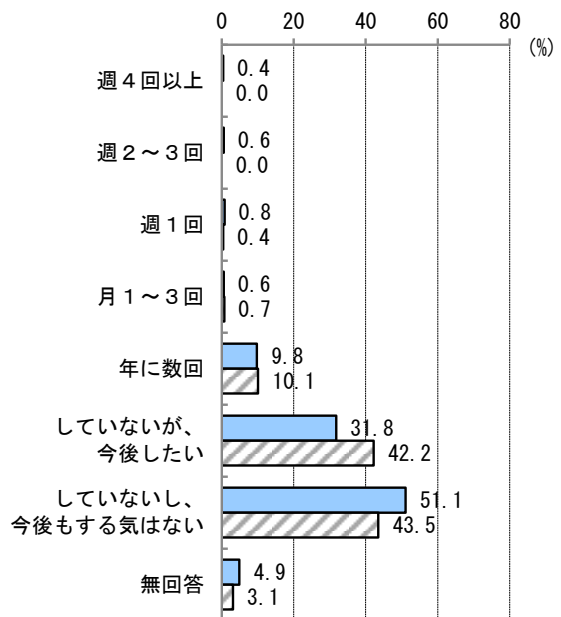
(2) 介護が必要な高齢者を支援する活動



(3) 子どもを育てている親を支援する活動



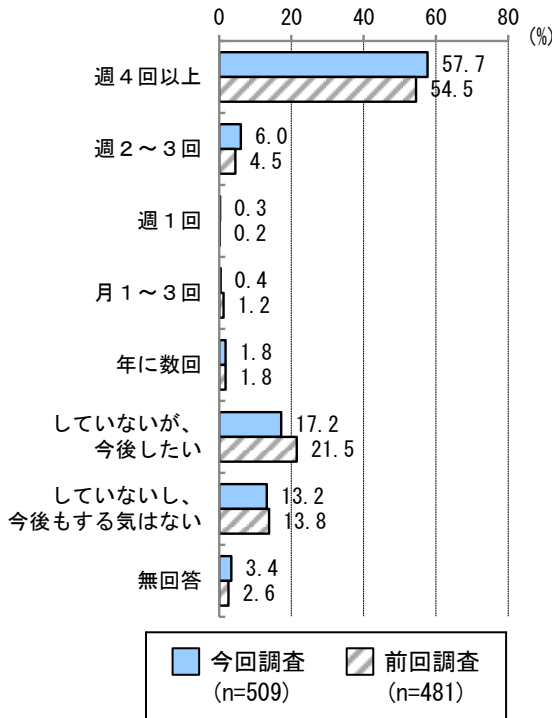
(4) 地域の生活環境の改善（美化）活動



■ 今回調査 (n=509) ▨ 前回調査 (n=481)

【図 3-2 社会参加活動や仕事の頻度②】

(5) 収入のある仕事



社会参加活動は、いずれも「していないし、今後する気はない」が最も多くなっています。活動している人では、見守りが必要な高齢者を支援する活動と、介護が必要な高齢者を支援する活動で「週4回以上」（見守り支援 3.3%、介護支援 3.0%）、子どもを育てている親を支援する活動と、地域の生活環境の改善（美化）活動で「年に数回」（子育て支援 2.6%、美化活動 9.8%）が、それぞれ最も多くなっています。

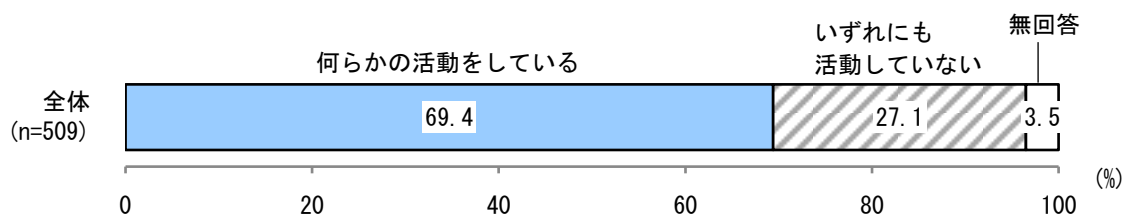
収入のある仕事では、「週4回以上」が57.7%で最も多く、「していないが、今後したい」は17.2%となっています。

前回調査と比較すると、「していないが、今後したい」は、地域の生活環境の改善（美化）活動で10.4ポイント、子どもを育てている親を支援する活動が9.5ポイント、見守りが必要な高齢者を支援する活動が8.8ポイント、介護が必要な高齢者を支援する活動が7.3ポイント低くなっています。

また、収入のある仕事では「週4回以上」が3.2ポイント高くなっています。（図3-2）

上記（1）～（5）の社会参加活動や仕事のうち、「何らかの活動をしている」比率は69.4%となっています。（図3-2-1）

【図 3-2-1 社会参加活動や仕事の活動比率】



見守りが必要な高齢者を支援する活動の頻度について、年齢別でみると、「週4回以上」と「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」、「年に数回」を合わせた『活動している』割合は、40～44歳が8.0%で最も高く、次いで55～59歳が7.1%となっています。

家族構成別でみると、『活動している』割合は、単身世帯（ひとり暮らし）が7.8%で最も高く、次いで一世代（夫婦のみ）が7.6%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護をしている人の『活動している』割合は12.9%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（6.6%）より6.3ポイント高くなっています。（表3-2①-1）

【表3-2①-1 年齢別・家族構成別 見守りが必要な高齢者を支援する活動の頻度】

(単位：%)

		(1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たして いないが、 今後し	する 気はないし、 今後も	無回答
年齢	40～44歳 (n=87)	3.2	0.0	0.0	4.8	0.0	14.5	74.2	3.2
	45～49歳 (n=101)	1.4	0.0	0.0	0.0	2.7	20.3	74.3	1.4
	50～54歳 (n=120)	4.1	0.0	0.0	0.0	2.7	18.9	73.0	1.4
	55～59歳 (n=106)	4.7	0.0	0.0	0.0	2.4	23.5	60.0	9.4
	60歳以上 (n=92)	1.9	0.0	0.9	0.9	0.5	30.3	56.4	9.0
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	6.1	0.0	0.0	0.0	1.7	24.1	63.1	5.1
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	4.8	0.0	0.9	1.9	0.0	19.9	66.8	5.8
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	0.0	0.0	0.0	2.2	2.6	17.2	74.7	3.4
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	2.9	0.0	0.0	0.2	1.8	21.8	68.5	4.7
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	28.2	61.0	5.9
家族への介護	している (n=75)	6.0	0.0	1.2	0.0	5.7	20.6	57.6	9.0
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	3.1	0.0	0.0	1.8	1.7	20.9	68.8	3.6
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	22.3	70.8	4.4

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

介護が必要な高齢者を支援する活動の頻度について、年齢別で見ると、『活動している』割合は、40～44歳が8.0%で最も高く、次いで55～59歳が7.1%となっています。

家族構成別で見ると、『活動している』割合は、単身世帯（ひとり暮らし）が9.5%で最も高く、次いで一世代（夫婦のみ）が7.7%となっています。

家族への介護有無別で見ると、介護をしている人の『活動している』割合は11.8%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（5.8%）より6.0ポイント高くなっています。（表3-2②-1）

【表3-2②-1 年齢別・家族構成別 介護が必要な高齢者を支援する活動の頻度】

(単位：%)

		(2) 介護が必要な高齢者を支援する活動							
		週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	た し て い な い が、 今 後 し	す し て い な い し、 今 後 も	無 回 答
年 齢	40～44歳 (n=87)	1.6	0.0	1.6	3.2	1.6	14.5	74.2	3.2
	45～49歳 (n=101)	1.4	0.0	0.0	0.0	2.7	18.9	75.7	1.4
	50～54歳 (n=120)	4.1	0.0	0.0	0.0	1.4	20.3	73.0	1.4
	55～59歳 (n=106)	4.7	1.2	0.0	0.0	1.2	22.4	61.2	9.4
	60歳以上 (n=92)	1.9	0.0	0.5	0.9	0.9	23.2	63.5	9.0
家 族 構 成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	6.1	1.7	0.0	0.0	1.7	20.7	66.5	3.5
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	4.8	0.0	0.5	1.9	0.5	15.8	70.9	5.8
	二世帯同居（夫婦と親） (n=63)	0.0	0.0	2.2	0.0	2.6	15.8	76.1	3.4
	二世帯同居（夫婦と子） (n=230)	2.3	0.0	0.0	0.2	1.2	21.8	69.2	5.3
	三世帯同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	27.5	61.7	5.9
家 族 有 無 の 介 護	している (n=75)	4.1	1.7	0.6	0.0	5.4	23.2	57.8	7.3
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	3.1	0.0	0.5	1.3	0.9	19.0	71.0	4.1
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	2.4	0.0	0.0	0.0	0.9	19.2	73.0	4.4

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

子どもを育てている親を支援する活動の頻度について、年齢別で見ると、『活動している』割合は、40～44歳が6.4%で最も高く、次いで60歳以上が6.1%となっています。

家族構成別で見ると、『活動している』割合は、二世世代同居（夫婦と親）が9.3%で最も高く、次いで一世代（夫婦のみ）が6.8%となっています。

家族への介護有無別で見ると、介護をしている人の『活動している』割合は11.5%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（4.4%）より7.1ポイント高くなっています。（表3-2③-1）

【表3-2③-1 年齢別・家族構成別 子どもを育てている親を支援する活動の頻度】

(単位：%)

		(3) 子どもを育てている親を支援する活動							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たしていないが、今後し	すして気はないし、今後もし	無回答
年齢	40～44歳 (n=87)	1.6	0.0	1.6	0.0	3.2	35.5	56.5	1.6
	45～49歳 (n=101)	1.4	0.0	0.0	0.0	2.7	35.1	59.5	1.4
	50～54歳 (n=120)	1.4	0.0	0.0	1.4	2.7	24.3	68.9	1.4
	55～59歳 (n=106)	0.0	0.0	0.0	1.2	2.4	27.1	60.0	9.4
	60歳以上 (n=92)	1.9	0.0	0.9	1.4	1.9	28.4	56.9	8.5
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	1.2	0.0	0.6	1.7	0.0	24.6	66.9	5.1
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.5	0.0	0.5	3.1	2.7	20.9	67.2	5.3
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	4.8	0.0	0.0	0.0	4.5	24.4	63.7	2.7
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	0.2	0.0	0.0	0.0	2.7	36.2	56.5	4.3
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	36.5	52.8	5.9
家族有への介護	している (n=75)	3.0	0.0	0.0	2.8	5.7	23.2	57.0	8.4
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.2	0.0	0.5	0.5	3.2	29.5	62.4	3.7
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	2.3	0.0	0.6	0.6	0.0	32.8	60.4	3.4

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

地域の生活環境の改善（美化）の活動の頻度について、年齢別で見ると、『活動している』割合は、60歳以上が15.6%で最も高く、次いで50～54歳が15.0%となっています。

家族構成別で見ると、『活動している』割合は、二世帯同居（夫婦と親）が15.9%で最も高く、次いで二世帯同居（夫婦と子）が13.9%となっています。

家族への介護有無別で見ると、介護をしている人の『活動している』割合は15.9%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（14.2%）より1.7ポイント高くなっています。（表3-2④-1）

【表3-2④-1 年齢別・家族構成別 地域の生活環境の改善（美化）活動の頻度】

(単位：%)

		(4) 地域の生活環境の改善（美化）活動							無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たしていないが、今後し	すしていないし、今後もしない	
年齢	40～44歳 (n=87)	0.0	0.0	0.0	1.6	8.1	33.9	53.2	3.2
	45～49歳 (n=101)	0.0	0.0	1.4	1.4	5.4	35.1	55.4	1.4
	50～54歳 (n=120)	0.0	1.4	1.4	0.0	12.2	20.3	63.5	1.4
	55～59歳 (n=106)	1.2	1.2	0.0	0.0	9.4	34.1	43.5	10.6
	60歳以上 (n=92)	0.9	0.0	1.4	0.5	12.8	39.3	37.4	7.6
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	1.7	0.0	0.6	0.0	3.3	39.3	50.6	4.5
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	0.0	1.3	0.0	0.5	7.7	30.5	54.7	5.3
	二世帯同居（夫婦と親） (n=63)	0.7	0.0	0.0	4.4	10.8	35.9	45.5	2.7
	二世帯同居（夫婦と子） (n=230)	0.2	0.7	1.7	0.0	11.3	30.4	50.5	5.3
	三世帯同居（夫婦と親と子） (n=28)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8	22.9	60.4	5.9
家族への介護	している (n=75)	0.6	2.2	2.4	0.0	10.7	33.6	42.1	8.4
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	0.0	0.5	0.7	1.2	11.8	30.1	52.0	3.8
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	1.1	0.0	0.3	0.0	6.1	32.9	55.2	4.4

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

収入のある仕事の頻度について、年齢別でみると、「週4回以上」の割合は、50～54歳が64.9%で最も高く、次いで45～49歳が63.5%となっています。

家族構成別でみると、「週4回以上」の割合は、二世世代同居（夫婦と親）が62.1%で最も高く、次いで二世世代同居（夫婦と子）が61.2%となっています。

家族への介護有無別でみると、介護をしている人の『活動している』割合は54.8%となっており、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人（64.9%）より10.1ポイント低くなっています。（表3-2⑤-1）

【表3-2⑤-1 年齢別・家族構成別 収入のある仕事の頻度】

(単位：%)

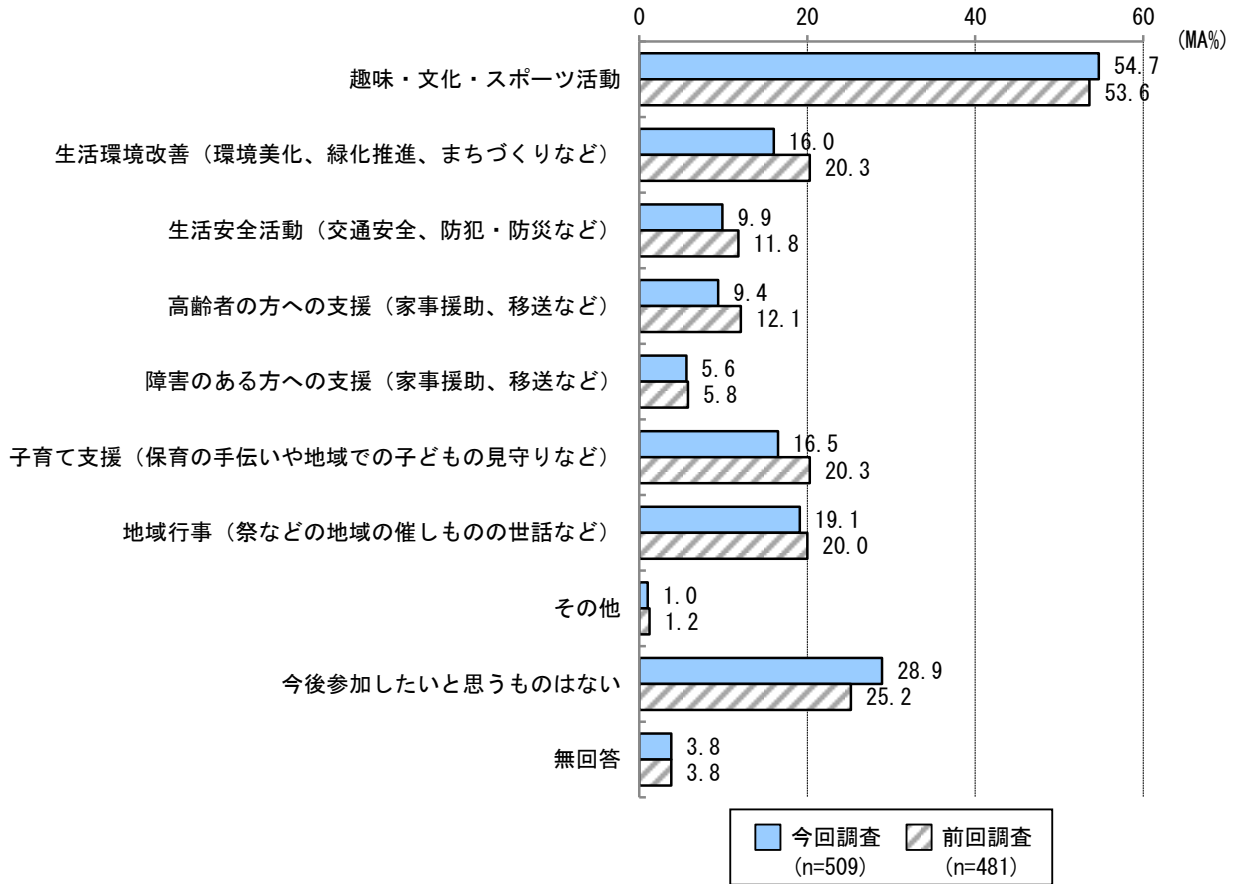
		(5) 収入のある仕事							
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	たしていないが、今後し	すしていないし、今後もしない	無回答
年齢	40～44歳 (n=87)	61.3	8.1	0.0	0.0	1.6	14.5	11.3	3.2
	45～49歳 (n=101)	63.5	5.4	0.0	1.4	0.0	17.6	12.2	0.0
	50～54歳 (n=120)	64.9	5.4	0.0	0.0	1.4	14.9	12.2	1.4
	55～59歳 (n=106)	49.4	3.5	0.0	0.0	3.5	23.5	14.1	5.9
	60歳以上 (n=92)	48.8	8.5	1.4	0.9	2.4	14.7	17.1	6.2
家族構成	単身世帯（ひとり暮らし） (n=75)	52.7	3.6	0.6	0.0	3.3	16.0	22.1	1.7
	一世代（夫婦のみ） (n=96)	53.2	6.0	0.9	0.0	1.4	18.7	14.9	4.9
	二世世代同居（夫婦と親） (n=63)	62.1	5.4	0.0	0.7	2.2	19.6	9.3	0.7
	二世世代同居（夫婦と子） (n=230)	61.2	6.9	0.0	0.8	1.4	14.9	11.1	3.6
	三世世代同居（夫婦と親と子） (n=28)	52.4	9.8	0.0	0.0	1.5	18.0	12.2	5.9
家族有への介護	している (n=75)	47.5	5.5	0.6	0.6	0.6	24.5	17.4	3.4
	していないが将来介護を必要とする方がいる (n=276)	54.9	7.6	0.3	0.2	1.9	18.3	13.5	3.3
	将来介護を必要とする方がいない (n=154)	68.1	3.5	0.0	0.9	2.2	11.4	11.2	2.7

※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(3) 今後参加したい自主活動

問24. あなたは、個人又は友人、あるいはグループで自主的に行われている次のような活動に、今後参加したいと思うものはありますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 3-3 今後参加したい自主活動】

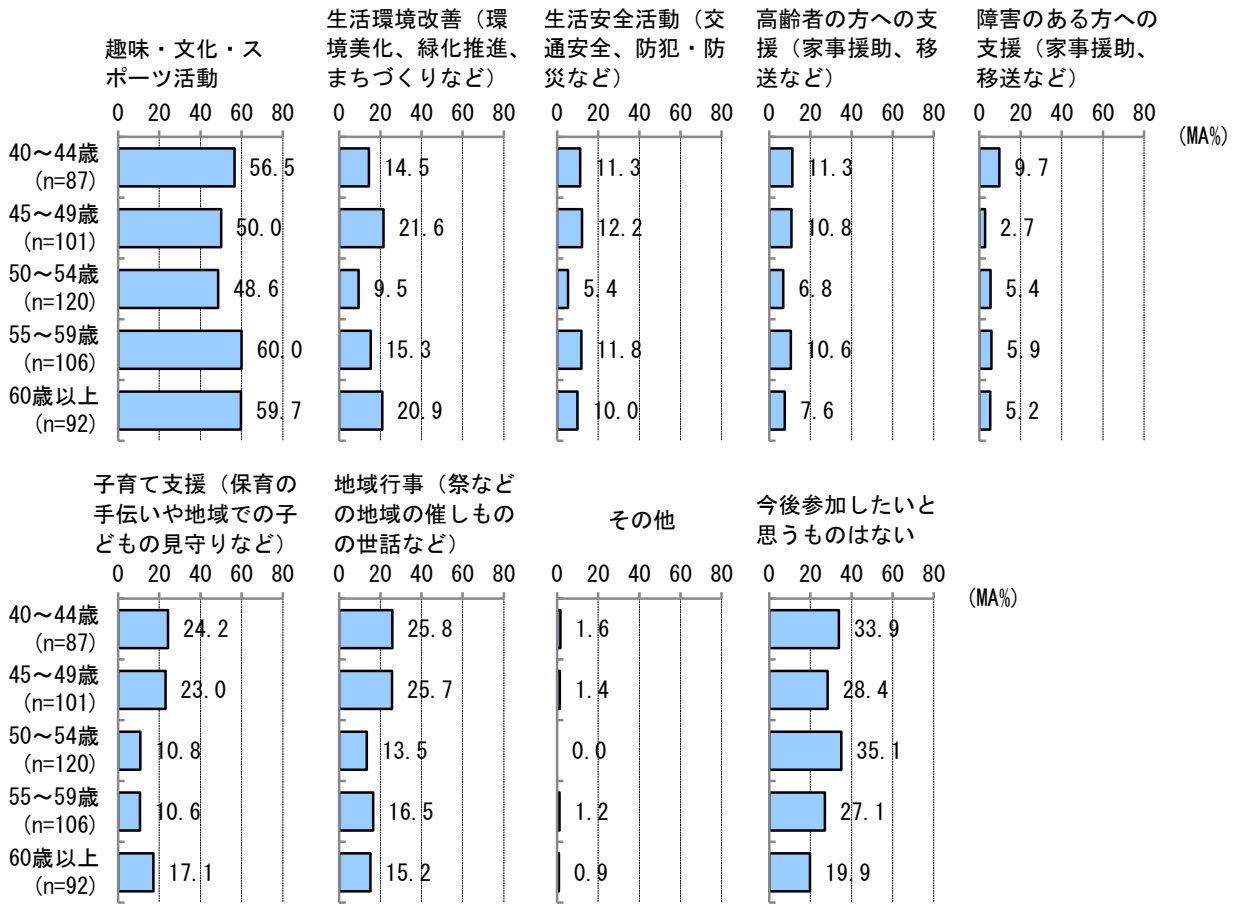


今後参加したい自主活動については、「趣味・文化・スポーツ活動」が54.7%で最も多く、次いで「地域行事（祭などの地域の催しものの世話など）」が19.1%、「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」が16.5%、「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」が16.0%となっています。一方、「今後参加したいと思うものはない」は28.9%となっています。

前回調査と比較すると、「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」が4.3ポイント、「子育て支援（保育の手伝いや地域での子どもの見守りなど）」が3.8ポイント低くなっています。（図3-3）

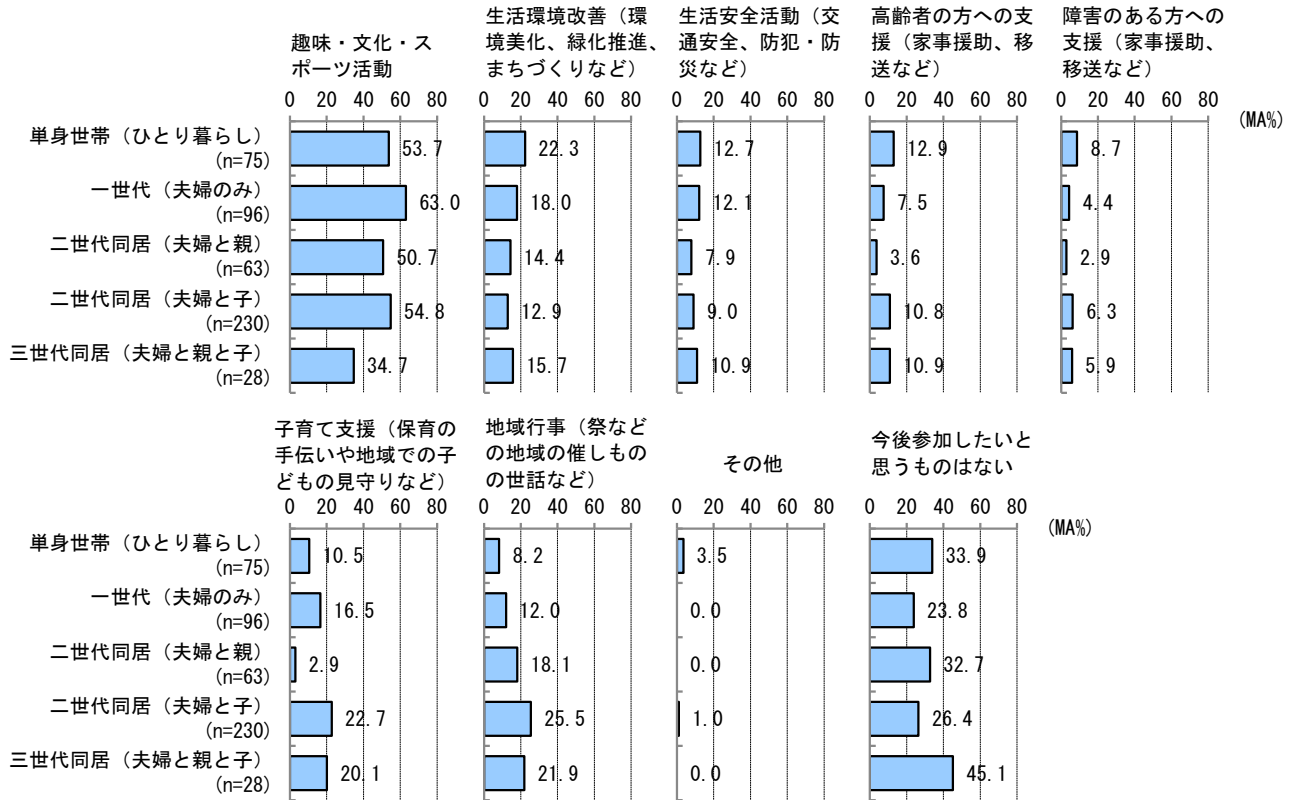
年齢別でみると、いずれの年代も「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く、これに次いで、40歳～59歳の各年代は「地域行事（祭などの地域の催しものの世話など）」、60歳以上は「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」（20.9%）が、それぞれ多くなっています。（図3-3-1）

【図3-3-1 年齢別 今後参加したい自主活動】



家族構成別でみると、いずれの世帯も「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く、これに次いで、単身世帯（ひとり暮らし）と一世代（夫婦のみ）は「生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）」、それ以外の世帯は「地域行事（祭などの地域の催しもの世話など）」が、それぞれ多くなっています。（図3-3-2）

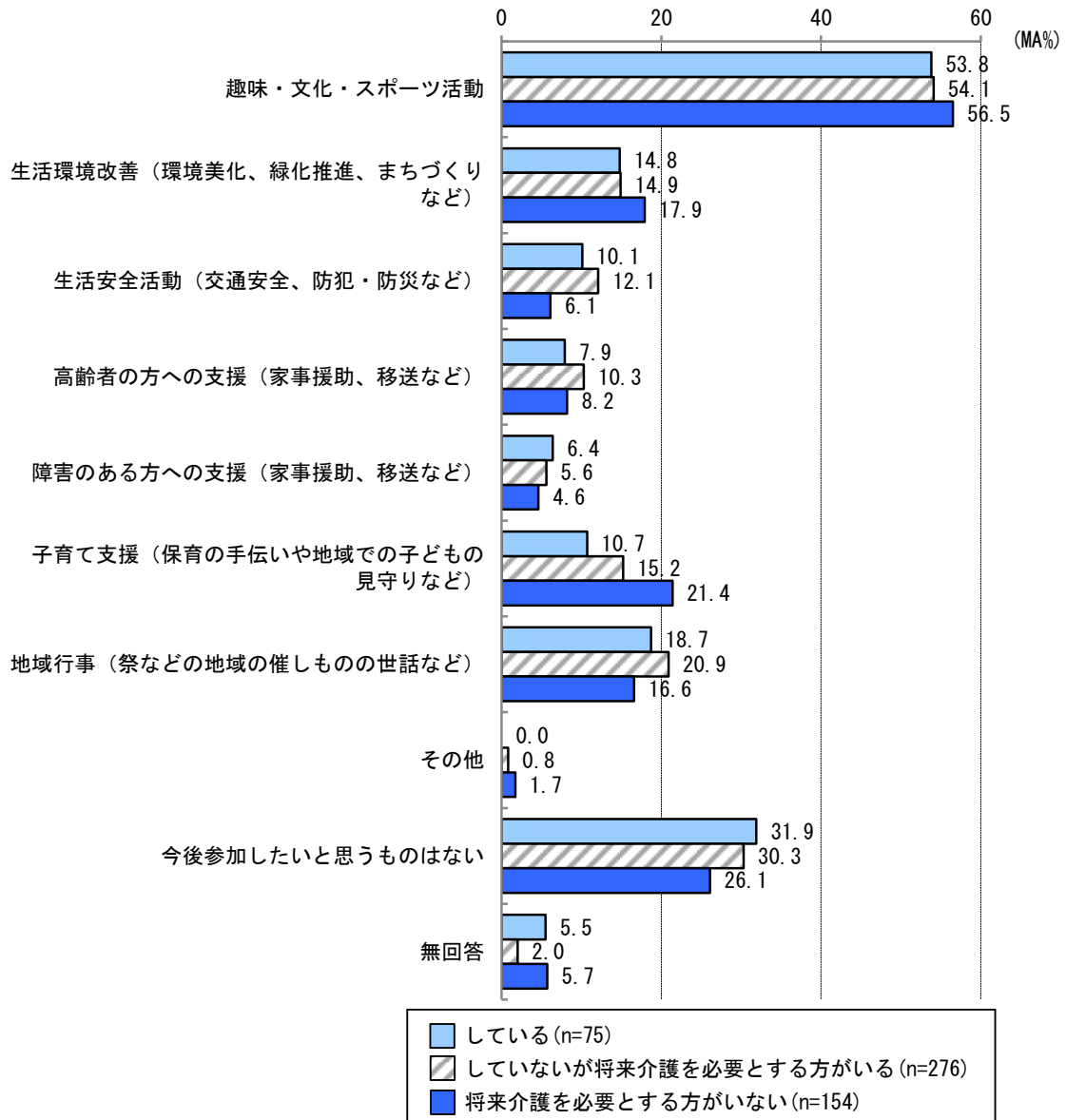
【図3-3-2 家族構成別 今後参加したい自主活動】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

家族への介護有無別でみると、介護をしている人では「趣味・文化・スポーツ活動」が53.8%で最も多く、次いで「地域行事（祭などの地域の催しものの世話など）」が18.7%となっています。（図3-3-3）

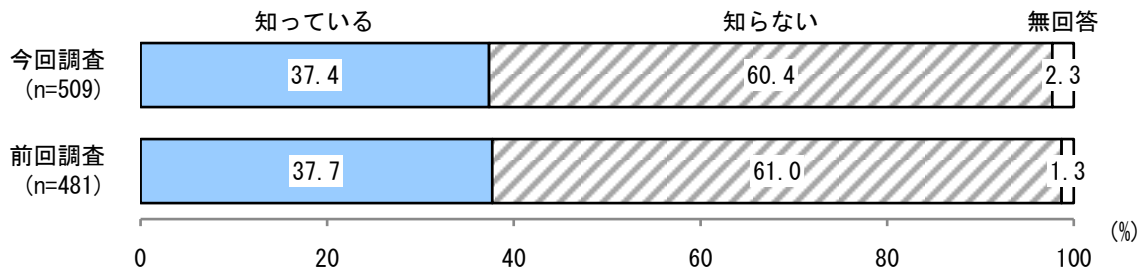
【図 3-3-3 家族への介護有無別 今後参加したい自主活動】



(4) 地域包括支援センターの認知度

問25. あなたは地域包括支援センター（愛称：高齢サポート）を知っていますか。〈○は1つ〉

【図3-4 地域包括支援センターの認知度】

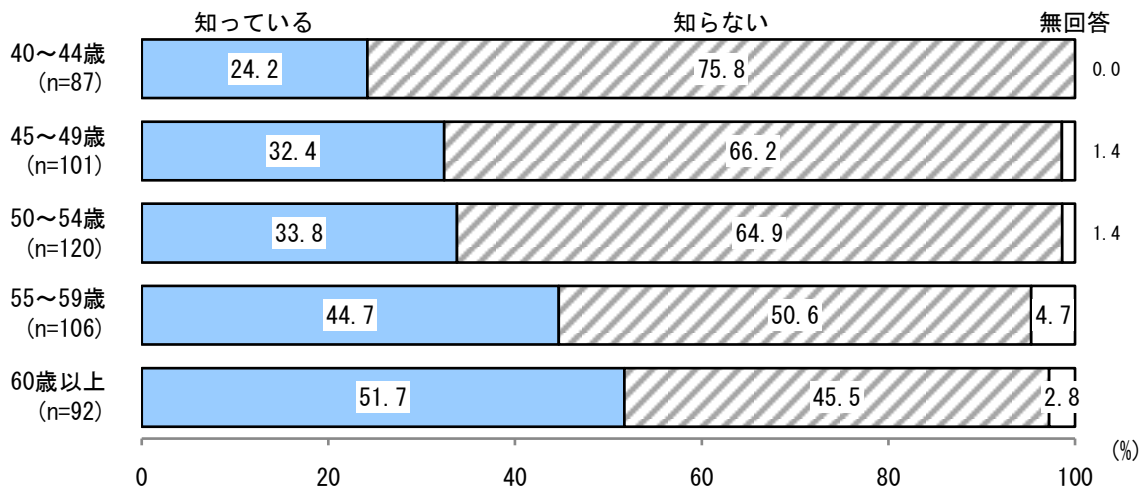


地域包括支援センターを知っているかについては、「知っている」が37.4%、「知らない」が60.4%となっています。

前回調査と比較しても、大きな差異はみられません。(図3-4)

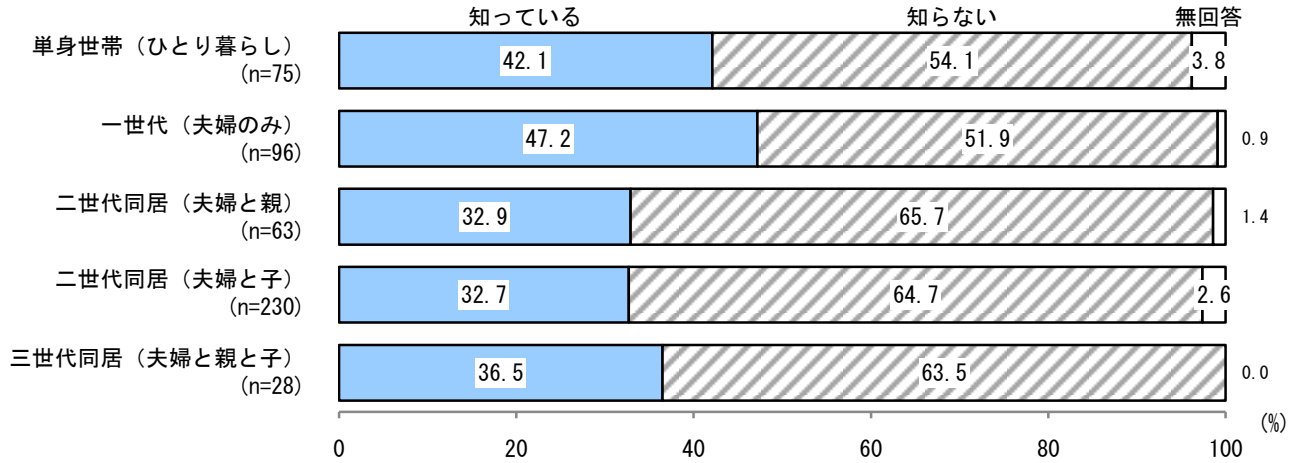
年齢別でみると、「知っている」の割合は、年代が上がるほど高く、60歳以上が51.7%で最も高くなっています。(図3-4-1)

【図3-4-1 年齢別 地域包括支援センターの認知度】



家族構成別でみると、「知っている」の割合は、一世代（夫婦のみ）が47.2%で最も高く、次いで単身世帯（ひとり暮らし）が42.1%となっており、親と同居している世帯に認知度の低い傾向がみられます。（図3-4-2）

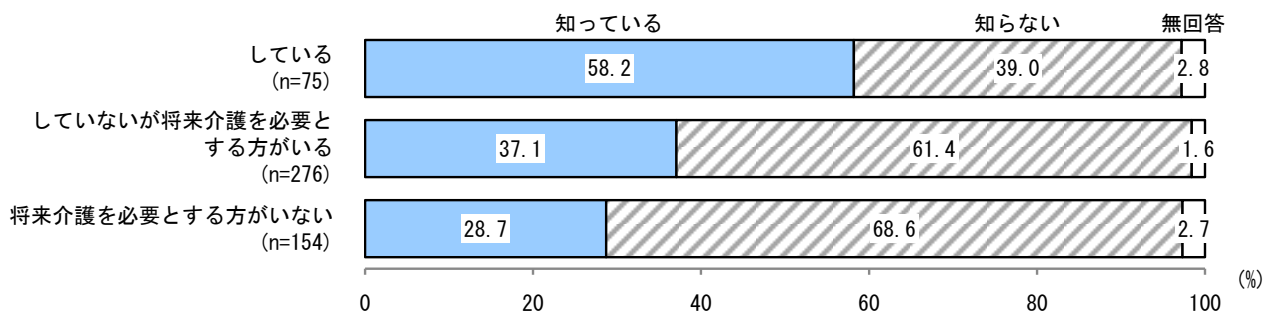
【図 3-4-2 家族構成別 地域包括支援センターの認知度】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

家族への介護有無別でみると、「知っている」の割合は、介護をしている人が58.2%に対し、介護をしていないが将来介護を必要とする方がいる人は37.1%で、介護をしている人のほうが21.1ポイント高くなっています。（図3-4-3）

【図 3-4-3 家族への介護有無別 地域包括支援センターの認知度】

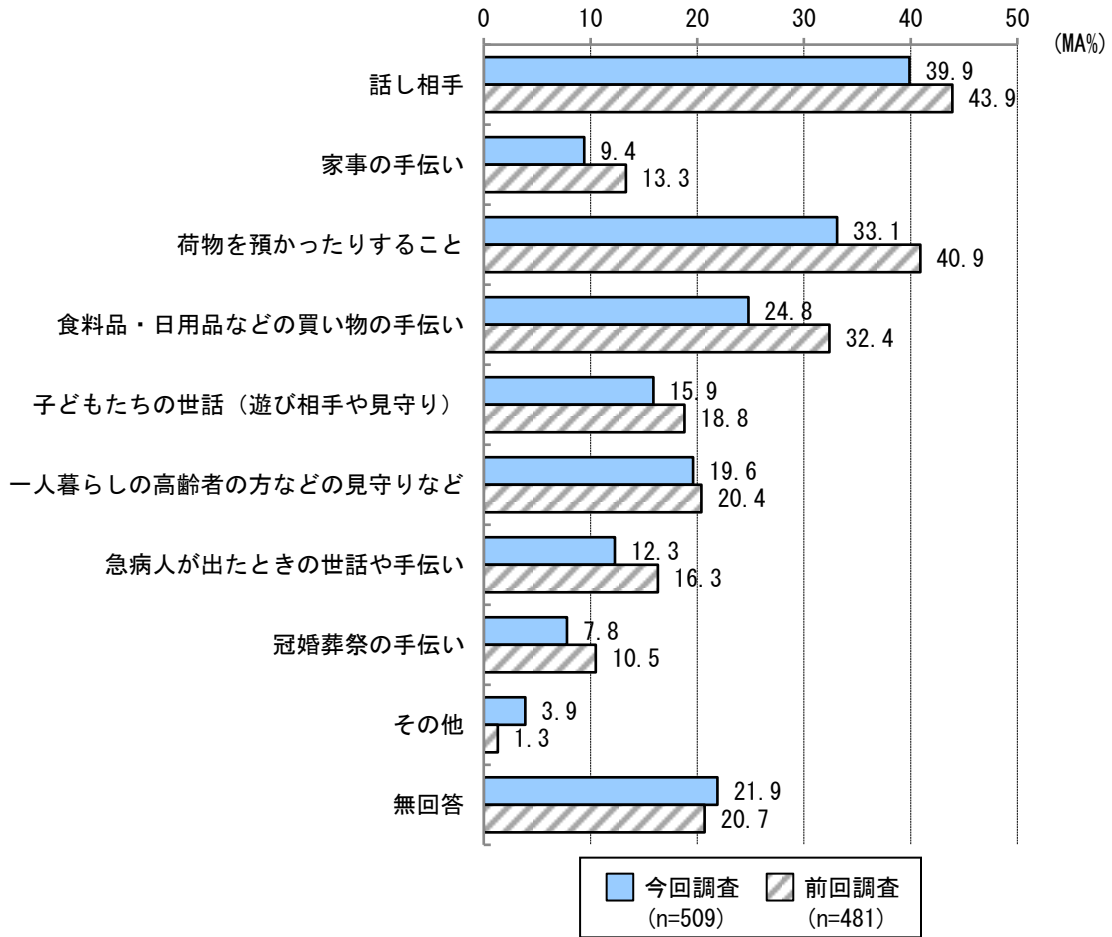


(5) 近所の人に手助けや協力ができること

問26. あなた自身が御近所で手助けや協力ができることがありますか。

<あてはまるものすべてに○>

【図3-5 近所の人に手助けや協力ができること】

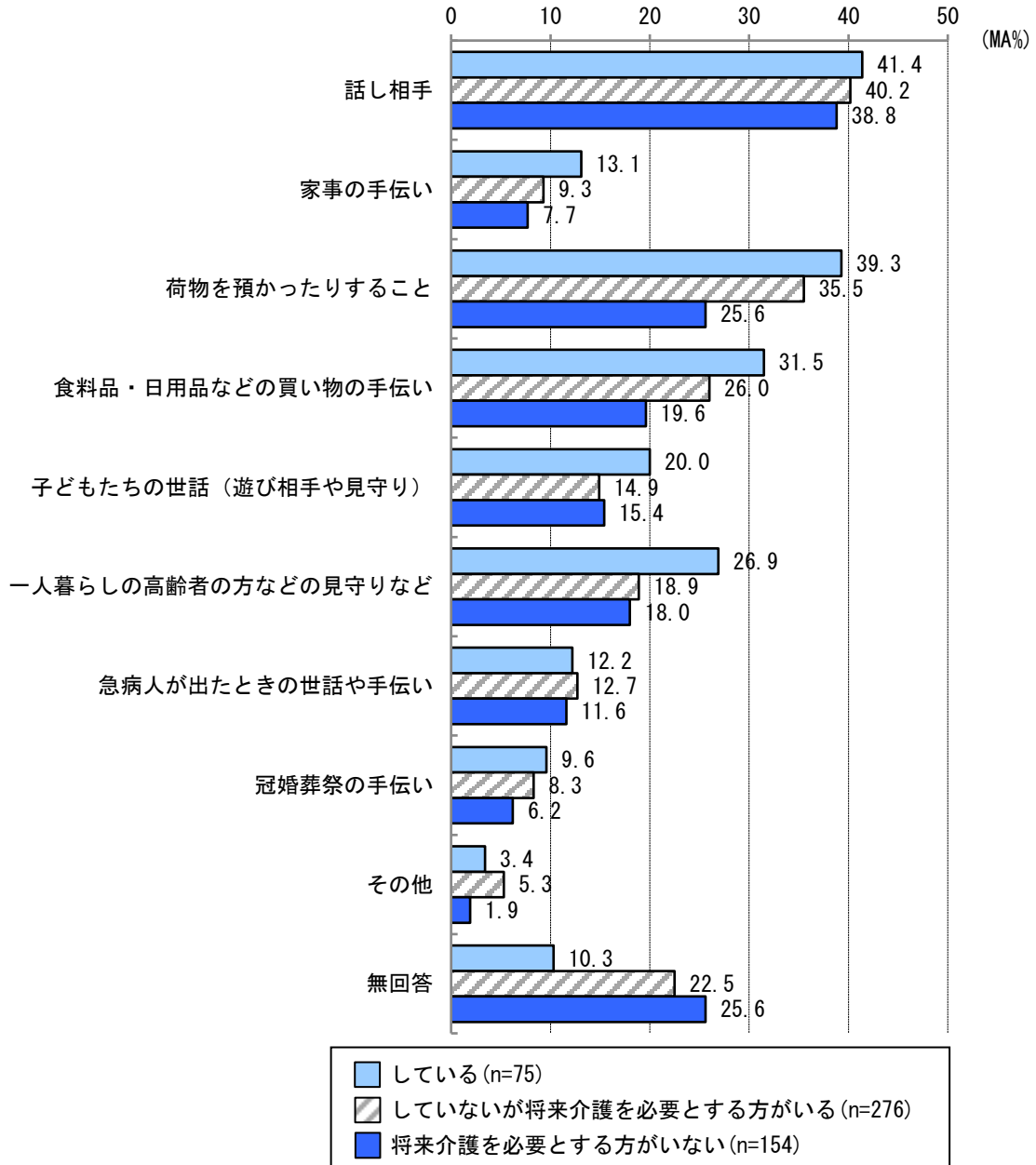


近所の人に手助けや協力ができることについては、「話し相手」が39.9%で最も多く、次いで「荷物を預かったりすること」が33.1%、「食料品・日用品などの買い物の手伝い」が24.8%となっています。

前回調査と比較すると、「荷物を預かったりすること」が7.8ポイント、「食料品・日用品などの買い物の手伝い」が7.6ポイント低くなっています。(図3-5)

家族への介護有無別でみると、介護をしている人では、「話し相手」が41.4%で最も多く、次いで「荷物を預かったりすること」が39.3%、「食料品・日用品などの買い物の手伝い」が31.5%となっています。「急病人が出たときの世話や手伝い」を除くすべての項目で介護をしている人のほうが割合が最も高くなっています。(図3-5-1)

【図 3-5-1 家族への介護有無別 近所の人に手助けや協力ができること】

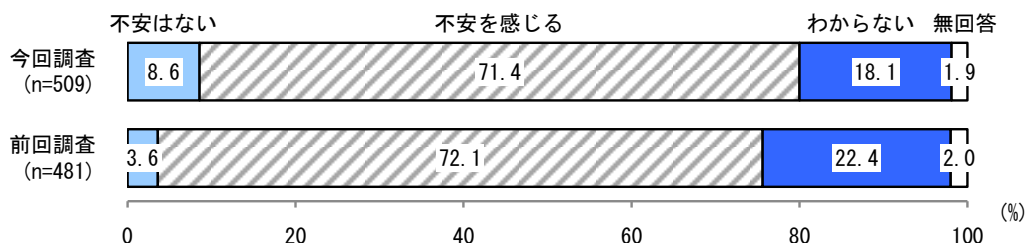


4 高齢期について

(1) 老後の生活に対する不安感

問27. あなたは、老後の生活に不安を感じていますか。〈○は1つ〉

【図 4-1 老後の生活に対する不安感】

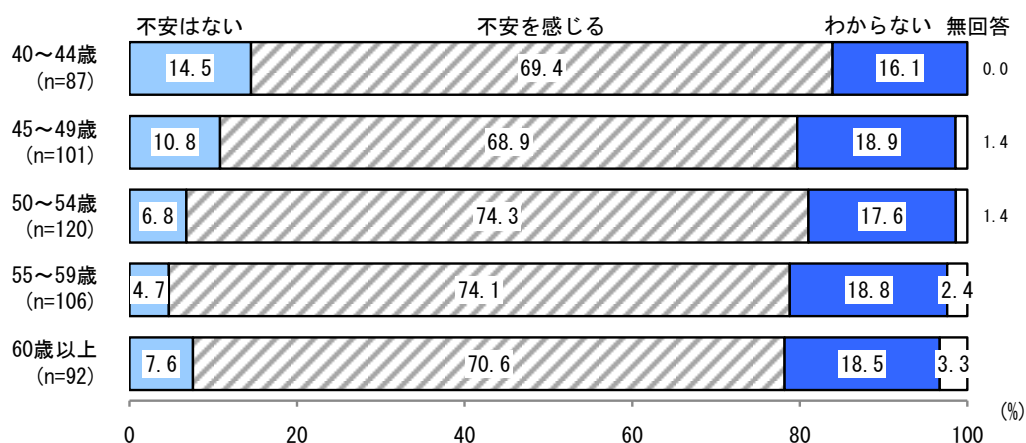


老後の生活に不安を感じているかについては、「不安はない」が8.6%、「不安を感じる」が71.4%、「わからない」が18.1%となっています。

前回調査と比較すると、「不安はない」が5.0ポイント高くなっています。(図4-1)

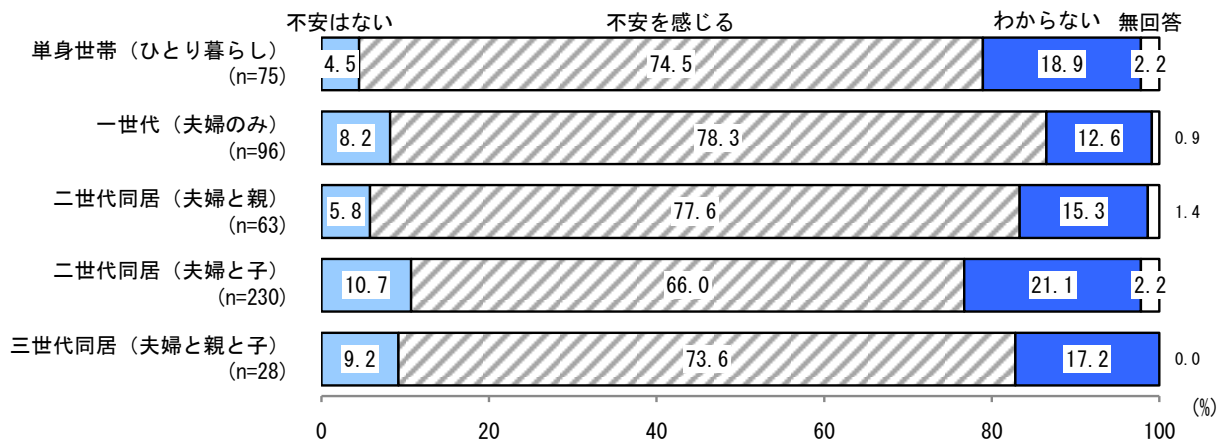
年齢別でみると、「不安を感じる」割合では、40～44歳、45～49歳が6割台に対し、50歳以降になると7割台と高くなっています。(図4-1-1)

【図 4-1-1 年齢別 老後の生活に対する不安感】



家族構成別でみると、「不安を感じる」割合では、一世代（夫婦のみ）が78.3%で最も高く、次いで二世帯同居（夫婦と親）が77.6%となっています。(図4-1-2)

【図 4-1-2 家族構成別 老後の生活に対する不安感】

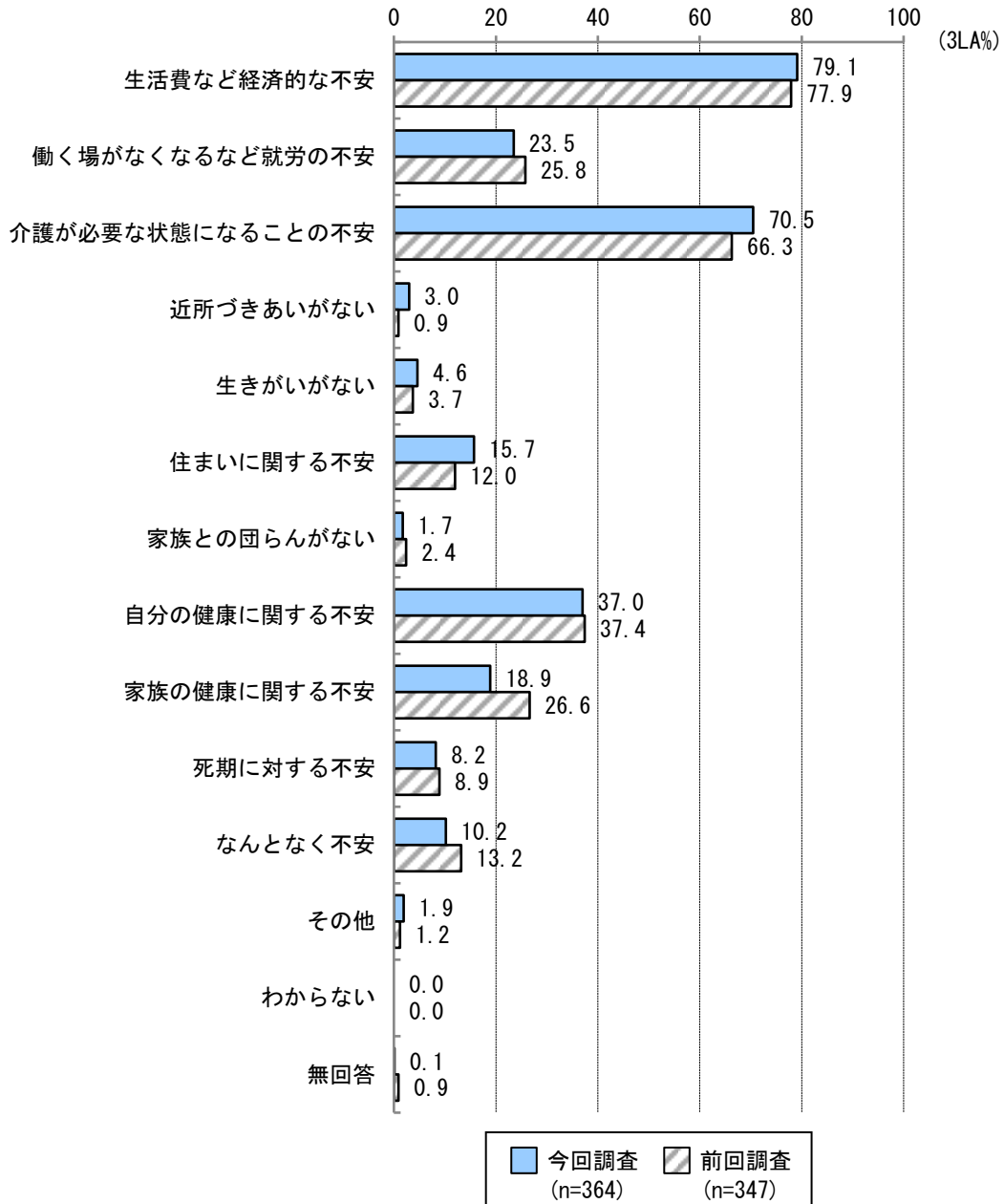


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(2) 老後の生活に不安を感じること

問27-1. 問27で「2. 不安を感じる」と回答した方にお聞きします。
 どんなことに不安を感じますか。〈○は3つまで〉

【図4-2 老後の生活に不安を感じること】

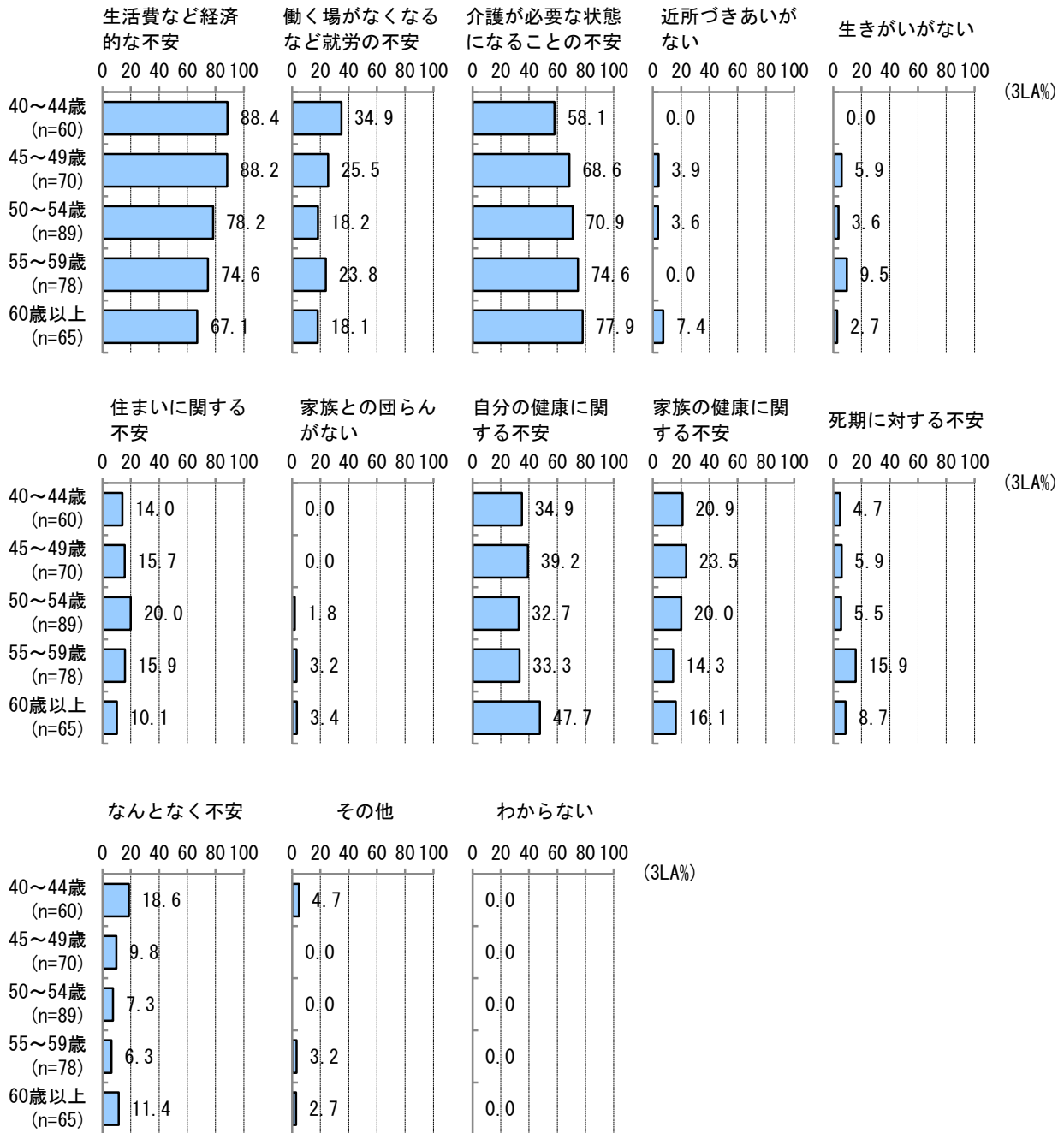


老後の生活に不安を感じると回答した人に、どんなことに不安を感じるかたずねたところ、「生活費など経済的な不安」が79.1%で最も多く、次いで「介護が必要な状態になることの不安」が70.5%、「自分の健康に関する不安」が37.0%となっています。

前回調査と比較すると、「介護が必要な状態になることの不安」が4.2ポイント、「住まいに関する不安」が3.7ポイント高くなっています。(図4-2)

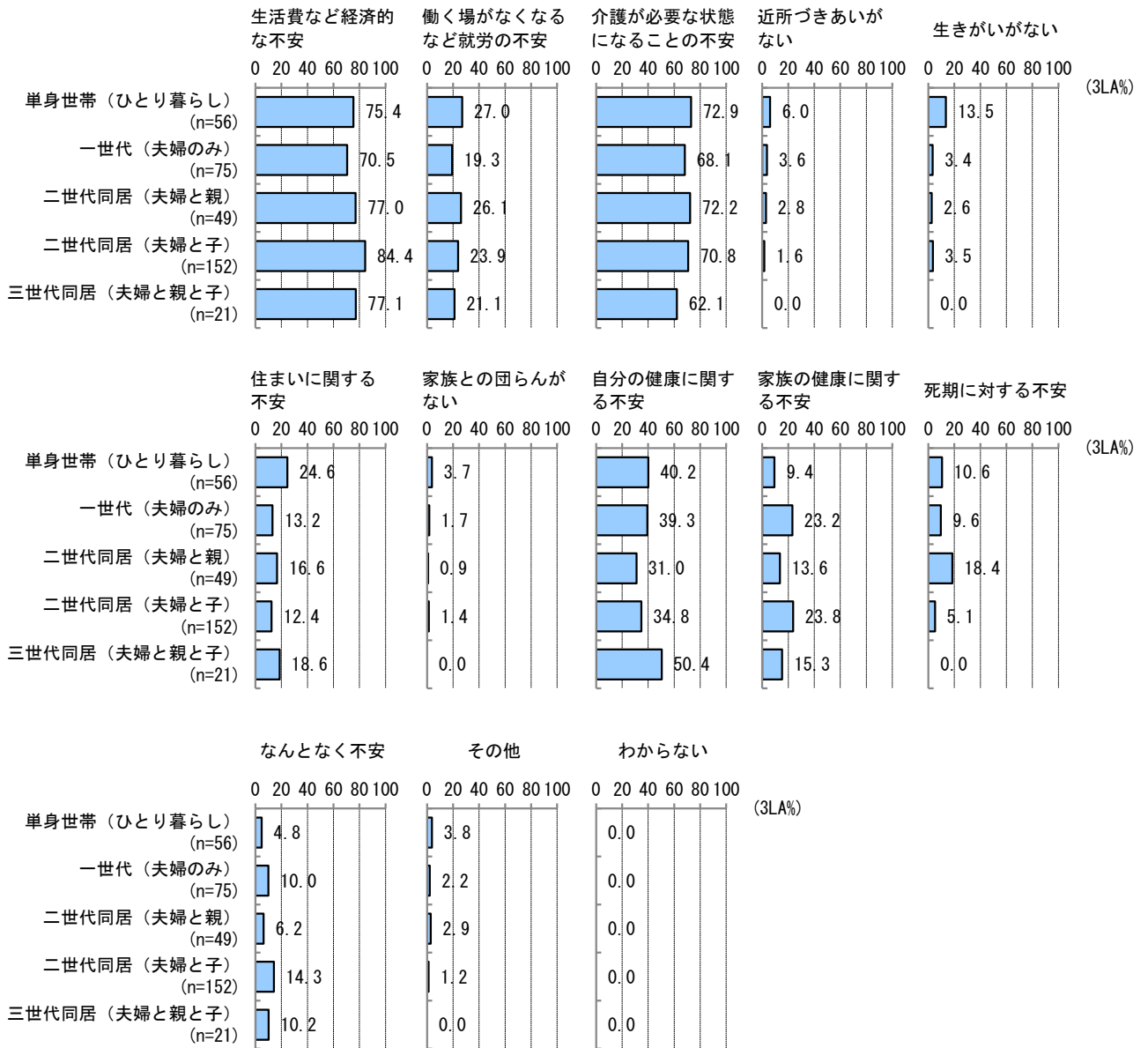
年齢別で見ると、年代が上がるほど「介護が必要な状態になることへの不安」が高くなっており、60歳以上になると「自分の健康に関する不安」(47.7%)が比較的高い割合になっています。また、40～44歳は「生活費など経済的な不安」(88.4%)、「働く場がなくなるなど就労の不安」(34.9%)、「なんとなく不安」(18.6%)で他の年代と比べて高い割合になっています。(図4-2-1)

【図4-2-1 年齢別 老後の生活に不安を感じること】



家族構成別でみると、いずれの世帯でも「生活費など経済的な不安」、「介護が必要な状態になること不安」が高い割合になっています。また、単身世帯（ひとり暮らし）では「働く場がなくなるなど就労不安」(27.0%)、「生きがいが無い」(13.5%)、「住まいに関する不安」(24.6%)が、他の世帯と比べて高い割合になっています。(図4-2-2)

【図4-2-2 家族構成別 老後の生活に不安を感じる事】

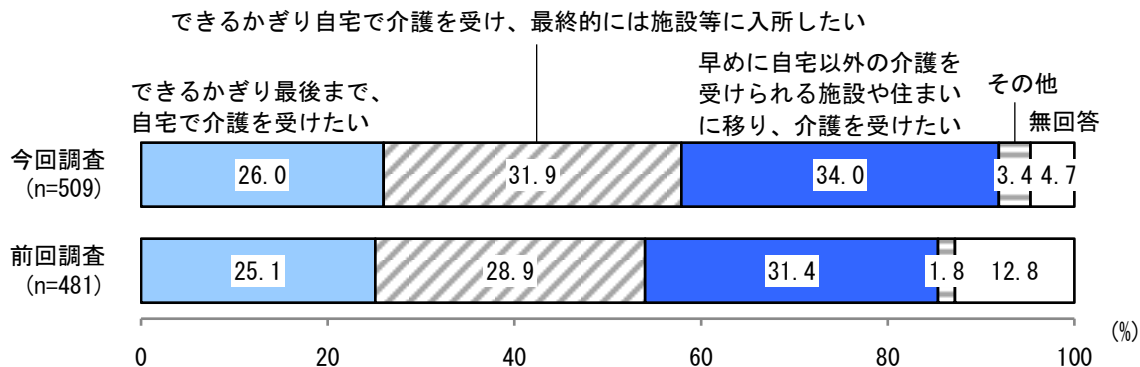


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(3) 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所

問28. あなた自身に介護が必要になった時に、あなたはどこで介護を受けたいですか。
 <○は1つ>

【図4-3 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

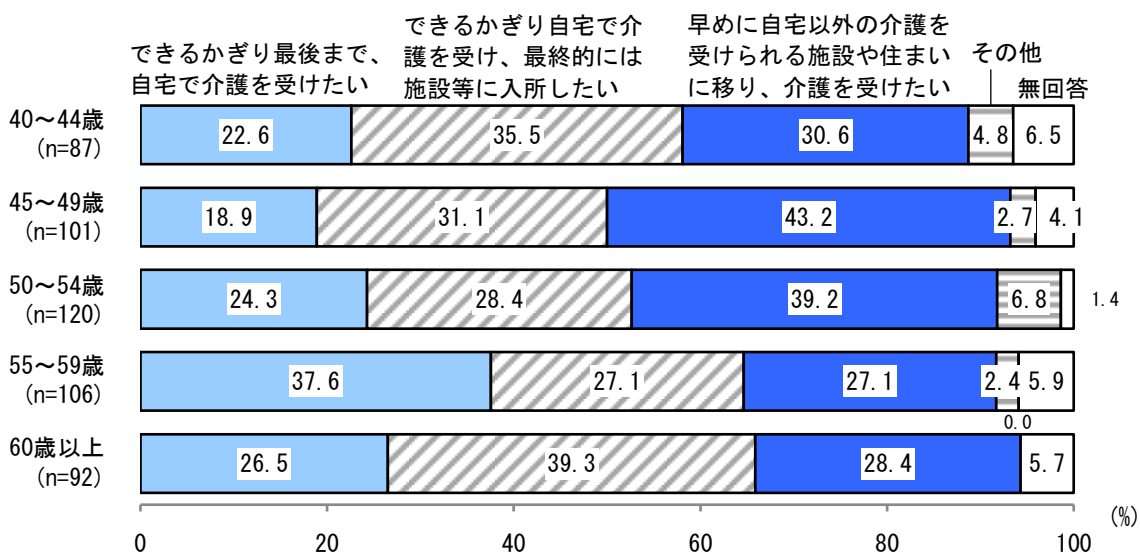


自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所については、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が34.0%で最も多く、次いで「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が31.9%、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が26.0%となっています。

前回調査と比較すると、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が3.0ポイント、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が2.6ポイント高くなっています。(図4-3)

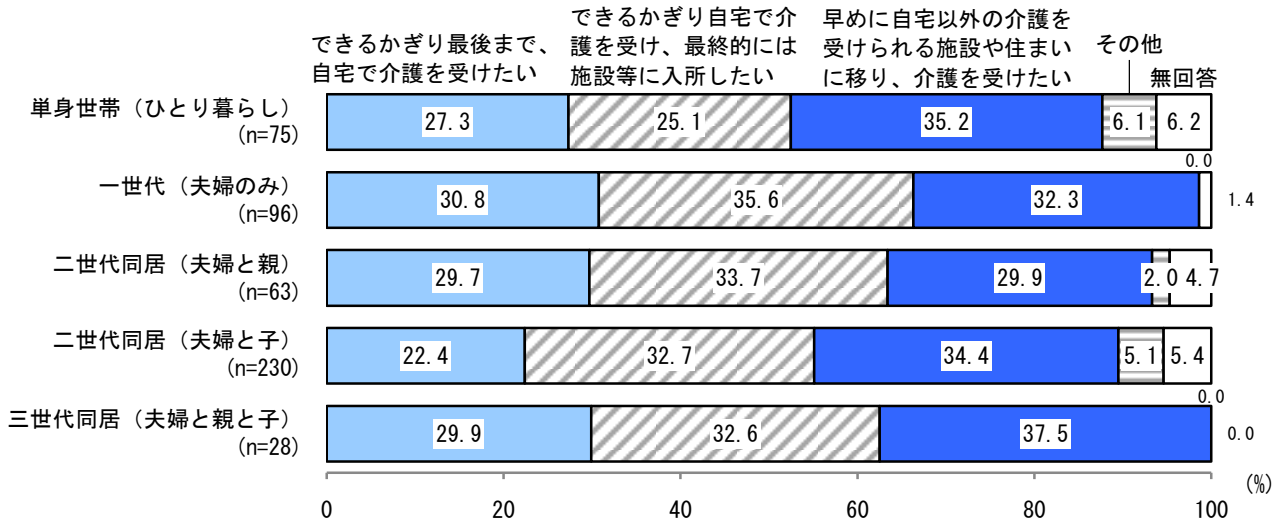
年齢別で見ると、40～44歳、60歳以上の各年代では「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっていますが、45～49歳、50～54歳になると「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」、55歳～59歳では「できるかぎり最後まで自宅で介護を受けたい」が最も多くなっています。(図4-3-1)

【図4-3-1 年齢別 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】



家族構成別でみると、単身世帯（ひとり暮らし）、二世世代同居（夫婦と子）、三世世代同居（夫婦と親と子）は「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が最も多く、一世代（夫婦のみ）、二世世代同居（夫婦と親）は「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が最も多くなっています。（図4-3-2）

【図 4-3-2 家族構成別 自身に介護が必要になった場合に介護を受けたい場所】

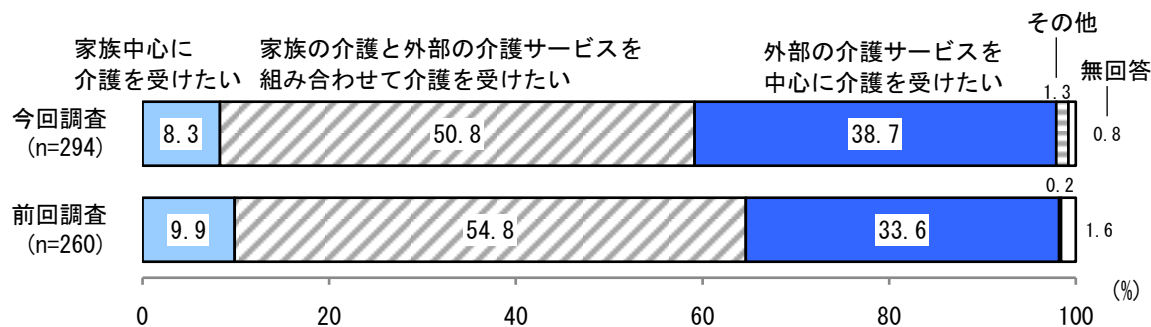


※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(4) 希望する在宅の介護方法

問28-1. 問28で「1. できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」又は「2. できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」と回答した方にお聞きします。どのような介護を希望しますか。〈○は1つ〉

【図4-4 希望する在宅の介護方法】

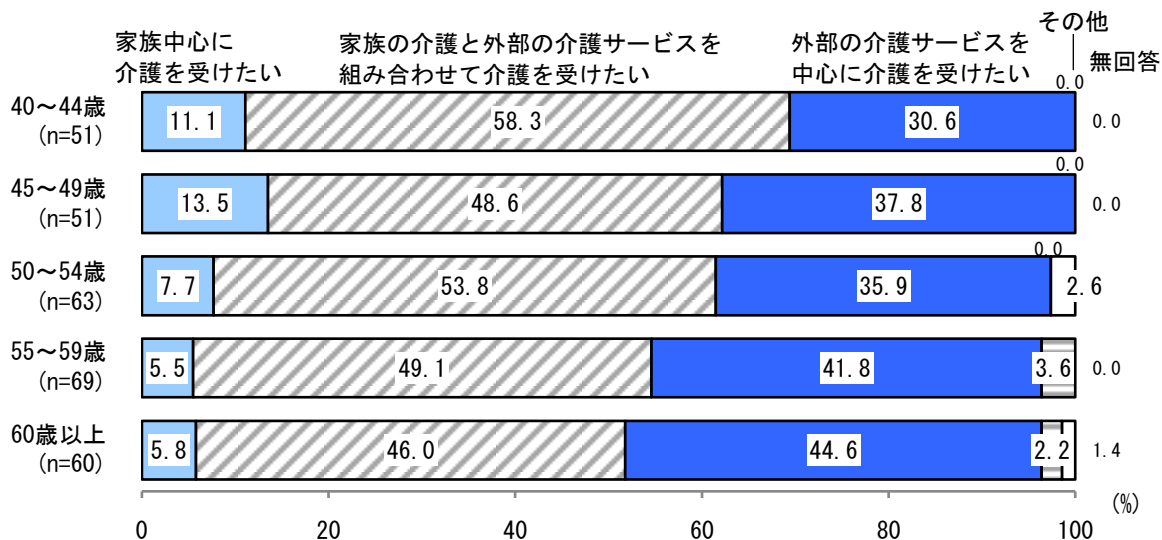


できるかぎり自宅で介護を受けたいと回答した人に、希望する在宅の介護方法をたずねたところ、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が50.8%で最も多く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が38.7%、「家族中心に介護を受けたい」が8.3%となっています。

前回調査と比較すると、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が5.1ポイント高くなっています。(図4-4)

年齢別で見ると、いずれの年代も「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が最も多く、40～44歳(58.3%)で最も高い割合となっています。また、「家族中心に介護を受けたい」の割合は45～49歳(13.5%)で最も高くなっています。(図4-4-1)

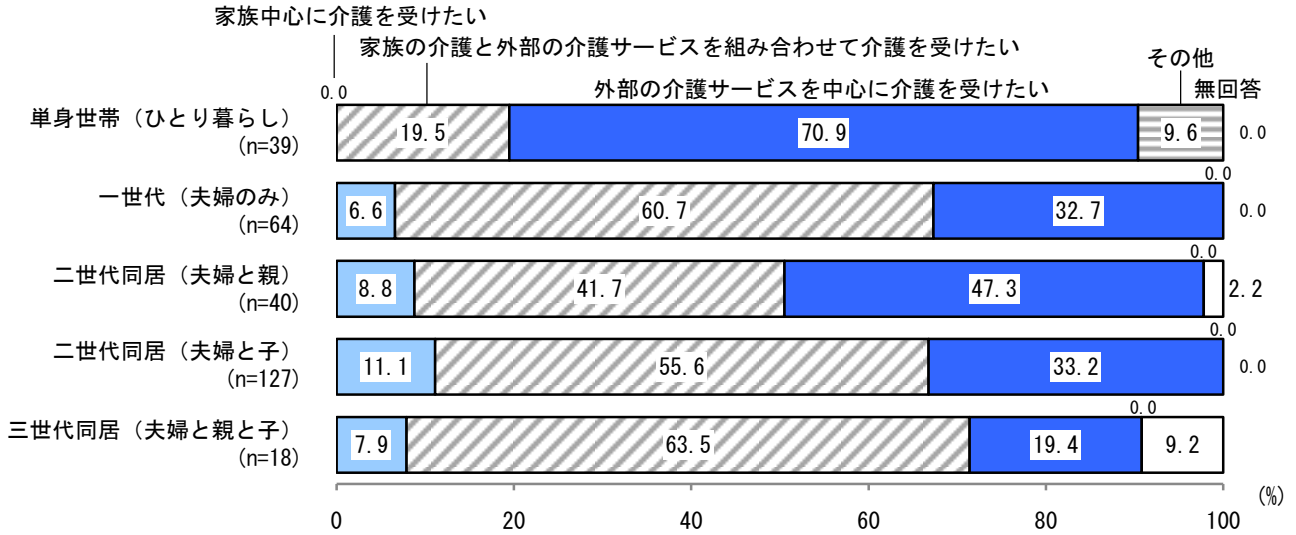
【図4-4-1 年齢別 希望する在宅の介護方法】



家族構成別で見ると、単身世帯（ひとり暮らし）と二世世代同居（夫婦と親）は「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が最も多く、特に単身世帯（ひとり暮らし）（70.9%）で他の世帯と比べて高い割合になっています。

同居者のいる世帯では「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が4割以上となっています。（図4-4-2）

【図 4-4-2 家族構成別 希望する在宅の介護方法】



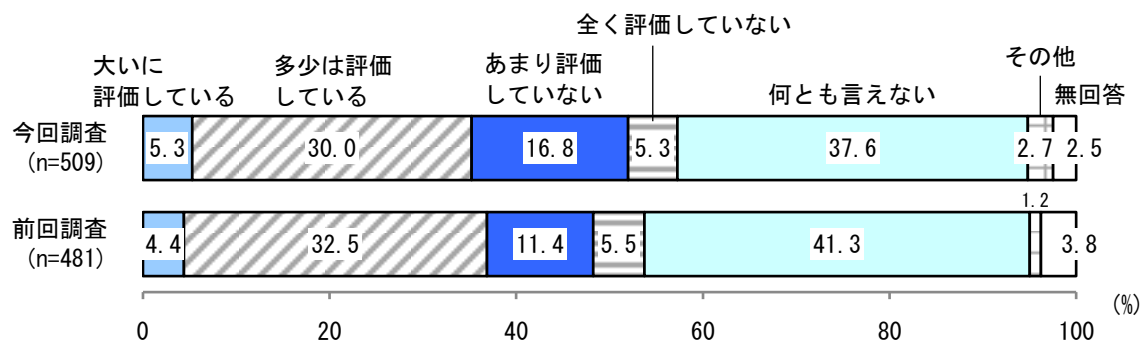
※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世世代同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

5 介護保険制度について

(1) 介護保険制度への評価

問29. あなたの介護保険制度への評価として、御自身の考えに近いものは次のどれですか。
 <○は1つ>

【図 5-1 介護保険制度への評価】

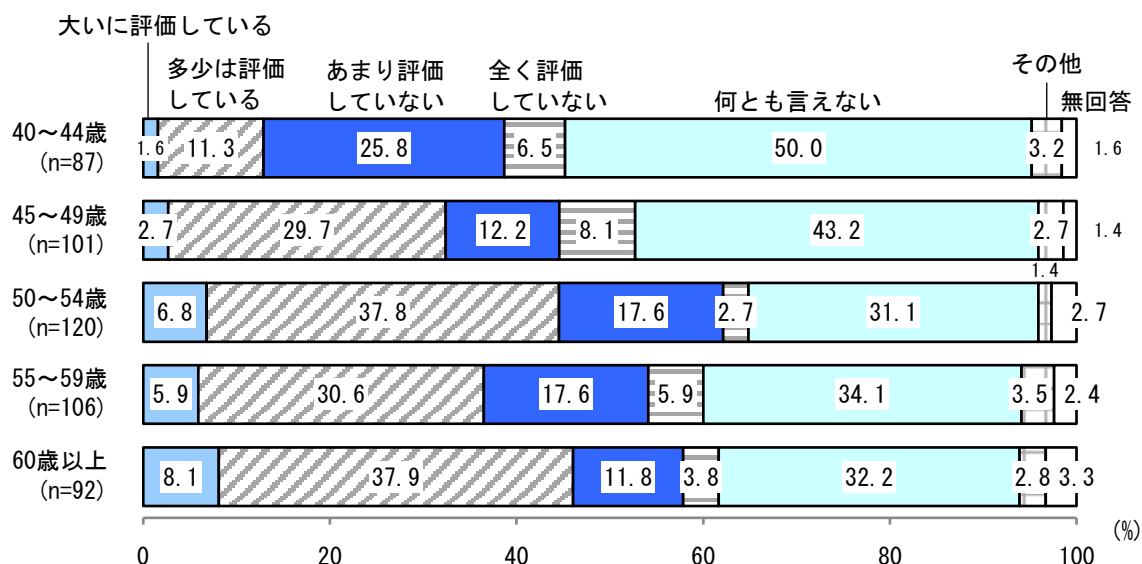


介護保険制度への評価については、「何とも言えない」が37.6%で最も多く、次いで「多少は評価している」が30.0%、「あまり評価していない」が16.8%となっており、「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた『評価している』は35.3%となっています。

前回調査と比較すると、「あまり評価していない」が5.4ポイント高くなっています。(図5-1)

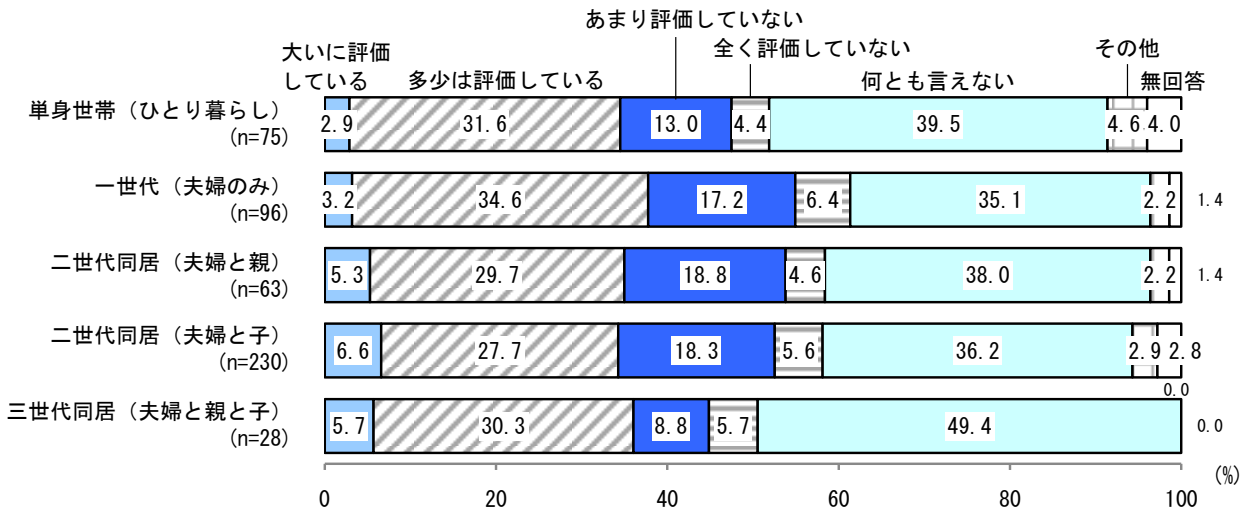
年齢別でみると、『評価している』割合では、60歳以上が46.0%で最も高く、次いで50～54歳が44.6%となっています。一方、「あまり評価していない」と「全く評価していない」を合わせた『評価していない』割合は40～44歳が32.3%で最も高くなっています。(図5-1-1)

【図 5-1-1 年齢別 介護保険制度への評価】



家族構成別でみると、『評価している』割合では、一世代（夫婦のみ）が37.8%で最も高く、次いで三世代同居（夫婦と親と子）が36.0%となっています。（図5-1-2）

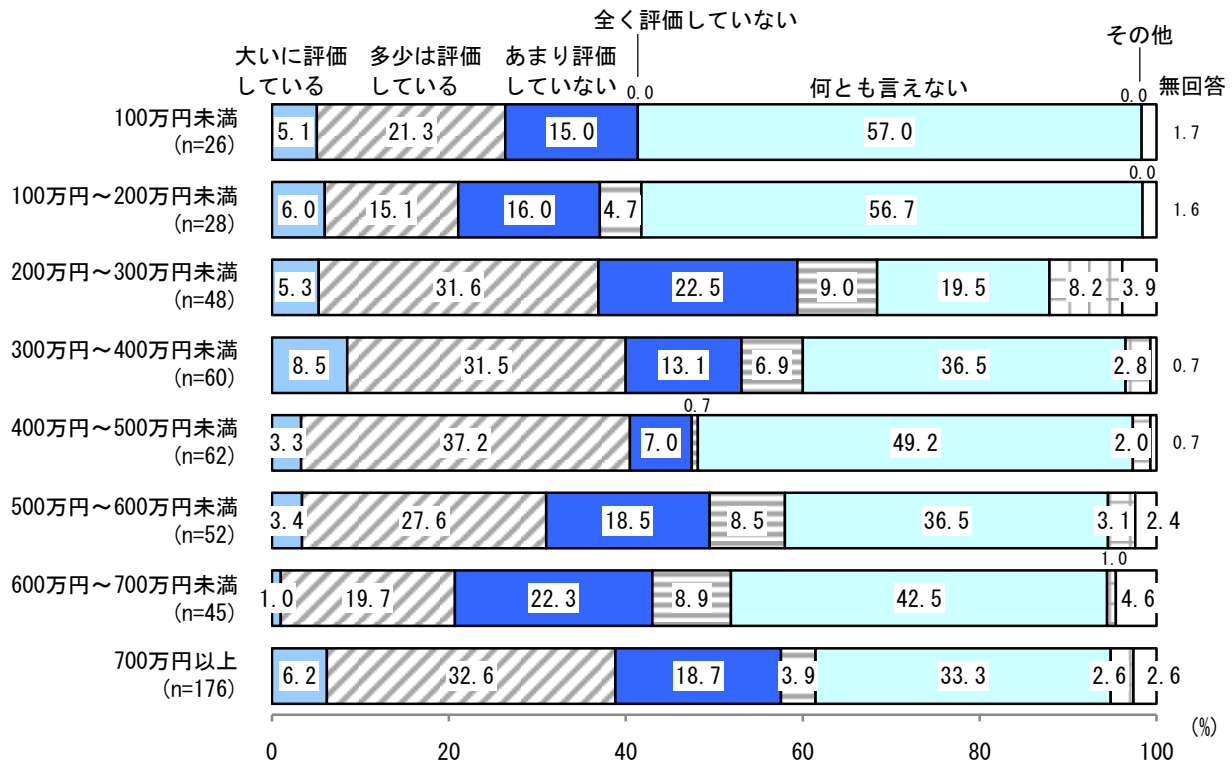
【図 5-1-2 家族構成別 介護保険制度への評価】



※「一世代（兄弟姉妹のみ）」「三世帯同居（夫婦と子と孫）」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

世帯の年間総収入別でみると、『評価している』割合では、400万円～500万円未満の世帯が40.5%で最も高く、次いで300万円～400万円未満の世帯が40.0%、700万円以上の世帯が38.8%となっています。なお、200万円未満の世帯と600万円～700万円未満の世帯が2割台と低くなっています。（図5-1-3）

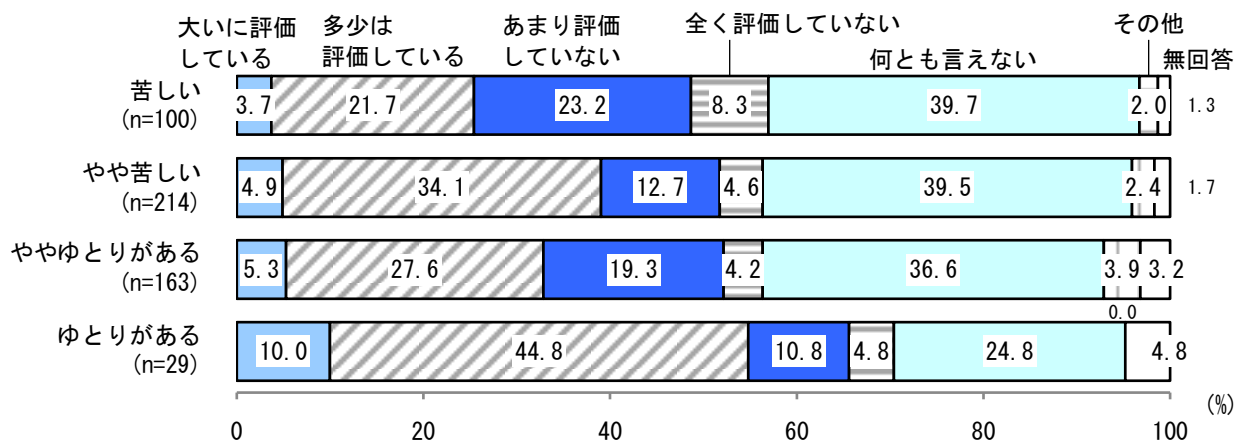
【図 5-1-3 世帯の年間総収入別 介護保険制度への評価】



※「50万円未満」の母数(n=7)は少ないので、「50万円～100万円未満」と合わせて集計しています。

経済状況別で見ると、経済的に苦しい人は『評価している』割合が25.4%に対し、『評価していない』割合は31.5%となっています。また、『評価している』割合では、経済的にゆとりがある人が54.8%で最も高く、次いでやや苦しい人が39.0%、ややゆとりがある人が32.9%となっています。(図5-1-4)

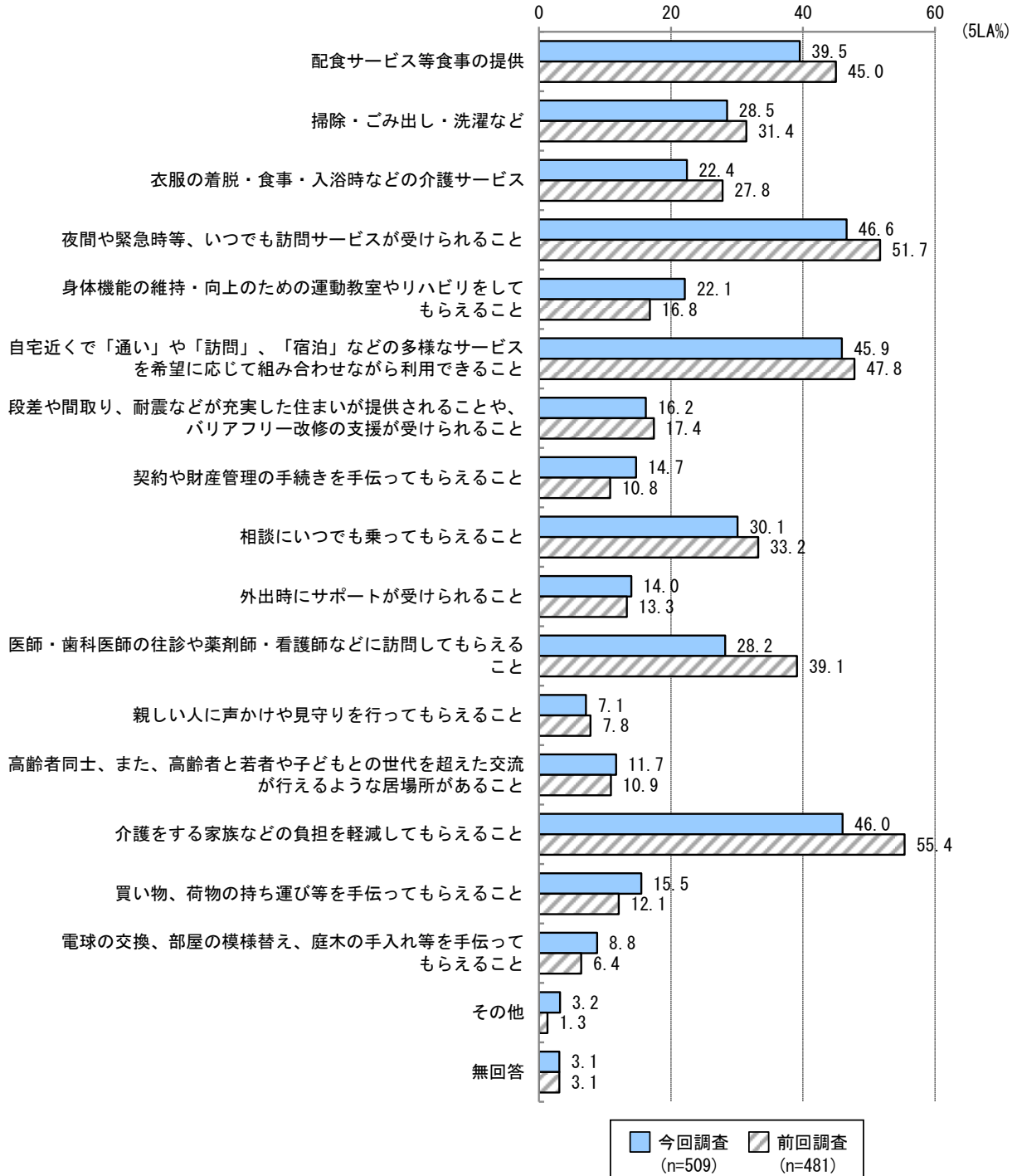
【図 5-1-4 経済状況別 介護保険制度への評価】



(2) 高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援

問30. あなたは高齢期になって、住み慣れた地域で生活するには、どのような支援を充実すべきだと思いますか。〈〇は5つまで〉

【図 5-2 高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援】

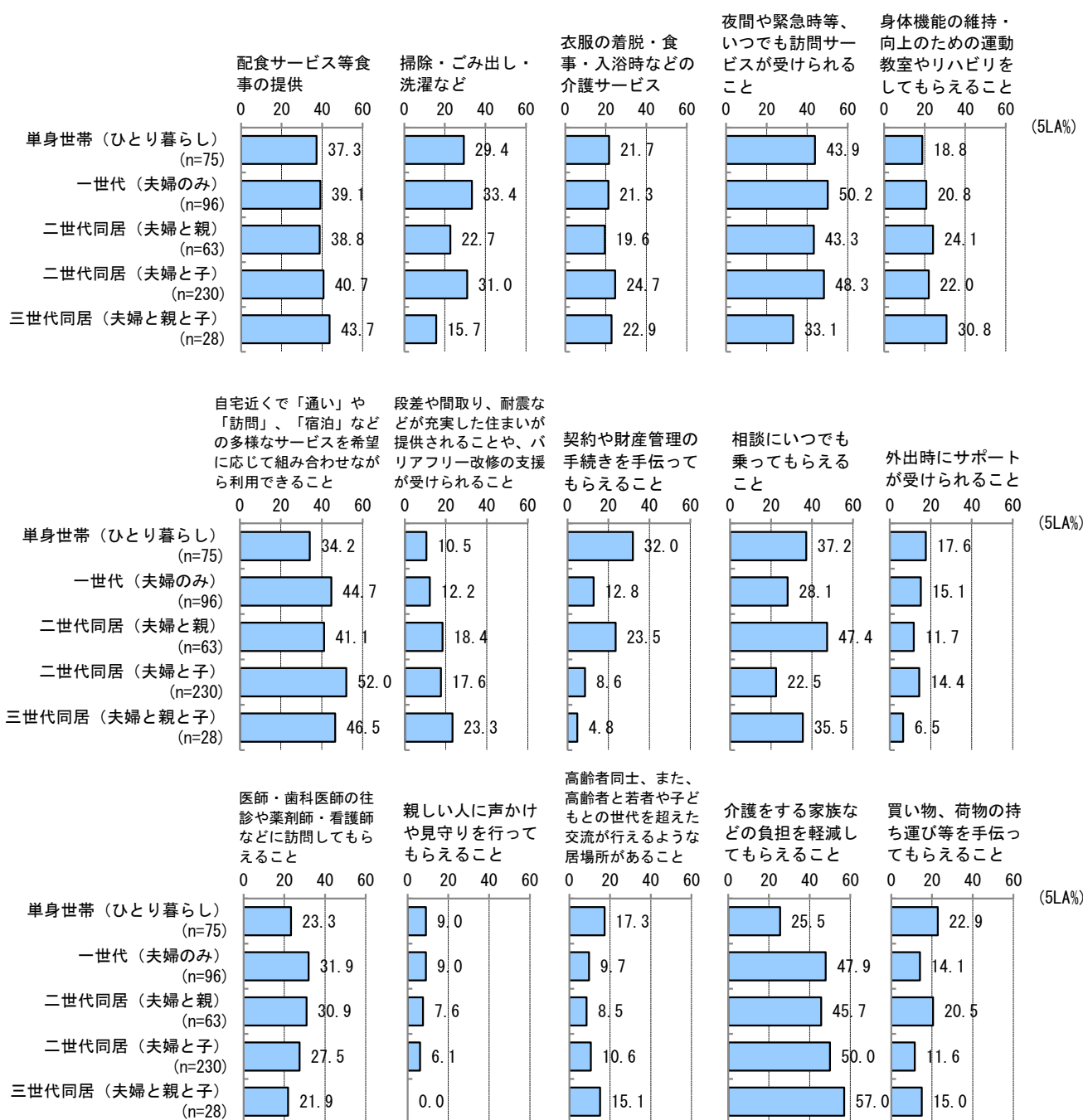


高齢期になって住み慣れた地域で生活続けるために充実すべき支援については、「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」が46.6%で最も多く、次いで「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が46.0%、「自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること」が45.9%となっています。前回調査と比較すると、「身体機能の維持・向上のための運動教室やリハビリをしてもらえる

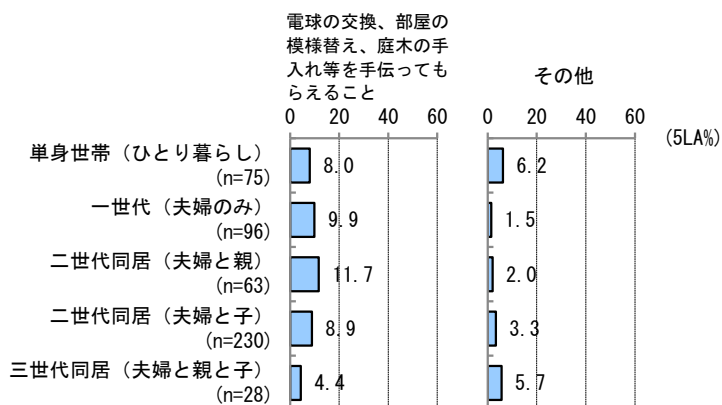
こと」が5.3ポイント、「契約や財産管理の手続きを手伝ってもらえること」が3.9ポイント高くなっています。一方で、「医師・歯科医師の往診や薬剤師・看護師などに訪問してもらえること」が10.9ポイント、「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」が9.4ポイント低くなっています。(図5-2)

家族構成別でみると、単身世帯(ひとり暮らし)や一世代(夫婦のみ)は「夜間や緊急時等、いつでも訪問サービスが受けられること」(ひとり暮らし 43.9%、夫婦のみ 50.2%)が最も多く、二世帯同居(夫婦と親)は「相談にいつでも乗ってもらえること」(47.4%)、二世帯同居(夫婦と子)は「自宅近くで「通い」や「訪問」、「宿泊」などの多様なサービスを希望に応じて組み合わせながら利用できること」(52.0%)、三世帯同居(夫婦と親と子)は「介護をする家族などの負担を軽減してもらえること」(57.0%)が最も多くなっています。(図5-2-1)

【図5-2-1 家族構成別 高齢期になって住み慣れた地域で生活するために充実すべき支援①】



【図 5-2-1 家族構成別 高齢期になって住み慣れた地域で生活を続けるために充実すべき支援②】

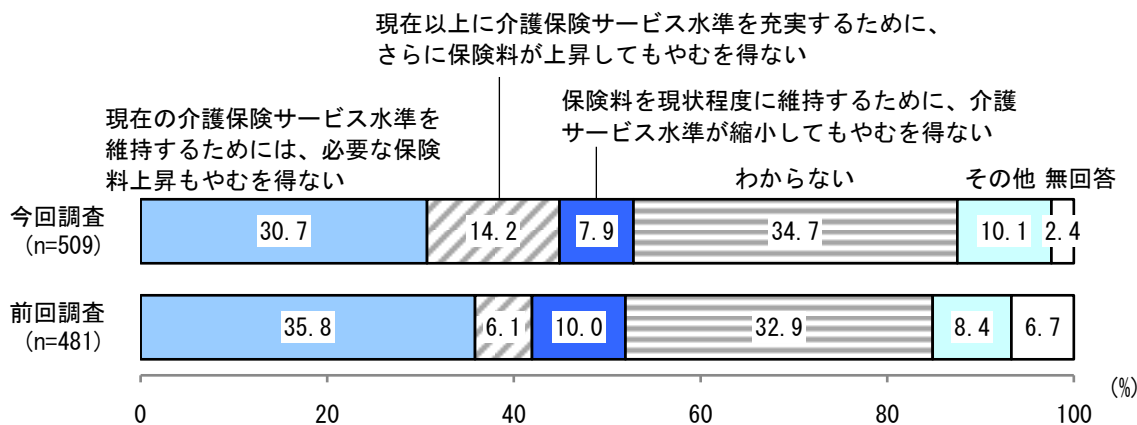


※「一世代 (兄弟姉妹のみ)」「三世帯同居 (夫婦と子と孫)」「その他」の母数(n=11 未満)は少ないので割愛します。

(3) 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方

問31. 介護保険料は、介護サービス等の利用に必要な費用を基に算定しています。一人当たりが使う介護サービスが同じであっても、介護サービスを利用する高齢者数が増加すると、介護保険事業全体の総費用は増加し、保険料が上昇することとなります。あなたは、今後の介護保険料と介護サービスのあり方について、御自身の考え方に近いものは次のどれですか。〈○は1つ〉

【図 5-3 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



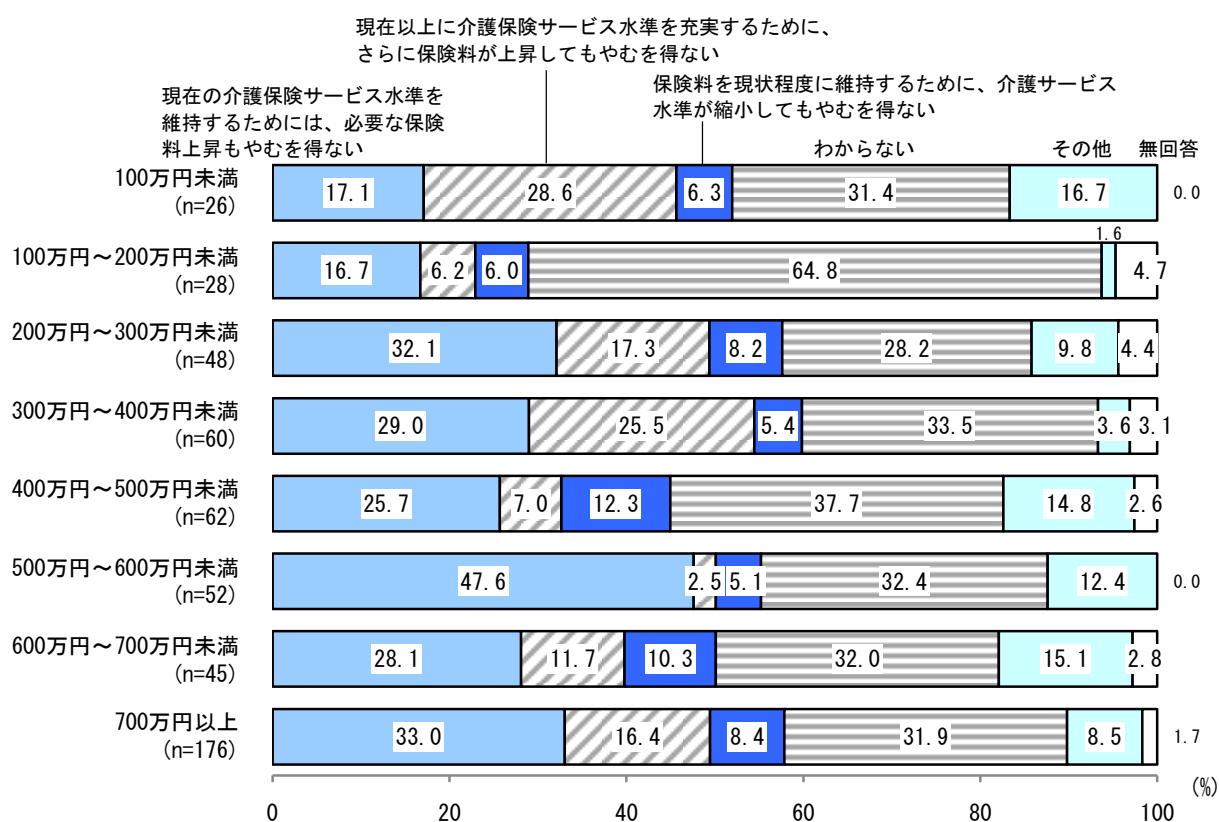
今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方については、「わからない」が34.7%で最も多く、次いで「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」が30.7%、「現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、さらに保険料が上昇してもやむを得ない」が14.2%となっています。

前回調査と比較すると、「現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、さらに保険料が上昇してもやむを得ない」が8.1ポイント高くなっています。(図5-3)

世帯の年間総収入別で見ると、「わからない」を除くと、100万円未満の世帯は「現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、さらに保険料が上昇してもやむを得ない」(28.6%)が最も多いですが、他の世帯では「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」が最も多くなっています。なお、「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」の割合は500万円～600万円未満の世帯が47.6%で最も高く、次いで700万円以上の世帯が33.0%、200万円～300万円未満の世帯が32.1%となっています。

一方、「保険料を現状程度に維持するために、介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」では、400万円～500万円未満の世帯が12.3%で最も高く、次いで600万円～700万円未満の世帯が10.3%となっています。(図5-3-1)

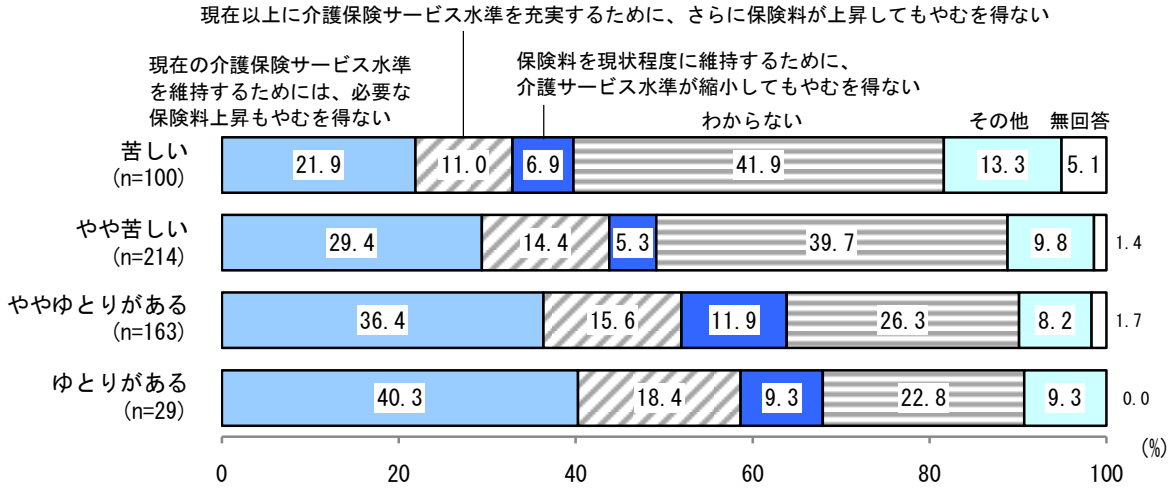
【図5-3-1 世帯の年間総収入別 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



※「50万円未満」の母数(n=7)は少ないので、「50万円～100万円未満」と合わせて集計しています。

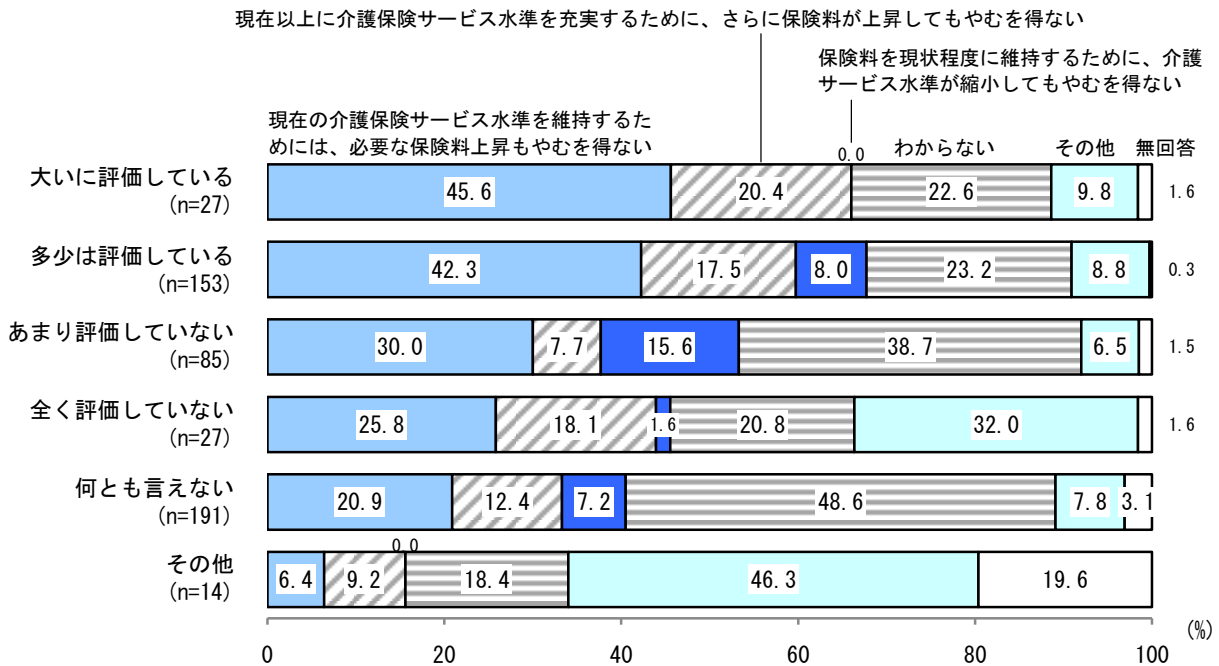
経済状況別で見ると、経済的にゆとりのある人ほど「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」と「現在以上に介護保険サービス水準を充実するために、さらに保険料が上昇してもやむを得ない」の割合が高くなっています。(図5-3-2)

【図5-3-2 経済状況別 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



介護保険制度への評価別で見ると、評価している人ほど「現在の介護保険サービス水準を維持するためには、必要な保険料上昇もやむを得ない」が高い割合になっています。一方、「保険料を現状程度に維持するために、介護サービス水準が縮小してもやむを得ない」では、あまり評価していない人が15.6%と比較的高い割合になっています。(図5-3-3)

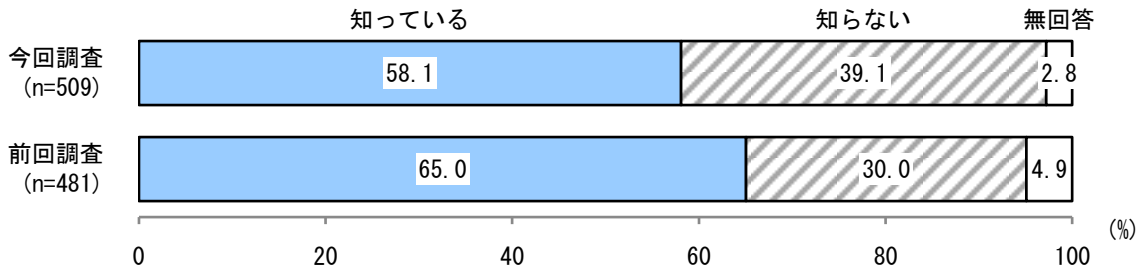
【図5-3-3 介護保険制度への評価別 今後の介護保険料と介護サービスのあり方に対する考え方】



(4) 成年後見制度の認知度

問32. 成年後見制度とは、認知症や障害などの理由で判断能力の不十分な人に代わり、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりする支援を行う制度です。あなたは成年後見制度を知っていますか。
 <○は1つ>

【図 5-4 成年後見制度の認知度】

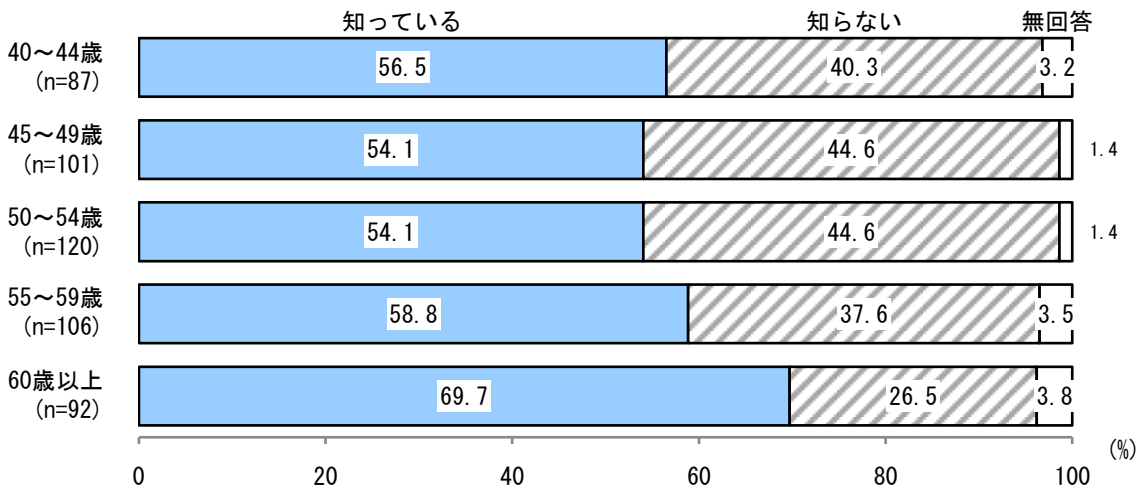


成年後見制度を知っているかについては、「知っている」が58.1%、「知らない」が39.1%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が9.1ポイント高くなっています。(図5-4)

年齢別でみると、「知っている」割合は概ね年代が上がるほど割合が高くなり、60歳以上が69.7%と最も高くなっています。(図5-4-1)

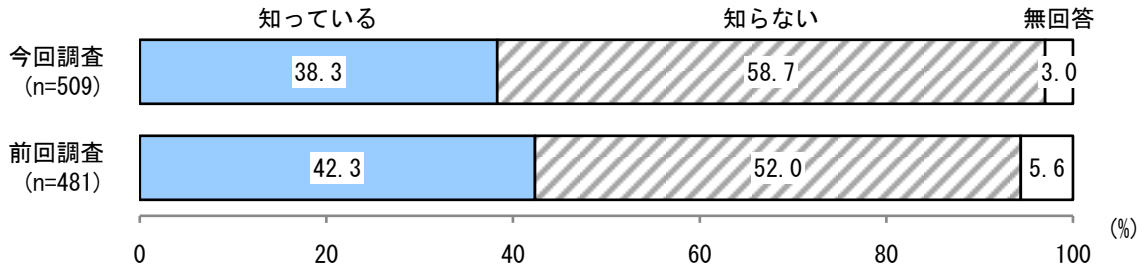
【図 5-4-1 年齢別 成年後見制度の認知度】



(5) 任意後見制度の認知度

問33. 任意後見制度とは、成年後見制度の1つで、判断能力がある間に、本人が選んだ任意後見人と公正証書で契約しておき、本人の判断能力が低下した後、契約に基づき、本人の契約行為や財産管理を支援する制度です。あなたは任意後見制度を知っていますか。
 <○は1つ>

【図 5-5 任意後見制度の認知度】

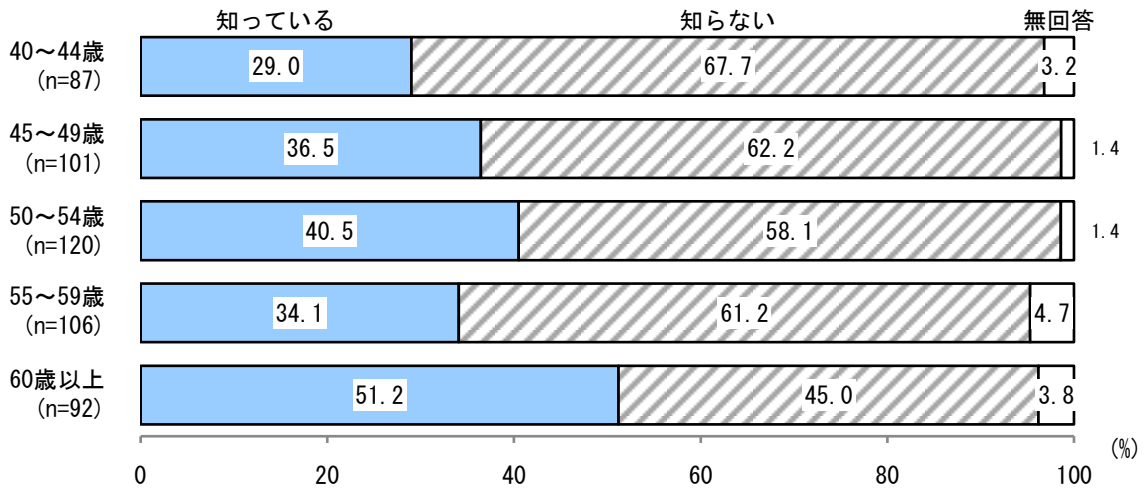


任意後見制度を知っているかについては、「知っている」が38.3%、「知らない」が58.7%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が6.7ポイント高くなっています。(図5-5)

年齢別でみると、「知っている」割合は60歳以上が51.2%で最も高く、それ以外の年代では「知らない」割合のほうが多くなっている。(図5-5-1)

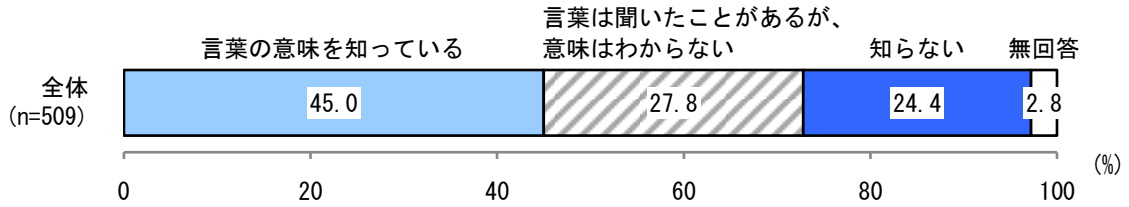
【図 5-5-1 年齢別 任意後見制度の認知度】



(6) ケアラーという言葉の認知度

問34. 本市では、令和6年11月に「京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例」（ケアラー支援条例）を制定しました。あなたは「ケアラー」という言葉を知っていますか。
 <○は1つ>

【図5-6 ケアラーという言葉の認知度】



ケアラーという言葉の認知度については、「言葉の意味を知っている」が45.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、意味はわからない」が27.8%、「知らない」が24.4%となっています。（図5-6）

年齢別でみると、いずれの年代も「言葉の意味を知っている」が最も多く、なかでも50～54歳（48.6%）が最も高く、次いで60歳以上（47.4%）となっています。（図5-6-1）

【図5-6-1 年齢別 ケアラーという言葉の認知度】

